



子どもクラスを担当 するにあたって 1 学年

ルビ・インスティテュート



Book 3

子どもクラスを担当するにあたって 1学年

Teaching Children's Classes
Grade1

ルビ・インスティテュート

ブック
Book3

Version 2.2.6.PE.PV

2023年9月5日 更新

教材のシリーズ

ルヒ・インスティテュートが開発したこの一連のコースのタイトルを下に挙げます。これらのブックは共同体に奉仕する若者や大人たちの能力を強化するための系統的な取り組みにおいて継続的な幹コースとして使うよう計画されています。ルヒ・インスティテュートはまた、子どもクラスの教師を訓練するためのシリーズにブック3から枝として出る一連のコースと、そして、ジュニアユース・グループのアニメーターを育てるコース ブック5 から出る一連のコースを開発しております。それらもまた、このリストに示します。このリストは領域の広がりに伴って変化し続け、開発中のカリキュラムの要件の数が広範になるにつれて追加されるであろうということも伝えておきます。

- Book 1 精神の生命を考える
- Book 2 奉仕に立ち上がろう
- Book 3 子どもクラスを担当するにあたって 1年生
2年生(枝コース)
3年生(枝コース)
4年生向け(枝コース)
- Book 4 一対の神の顕示者
- Book 5 ジュニアユースの力を放出させる
最初の推進力: Book5 最初の枝コース
拡大する輪: Book5 2番目の枝コース
- Book 6 教えを広める
- Book 7 奉仕の道を共に歩もう
- Book 8 バハオラの聖約
- Book 9 歴史的展望を得る
- Book 10 活気に満ちた共同体建設
- Book 11 物質的手段
- Book 12 家族と共同体
- Book 13 社会的活動との関わり
- Book 14 社会的談話への参加

Copyright © 2022 by the Ruhi Foundation, Colombia
All rights reserved. Edition 2.2.6.PE.PV (provisional translation) published September 2023
Printed in Japan

Originally published in Spanish as *Enseñar clases para niños, primer grado*
Copyright © 1987, 1996, 2021 by the Ruhi Foundation, Colombia
ISBN 978-958-52941-7-2

Permission for a limited printing of this book in Japanese has been granted by the Ruhi Institute.

Ruhi Institute
Cali, Colombia
Email: instituto@ruhi.org
Website: www.ruhi.org

目次

チューターのためのいくつかの考察	v
第一章 バハイ教育についての幾つかの精神的原則	1
第二章 1年生 子どもクラスのためのレッスン	51
子どものための24レッスン	99

チューターのためのいくつかの考察

このブックは、近隣や村で、子どもたちの精神的教育のための定期的なクラスで教えるという大いに価値ある活動を行うために、増え続ける個人の能力を高めようとする二つの章をまとめたものです。これはルビ・インスティテュートの幹コースの三番目のもので、この奉仕に従事したいと望む人たちのために特別な奉仕の道を開く最初のもので、この奉仕をしようと決めた参加者は、幹コースがたどる道に沿って、それぞれに自分の状況にあったペースでコースを先に進みながら、子どもたちを教えるための一連の枝のコースを学び続けます。

このブックを通してグループを導くとき、チューターは上記のビジョンを念頭におく必要があります。つまり、参加者の一部の人だけが活動のこの分野に専念することを選ぶだろうということです。このブックは、その直接的な目的以上に、今や、奉仕の道に確固としているすべての人に村や近隣で展開されている青少年のための教育プログラムを形づくる概念や考え方のいくつかについて、よく知ってもらう上でもっと広く役に立つでしょう。この観点で、このブックは、子どもたちを精神的に養育する義務と、大人たちが子どもたちとの交流で示さなければならない資質や姿勢、行動の両方についての意識を共同体内に高める助けになると期待されます。

ブック2第2章の学びから、参加者はすでに、教育には、物質的、人間的、精神的教育の三つがあるというアブドル・バハの説明を熟知しているでしょう。ここで、彼らには精神的教育についての理解を深める機会が与えられます。その精神的教育によって、個人の精神的性質、より高い性質が発達します。最初から明確にすべきことは、バハイ信教で考えられている子どもたちのための精神的教育は、時に宗教的な教えと結合した独断的信念の押し付けとは基本的に異なるということです。それよりも、知識への愛着、学びに対する開放的な姿勢、真実探求への飽くなき願望を育むことを目指します。

若い人たちの教育において、宗教的教訓を一掃することはできません。そうすることは彼らが聖なる真理や精神的原則、つまり、彼らの考えや行動を決定する原則に行き着くのを遮断するからです。次のような主張があります。つまり、若い人たちは、自由な選択によって、社会の相互の関わりから自分自身の基準や世界観を身につけるのが最善である、と。しかし、このような主張を支持する人たちは、政治的、経済的、あるいは文化的な力がいかに強烈に、それら自身の利益に役立つ信念や行動のパターンを助長しているかについて正しく認識していないのではないのでしょうか。たとえそうでないとしても、後の世代の人たちが個人の精神的資質を育む教育なしにより良い世界を築くことができると想定する根拠はありません。聖なる教育者の導きのない人類は、混沌、不正義、苦難以外のものを生み出すことはできません。

ですから、このブック、そしてここから枝としてでる教材で想定されている六年間の子ども教育プログラムの中心となるのはバハイの教えです。と言っても、このプログラムのデザイン、特に全学年(Grade)を通しての内容の連続性は、あらゆる背景をもつ子どもたちに、参加する道を開くものです。一年生向けのレッスンは5、6歳児の精神的資質の発達に関係し、それは、性格を磨くのを助ける活動です。2年生向けは、これらの学習を基礎として、前の年に探求した内面の資質を表現する習慣と行動様式を養います。例えば、お祈りの習慣、それは神に近付きたいという願いに特徴づけられた内的状態を表現します。次の学年(注: 3～5学年)は知識という課題に移ります。特に、自分自身の精神性発達のために意識的に努力するとき、個人は、神の知識が流れ出る「源泉」に繋げられなければなりません。この時代に送られた一對の神の顕示者、および彼らより前に現れた顕示者たちの人生を中心にしたテーマは、これらの学年のレッスンで話合われます。最終学年では、アブドル・バハの説明や模範の助けで導かれ、その恩恵を受けながら、バハオラの啓示に関する知識を深める機会を提供します。これにより、子どもたちが人生を歩み、自分たちの考えや行動をバハオラの教えに一致させようと努めるとき、バハオラの聖典や言葉に向かう習慣を強める助けになることが期待されています。11、2歳になる頃までには、彼らはジュニアユースの精神性を高めるプログラムへの道に入る用意ができています。このプログラムで、アニメーターと共に学ぶ一連のテキスト ——バハイ子どもクラスで受けた教育を継続するテキストを含む ——を通して、その意識の高まりはさらに広がっていくでしょう。向上心に燃えている子どもクラス教師は、バハイではない両親が自分たちの息子や娘をそのようなクラスに送る機会を歓迎し、わが子らの若い心や理性に対する精神的教育の効果を見て必ず喜ぶということに確信を持つ必要があります。

上記のように、1年生のクラスは資質を磨くことに焦点を当てます。ですから、この文脈の中で、第1章「バハイ教育のいくつかの原則」は、教育に深遠な含意を持つ信教の聖典から集められた特定の基本的概念を調べます。この章の前半はこれに関する話し合いに費やされ、残りの部分では、レッスンを実施する際に、また、保護者と教師との関係でどのようなアプローチがとられ得るかを見ます。

この章で話し合う最初の概念の一つは、人間の可能性です。それは、人間を「計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山」にたとえる、バハオラの主張に基づく比喩的表現を通して探られます。参加者は、この主張から引き出される二つの直接的な意味について熟考するよう求められます。すなわち、生徒たちを情報で満たされるのを待っている空っぽの容器とみなす教育的アプローチは退けるべきであるということ、そして、適切な教育なしには子どもたちは自分の内奥に潜む多くの宝石を表すことはできないということ、です。

第1章は、すべての人に付与されている宝石のうち、「精神的な資質」と呼ばれるものを、高貴で高潔な人格をその上に築くことができる永久的な構造として捉えています。「精神的な資質」は「美德」(スキルや能力だけでなく、習慣や態度など、あらゆる称賛に値する属性の総称)と区別して考えることが、参加者全員が十分に理解すべき本質的な考えです。セクション6と7ではこの主張の含意のいくつかを熟考します。チューターは、グループのメンバーがここで話されていることをブック1の第3章で学習したことと関連づけるのを確実にしたいでしょう。そこでは、人の魂の能力としての精神的な資質は、神へ向かう永遠の旅を助けるためにこの世でどのように発達させなければならぬかについて考えました。神の愛と、神についての知識は、精神的な資質を養う上で不可欠です。この2つのセクションの考え方が、例えば、時間を守ることと誠実であることを同じ種類の属性として扱う美德のコースと、1学年のレッスンをどのように区別しているかを参加者が理解することが重要です。そして、教師がこの区別を理解すれば、善良な人格の育成を主に行動の修正という観点から見る傾向を避けることにつながるでしょう。

もちろん、精神的な資質には独自の力学があり、レッスンの核となる要素—— 祈り、引用文の暗記、物語—— は特にそれを育むことを目的としています。参加者はすでにブック1と2の学習でこれらの要素の資質について幾らかの洞察を得ています。そして、セクション8では学んだことを子どもたちに教えるという任務にまで広げるのを助けようとしています。その際、精神的な資質を養うために、レッスンにおいて、子どもたちは神の言葉に直接触れ、そして、人間の最高の理想を体現しているアブドル・バハの物語に触発されるということを認識すべきです。

この章で調べる、もう一つの概念は神への^{おそ}畏れです。これはセクション12で取り上げられています。バハイの聖典によると、これは人間教育の「最も重要な要素」です。参加者が理解すべき重要な点は、この畏れは神の愛と不可分であるということです。なぜなら、これは私たちが愛する御方を喜ばせたい、彼の愛の恵みが私たちに届くのを妨げるあらゆる行動を避けたいという願望から生じる畏れだからです。愛がなければ、私たちに見苦しい行為を拒否させる^{いか}畏れは、怒れる神による懲罰への畏れという別の種類のものです。これは子どもたちの心に入り込むべきではないイメージです。熱心な教師は、教育課程で神への愛と神への畏れの関係をしっかりと把握する必要があります。一方、これはクラスであからさまに持ち上げるテーマではないということを認識する必要があります。むしろ、生徒の心の中に神の愛の炎を燃え立たせること、そして、無限の愛から人間を創られた神は、人間を養い、守ってくださることを決して止めはしないという絶対的な確信を得るための手助けをすることを学ばなければならないのです。最終的には、神のお喜びに反するような行いを彼らに思いとどまらせるものは、神の美への愛なのです。

上に述べた概念や考え方についての話し合いで参加者は、最終的に、子どもたちは精神的教育のプロセスを通して、精神的な資質の習得をそれ自体が報酬であり、恥ずべき性格の所有を最大の罰とみなすようになるべきであるという理解に達するでしょう。そして、この全てを通して、参加者は子どもたちの行動の変化を、中心的な目的としてではなく、性格の洗練を助けるものとして適切な視点から見るができるようになります。したがって、子どもたちとの関わりの中で、望ましい行動を奨励し、ふさわしくない行動パターンを阻止する適切な方法を見つけるでしょう。そのいくつかはセクション13で述べられています。このセクションで簡単に取り上げているその他の概念は、自由と規律に関するものです。子ども教育において厳しい罰は明らかに間違いですが、自分の思い通りにする完全な自由を許すことも、その精神的発達に同じほどの害を及ぼします。

この章は、次に、喜びに満ちた学びの環境を作りながら、クラスにどのように秩序と規律を維持するかという課題に移ります。ほとんどの参加者はこれまでに子どもたちを教えた経験がないということをチューターは、覚えておくべきです。ですから、ここでは検討のためのほんの初歩的な考えだけを提供します。参加者は、奉仕のこの活動を引き受けてから、関連するセクションに立ち返り、経験に照らしてそこで取り上げられている考えを熟考するのによいでしょう。

参加者は続いて、このレッスンを構成する活動に子どもたちを参加させる際に従うべきいくつかのアプローチを検討します。上で強調したお祈り、引用文の暗記、物語といった核となる要素に加えて、これらの活動には歌、ゲーム、ぬり絵が含まれます。利用可能なアプローチを分析する際、参加者は、純粋という精神的な資質について最初のレッスンを振り返ります。

最後に、セクション26で、参加者は、クラスの子どもたちの保護者と教師との間で繰り広げられる進行中の会話の性質を検討します。このセクションは、参加者がこれに関してブック2ですでに学習したことと、その後、拡大し続ける、核となる友らの一人として、その村や近隣でクラスに参加する子どもがいる家庭を訪問することで得た経験に基づいています。チューターは、参加者が保護者との会話に備えて、この最初の章の概念を再検討するよう求める練習を行うために十分な時間を確保する必要があります。この練習問題はグループのメンバーが、話し合われるたくさんの概念や考え方を心に刻み込む手段として役に立つでしょう。

第2章「1年生 子どもクラスレッスン」は二つの部で構成されています。それらは、この学年に向けて提案する24のレッスンと、教師がこのレッスンの内容に精通するのを助けるために作られた予備的なセクションで、それぞれは精神的な資質の発達を中心に作られています。予備のセクションでは一度に4つのレッスンをを用いて、それぞれの核となる要素を振り返りながら参加者を導きます。そこでは、前の章で行ったのとほぼ同じ方法で、まず、純粋について分析します。

バハイの聖典からの引用文は全てのレッスンの主要な構成要素です。それは、教師が子どもたちに引用文を紹介する際に使うよう勧められている短い説明文を伴います。簡潔ではありますが、この説明文には聖典から引用した言葉やイメージが使われており、子どもたちが、取り上げられた精神的な資質を特徴づける力学を心に描き始めるのに役立ちます。教師は、自然な方法でこの紹介の言葉を伝え、生徒がこれらの力学に対する洞察を得られるよう支援する能力を、経験を通して、また、レッスンで話し合われている精神的な資質について継続的に熟考することによって伸ばすことができます。この観点から、参加者は、それぞれの資質が個人の生活において、また教育活動においてどのような意味を持つのか、最初に考えることを求められます。そのためにそれぞれの資質に関連するいくつかの引用を掲載しました。

そのような考察をしてから、参加者は次に、検討してきた資質を説明する物語を調べます。主にアブドル・バハの人生から収集した物語は、人間の魂の属性としての精神的な資質の無限の現れを、子どもたちに垣間見せることを意図したものです。このために、教師が一連の出来事を超えて、探究している精神的実在を見つめるのを助けるため、各物語にいくつかの質問が用意されています。特に、アブドル・バハについての物語では、教師が語りの中で、アブドル・バハがいかに完璧に精神的資質を現していたかに重点を置き、即物的で表面的な相関関係によって子どもたちが彼の行動の真の意味を見落とすことがないように、これらの質問が考案されているのです。

参加者はこの方法で4つのレッスンをグループ分けして分析した後、第1章で話し合ったアプローチを取り入れながら、自分たちで様々な要素を練習する時間をとります。この練習の構成要素の重要性を過小評価することはできません。これからは、グループのメンバーが教師としての能力を高めるために、チューターが支援することが多くなります。レッスンの学習を4セットに編成することで、この点に関してある程度の柔軟性が与えられます。チューターは、必要に応じて、子どもクラスのためのインスティチュート・コーディネーターと協議しながら、どのように上手く進めるかについて、いくつかの考えを出す必要があります。参加者は、この奉仕活動を行う前に、実践を含む全ての章の学習を完了することが可能な場合があります。その場合、クラス開催を希望する人は、ブック 3を修了した後、自分でクラスを始めるか、他の先生と一緒にアクティビティを手伝うなどして、速やかに経験を積むことが不可欠です。しかし、他の状況下では、参加者は、例えば1〜2セットの4つのレッスンの学習と実践を終えた後に、同様の内容を教えるという経験を積み始めることが有益である場合もあります。その後、チューターは適切な間隔で、参加者の経験の度合いに照らして、さらに4つのレッスンの学習と練習を重ねます。ここで、予備のセクションが4つのレッスンのグループに分かれていることは、その中で扱われている精神的な資質が特別に関連していることを意味するものではないことを述べておく必要があるでしょう。

そのような組み合わせに関係なく、教師はそのレッスンに完全に精通し、それぞれのクラスのための十分な準備が欠かせません。子どもクラスは、教師が、本を淡々と読むのではなく、祈りや引用文を暗唱することを学び、レッスンのための引用文を紹介する準備をし、物語を語る練習をしておくと、さらに上手いくでしょう。この種の準備の他には、ゲームのためのいくつかの材料やぬり絵の用紙、クレヨン以外にクラスに必要な物品や資源はほとんどありません。第2章の最後に付いているぬり絵のページはコピーするか、別の紙になぞって複写することができます。さらに、それらは印刷するためにルビ・インスティテュートのウェブサイトからダウンロードすることも可能です。また、1年生向けの歌の録音もウェブサイトで提供されていて、教師はクラスを準備するために自分用にそれを使うだけでなく、子どもたちに歌を教える助けとしても使えるでしょう。共同体の子どものためにクラスを始める人たちは、自分たちの活動を記録するノートを取るようにお勧めします。それがあれば、必要な情報がすぐに手に入り、準備と振り返りのパターンを強めることができるでしょう。

1年生向けの24のレッスンは、それぞれが通常、一回のクラスで終わることができるように作られていると言う点をはっきりさせておくことに価値があるでしょう。1レッスンの要素を二回に分けて実施することは活動を不必要に長引かせるようなことにもなります。しかし、もっと重大なのは、学びのプロセスの有効性を損なう可能性があるということです。つまり、それぞれ強さのレベルは異なりますが、全て一つの精神的な資質を中心に展開される活動の中にリズムを確立することが不可欠です。

最後に、教育課程における教師と生徒たちの関係について、一言述べておくべきでしょう。このテーマは、第1章のセクション9と10で取り上げていますが、このブック全体に暗示されています。全ての教師は、子どもたちとの活動に、1年生向けで学習する精神的資質の全てを持ち込むよう最大限の努力をすることは明らかです。それら資質の中で、愛以上に重要なものはありません。愛は、神への愛の反映です。この愛は教師が作り出す環境—— クラスの前の準備の程度、開始時に唱えるお祈り、生徒たちとの交流での言葉づかい、生徒たちの進歩を励まし、褒める方法の中に感じられるでしょう。



第一章 バハイ教育のいくつかの原則

目的

バハイの聖典に見られる
教育に関するいくつかの原則と概念を
調べ、子どもを精神的に育てるクラスの
あり方について熟考する

セクション1

ルビ・インスティテュートの3番目の本書は、奉仕の中でも最も価値ある活動の一つ、つまり、子どもたちの精神的教育のためにバハイ・クラスで教えることについて紹介するものです。このブックを勉強し、その練習課題を実践した後、もしあなたが幾らかの時間とエネルギーをこの活動に捧げることにしたなら、あなたには自分の共同体で、6年間の教育プログラムの最初の学年に入る子どもたちのために毎週のクラスを始める準備ができたことになります。もちろん、あなたはこのクラスを担当しながら、幹コースの学習を継続するでしょう。

子どもたちを教えることは、あなたが歩む道における奉仕のいくつかの活動の単なる一つでしかありません。たとえ、この奉仕に携わることを選ばないとしても、このコースの学習は価値があるでしょう。あなたの村や町、あるいは近隣地区における共同体作りのプロセスに貢献する中で、小さな子どもたちと交流する機会がたくさん出てくるでしょうから、ここでの学習から得た洞察を頻繁に利用できるでしょう。ここでちょっと、以下の万国正義院の声明がもたらす、子どもたちに対する見方について熟考しましょう。

子どもたちは、共同体が所有する最も貴重な宝です。将来の希望と保障は子どもたちと共にあるからです。将来の社会がどのような性質のものになるか、その種は子どもたちが持っています。社会の性質は、共同体の大人たちが子どもたちに対して行なうこと、もしくは、怠ることによって概ね決定されます。いかなる共同体も、子どもという信託を無視して無事ではあり得ないのです。大人が子どもたちに示すもの、すなわち、すべてを包み込む愛情、接し方、配慮の質、言動に含まれる精神、これらはすべて必要とされる態度の重要な要素です。¹

このブックの第2章に提供されている一年目のレッスンは簡単です。それぞれが一つの精神的資質の発達に焦点を当てた一連の活動で構成されています。子どもたちはお祈りや聖典からの引用文を暗記し、物語や教えについての説明を聞き、ぬり絵やお絵かき、ゲームをし、歌を歌うよう促されます。これらのレッスンを提供するために、教育の分野に関する多くの知識は必要ありません。あなたが教師としてなんらかの正式な訓練を受けているか否かに関係なく、このコースは、毎週、効果的に子どもクラスを実施できるように訓練します。ブック3の枝として出ているコースを学

習し、経験を積むにつれ、多くの教育の基本的な課題について考える機会を持つでしょう。おそらく、最初はこれらのレッスン・プランに厳密に従うでしょうが、徐々に自分で作ったものを追加して、レッスンの内容をますます高めることができるようになるでしょう。

セクション2

以下のバハオラとアブドル・バハの言葉を熟考しましょう。これらは教師の仕事内容の価値を認識する助けとなります。先生として奉仕するとき、これらを思い出せるように暗記してはどうでしょう。

子どもたちを指導し、与え給う御方、敬愛され給う御方なる神の道に
人々を導くために立ち上がる教師に祝福あれ。²

人間が全能なる神に捧げることができるあらゆる奉仕で最も偉大なもの
の中に、子どもたちの教育と訓練がある…。³

明確な聖典によれば、子どもたちを教えることは不可欠、かつ必須である。教師たちは礼拝に等しいこの任務を果たすために立ちあがったのであるから、彼らは主なる神の僕である。あなた方は、自分たちの精神的な子どもを教育しているのであるから、息をするたびに、賛美を捧げなければならない。⁴

1. これらの言葉の意味を熟考しながら、以下の文章の空欄を埋めましょう。

子どもたちを____、____御方、____御方なる神の____に人々を____
____ために立ち上がる____に____あれ。

人間が全能なる神に捧げることができるあらゆる____で____、子どもたちの
____と____がある…。

明確な聖典によれば、子どもたちを教えることは____、かつ____である。____
は____に____この任務を果たすために____のであるから、彼らは主なる神の

僕である。あなた方は、自分たちの_____を教育しているのであるから、息をするたびに、_____を捧げなければならない。

2. 私たちがこれまでに学んできたことに基づいて、以下の文章は真実かどうか決めましょう。

_____ 両親や、教師、共同体はみな、子どもたちの精神的教育の責任を共有する。

_____ 全ての共同体は子どもたちの精神的教育のためのクラスを設置する義務がある。

_____ 子どもたちを教えることは礼拝の行為とみなすことができる。

_____ 子どもたちは学校へ行くので、共同体が彼らの精神的教育のためのクラスを設置する必要はない。

_____ 子どもクラスの教師は、精神的な息子や娘を育てている。

セクション3

バハイの聖典の中には、教育の分野に関する言葉がたくさんあります。私たちは、このコースとそれにつながる枝コースでそのいくつかを学習します。はじめに、以下のバハオラの言葉を読みましょう。

人間を、計り知れないほど高価な宝石に富む鉱山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を与えることができる。⁵

この引用文の深遠な意味について黙考し、まだこの文章を覚えていなかったら、これを暗記するため、下の文章を完成させることは助けになるでしょう。

a 人間を、計り知れないほど_____な宝石に富む_____と見なせ。

b のみがその宝を_____、人類にその_____ことができる。

教育の分野に関するバハオラの言葉の意味することは広大で、それらのいくつかは、後に続くセクションで扱われます。今は一つの考えを見てみましょう。たとえば、20個の空の容器を与えられ、スプーンでその容器いっぱいに水を満たすよう言われたとします。もし、教育ということをこのようなもの、つまり生徒たちに情報を少しずつ提供することと捉えていたら、それは飽き飽きする仕事になるのではないのでしょうか。では次に、教育をこのようにイメージしてみましょう。つまり、生徒たちのことを、発見され、明るみに出るのを待っている隠された宝石に満ちた鉱山と考えるのです。宝石を採掘することと見なされる、教える仕事は、実に、最も楽しい職業だと思いませんか。

セクション4

上述の引用文についてさらに検討しましょう。バハオラが述べられた宝石には、愛、誠実、正義、寛大、確固不拔、誠意というような資質が含まれるのではないのでしょうか。人間の思考力、自然界の神秘を発見する、美しい芸術作品を作り出す、高貴で高揚する考えを表現する力はどうでしょう。これらも宝石に含まれていませんか？あなたが教えようとしている子どもたちは、これらすべての属性を潜在的に持っています。他にいくつか述べることができますか。それらのうちで適切な教育なくして発達させられるものはありますか。これらの質問について考えるとき、ブック1で使われた、次のたとえを思い出してください。つまり、ランプは光を放つ可能性がありますが、光するためには灯される必要があるということ。

セクション5

私たちは自分の可能性を引き出すために、一生涯続く、教育プロセスの様々な段階を経ます。私たちは家庭で、職場で、共同体内で教育を受けます。ここで自問すべきことは、子どもたちのためのバハイのクラス、特に、この生涯続く教育プロセスの一つの側面である一年目のクラスは何に焦点を当てるべきか、です。アブドル・バハの以下の助言はこれについて答える助けになるでしょう。

あなた方は、第一に重要なものとして立派な性格を考慮する必要があります。長期にわたり自分たちの子どもに助言し、彼らを永遠の榮譽につながるものに導くことは全ての父と母の義務である。⁶

道徳や良い行いを訓練することは本を学習することよりもはるかに重要である。清潔で、人当たりが良く、立派な性格をもつ、行儀の良い子どもはたとえ無学であっても、あらゆる科学や芸術に深く精通しているが、無礼で、不潔で、性格が悪い子よりも好ましい。なぜなら、行いの良い子は、無学であっても他の人々に利益をもたらすが、性格が悪く、行儀の悪い子はたとえ学があっても、いやしく、他人に害を及ぼすからである。しかし、学識もあり、行いもよければ、結果はそれ以上にならないほど輝かしい。⁷

やがて、モラルは^{たいはい}極度に退廃するであろう。この世と次の世の両方で幸せを見つけることができるように、子どもたちはバハイの道で育てられることが不可欠である。さもないと、彼らは悲しみと困難に悩まされるであろう。というのも、人間の幸せは精神的な行動に基づくからである。⁸

これらの文章に基づき、ルヒ・インスティテュートは、子どもたちの精神性教育の1年目用プログラムで性格の鍛錬^{たんれん}に焦点を当てました。この目的の探求を進める前に、「立派な性格」についてどのように理解しているか、あなたのグループで話し合い、下の欄にあなたの結論のいくつかを書いてはどうでしょう。

セクション6

立派な性格について考えるとき、すぐに心に浮かぶ概念は「美徳」です。生徒たちに一連の美徳を育成しようとする、やりがいのあるプログラムが世界中にたくさんあります。それらのプログラムは「美徳」という用語を使って、称賛に値する人間の様々な属性を述べています。それらの中に、時間厳守というような習慣があります。また、困っている人に対する同情といったような姿勢も美徳とみなされます。他に、特定のスキルや能力、たとえば、はっきり話す能力も含まれます。しかし、他の全てと一線を画す美徳の種類があります。いくつか例を挙げると、誠実、寛大、謙虚、愛というような「精神的資質」と呼ばれるものです。皆さんは、1年目のクラスで、これら人の魂の基本的な属性を発達させることに努力を集中するよう求められます。これは子どもたちとの交流において、他の美徳は無視するという意味ではなく、皆さんが教えるレッスンは主に、魂が神に向かう永遠の旅に不可欠な資質に関わるものであるということです。ここで示される種類の区別を正しく認識するため、時間厳守という美徳を考えてみましょう。時間を厳守する人は、同時に、意地悪で、残酷かもしれません。しかし、残酷さや意地悪は誠実や誠意、愛や正義、寛大や寛容といった聖なる資質を身につけた人の特性ではあり得ません。もちろん、そのような人にとっても時間を守ることは大いに望ましいことです。

皆さんは、ブック1第3章でこの人生で魂が取得すべき資質について考えたので、ここで、その章に立ち返って、関連するセクションを見直すと良いでしょう。それから、そこで学んだことについて、子どもの柔軟な年頃から、精神的資質を発達させることが重要という文脈の中で考え、その考えを下の欄に書きましょう。

セクション7

称賛に値する性格を表すよう子どもたちを助ける中で、皆さんは、当然、子どもたちの行動に関心をよせるでしょう。美德は、必ず実行に移されなければならないからです。皆さんは先生として、いろいろな方法で良い行いを促します。称賛、激励、勧告、説明、ご褒美など。子どもたちの進歩を見守る中で、これらの方法を何度も使うでしょう。時には、先生の示すちょっとした不快感の表情であっても、ある子どもの不適切な行動を思いとどまらせる手段として役に立つでしょう。しかし、それは、あなたがクラスの生徒たちと愛と親愛の情の深い絆で結ばれるようになってから使うべきです。生徒たちとどのように付き合うべきかについてのいくつかの課題は、後のセクションで検討しますが、ここでの話し合いの目的を果たすために、一つの例を検討しましょう。子どもたちとの交流で、あなたはきっと、分かち合いの姿勢とそれに伴う習慣を子どもたちに育てる努力をするでしょう。そのためにどのようなことを言ったり、行ったりしますか。これについて、あなたのグループの他のメンバーと話し合しましょう。

ここで次の質問について考えてください。行いの一面としての分かち合いは、それが、寛大なる御方、全てに恵み深き御方なる神の属性の反映である寛大の現れでないとしたら、たとえば、自分が欠乏している時でも分かち合うことができるでしょうか。もちろん、行動の修正に価値はありますが、このクラスの真の目的は精神的資質の育成です。それは、人間の魂の能力として、神の知識と神の愛によって育てられなければなりません。アブドル・バハは次のように助言しておられます。

あなたが書いていることに関して。子どもたちは最初から聖なる教育を受け、神を忘れないようにするよう、常に思い出させられなければならない。神の愛と母乳とが混じり合わされて彼らの内的存在に浸透するようにせよ。⁹

子どもは、光を放射し、精神的に成長し、知恵と学識に満たされ、天使の軍勢の性質を身につけるように、幼い頃から、神の愛の御胸で育てられ、神の知識に包まれて養育されなければならない。¹⁰

子どもたちの教育に関するあなたの質問について。彼らを神の愛の御胸で育て、彼らを精神的なことに向かうよう促すことはあなたの義務である。そうすれば、彼らは神に^{おもて}面を向けるようになり、彼らの習慣は善行の法則に準拠し、彼らの人格は誰にも負けないものとなり、人間の全ての長所と称賛に値する資質を自分たちのものとするであろう。...¹¹

これらの引用文を、少なくとも一つは暗記してはいかがでしょうか。

セクション8

最初の学年の子どもたち、通常、5、6歳児ですが、この学年に教えるレッスンは、これまでに検討した考えを念頭に置いて作られています。ここで第2章に移り、その中の2,3のレッスンを読んでみると助けになるでしょう。後に、24のレッスンの全てを詳しく調べる機会がありますが、今は、その2,3のレッスンのさまざまな要素を、これまでのセクションで検討したことに照らしながら考えるようお勧めします。

全てのクラスはあなたと、何人かの子どもたちの唱えるお祈りで始めます。その後すぐに、子どもたちはあなたの助けでお祈りを暗記するために時間を費やします。お祈りは「神の愛の御胸で育てられる」子どもの成長に不可欠です。アブドル・バハは、「子どもたちは若木のようにあり、彼らに

お祈りを教えることは、苗木に雨を注ぐと同じように、柔軟で、新鮮にし、神の愛の微風が彼らの上にそよぎ、彼らを喜びで震わせるであろう」と言われました。クラスのこの要素は、子どもたちに良い性格を育てるという全体的な目的にどのように役立つか、しばし考えましょう。あなたの考えを二、三の文節で表現してみましょう。以下に挙げたような、ブック1にある引用文は助けになるでしょう。

最も偉大な達成、あるいは最も甘美な状態とは、神と対話する状態に他なりません。祈りにより、精神性が創り出され、思慮深さと天界の感情が生まれ、「王国」の新たな魅力が生み出され、より高い知性からなる感情が生まれます。¹²

おお、わがしもべよ。汝に授けられた神の聖句を、神のおそば近く仕える人々が唱えるように唱えよ。されば、汝の祈りの調べのうるわしさは、汝自身の魂に火をともし、また、すべての人々の心をも引き寄せるであろう。¹³

精神には影響力があり、祈りには精神的な効果があります。¹⁴

神に仕えるものは、神に祈り、助力を求め、神の援助を懇願し嘆願することがふさわしい。それは隷属という地位に適切な振る舞いであり、主はその完全な知恵に沿ってご自分のお望みのままに定め給う。¹⁵

各レッスンのテーマは、聖なる書からの引用文を中心に展開されます。それらは子どもたちに暗記してほしい文章です。あなたは、子どもたちがその意味の基本的な理解を取得するのを助けるよう努力する必要があります。というのは、聖なる言葉の理解は精神的資質の発達に不可欠だからです。ですから、あなたは、神の御言葉の援助なしで、望ましい資質を有意義な方法で育てることができるか考えてみましょう。あなたの考えをまとめるにあたり、再度、前のブックで検討したいくつかのテーマを思い出してください。たとえば、ブック2第1章の神の御言葉の力についての概念を考えるといいでしょう。

おそらく、皆さんはすでに下の文章を暗記しているでしょうが、これは上の質問に答えるのをどのように助けますか。

神の言葉は、人間の心に植えられた苗木にたとえられよう。この苗木がしっかりと根をおろし、枝が天空とそのかなたまで高くのびるよう、汝らは英知と聖別された清らかな言葉かつすいの活水をもってその成長を育成しなければならぬ。¹⁶

レッスンのもう一つの要素は子どもたちのために語り聞かせる物語です。ほとんどはアブドル・バハの生涯から引き出されたものです。お父上であるバハオラの教えの完全な模範者として、アブドル・バハは、あなたが教師として育もうとしている資質を具現しておられます。ブック2の第3章の学習で、あなたはすでに、アブドル・バハという人物の中に、人類に授けられた、特有の恵みを認識したことでしょう。アブドル・バハの生涯について学ぶ物語は、子どもたちの性格の発達に特別な役割を果たすので、子どもたちは彼の示された大いなる愛について繰り返し思い起こすべきです。子どもたちとアブドル・バハとの絆が強まるにつれ、あなたは、彼らに次のことを確信させること

ができます。すなわち、彼らがアブドル・バハの模範に従おうと努めるとき、アブドル・バハの心に喜びをもたらしているのだということ。さて、喜びと畏敬の念をもって語られたアブドル・バハの生涯からの物語は、子どもたちに望ましい資質を発達させるのにどのように役立つと思いますか。

歌を歌うことは子どもクラスのもう一つの要素です。それは子どもたちの心と魂を幸せにします。アブドル・バハは述べておられます。

音楽という芸術は神聖で効果的である。それは、魂と精神の糧である。^{かて}
音楽の力と魅力を通して人間の精神は高揚する。^{こうよう}それは子どもたちの心に素晴らしい振動と影響力を持つ。なぜなら、彼らの心は純粹で、メロディーは彼らに偉大な影響を与えるからである。これらの子どもたちの心に授けられている潜在的な才能は音楽という媒体を通して表すことができる。¹⁷

子どもたちが小さい時から美しい歌を歌うことを学ぶのはなぜ重要なのかについて、グループで話し合しましょう。

ゲームとぬり絵も子どもクラスの二つの要素です。ゲームは本質的に協力によってできるもので、特定の望ましい姿勢と習慣を発達させるのを助ける手段です。レッスン用に用意されているぬり絵は、それぞれのレッスンが焦点を当てている精神的資質に関連しています。ぬり絵もまた、成長のこの段階にある子どもたちに必要な、基本的スキルと能力のいくつかを強化します。これら二つの要素は子どもたちの精神的教育のクラスの特徴であるべき楽しい雰囲気を作るうえで助けになります。精神的資質の発展にとって、楽しい環境がいかに欠かせないものであるかについて話し合しましょう。

セクション9

これまでの数セクションで最初の学年のレッスンの目的について洞察を得、各要素が性格の洗練にどのように貢献するか検討しました。ここで、あなたと子どもたちとの関係の性質をひとつおり調べてみましょう。

何よりもまず、あなたが生徒たちに感じる愛です。神の愛の反映であるこの愛はあらゆる背景の子どもたち全員を包み込みます。すべての子どもに届く方法でこの愛を表現するためにどうするか、これは教師が学ぶことの一つです。

自分の生徒たちに対する、純粹でえこひいきのないあなたの愛は、全能者の御手によってそれぞれの子どもの真髓に埋め込まれた、計り知れない価値の宝石をあなたが発見するのを容易にしてくれるでしょう。あなたは、すべての生徒を神のイメージで作られた高貴な存在とみなすでしょう。この人間像の真実性は、バハオラのこの言葉が証言します。

わが太古^{たいこ}よりの存在と、わが本質の不変の永遠性に包まれて、われ汝^{なんじ}への愛を知った。さればこそ、われ汝^{おもかげ}を創った。汝の上にわが面影を刻み、汝にわが美を表わした。¹⁸

権威の手もてわれ汝^{いしん ゆび}を創り、威信の指もてわれ汝^{しんずい}を創り、なおわれ汝のうちにわが光の真髓を置いた。¹⁹

汝はわがランプであり、わが光は汝のうちにある。汝それより汝の輝きを得よ。そしてわれ以外に何ものをも求むるな。われ汝を豊かに創り、汝にわが恵みを惜^おしみなく注^{そそ}ぎたれば。²⁰

もちろん、あなたは、愛は必ず試されるということを分かっています。教えているうちに生徒たちの望ましくない性格の特徴に出くわすことは避けられないでしょう。そのような時、あなたは、ある子どもたちは手に負えないという誤った考えを拒否しなければなりません。バハイの子どもクラスの教師は、すべての子どもは顕示者を通して神を知り、その教えに従う能力を持つということを確信しなければなりません。すべての子どもは精神的に発展する可能性をもっています。あなたのクラスの子どもたち皆が高貴に創られ、あなたの助けでその高貴さを表に出すことができるのです。

子どもたちに関して、親愛なる「師」が書かれた文を思い起こすことは、彼らの精神的な本質を神の創造物としてさらにはっきりとみなすのを助けるでしょう。以下はそのような文の抜粋です。それらを読み、それらがあなたの教えている貴重な存在に対する認識をどのように形作るか熟考しましょう。

- これらの可愛らしい子どもたち
- これらの明るい、輝かしい子どもたち
- これら「王国」の美しい子どもたち
- 「あなた」の導きの小川で芽生えたこれらの若木

- アブハの楽園の若い植物
- 「あなた」の果樹園の若木たち
- 神の愛の庭園に植えられた柔らかい苗
- 神の知識の牧場の新鮮な若木
- 「あなた」の聖なる春季に咲く若木
- 「あなた」の庭園のバラ
- 「あなた」の導きの庭のバラ
- 「あなた」の牧場の花々
- 生命の木の小枝
- 「あなた」の知識の庭園に生えている若い枝々
- ご恩籠^{おんちよう}の木立に発芽した大枝
- 救済の草原の鳥たち
- 「祝福された完全」の指で灯されたキャンドル
- 「あなた」の威力の指で作られた手工品
- 「あなた」の偉大さの素晴らしい^{しるし}徴
- アブドル・バハに愛されし者ら

セクション10

愛と同時に、あなたが生徒たちと育む関係は一年目のレッスンで取り上げられているその他の精神的資質の全てに特徴づけられます。あなたは間違いなく、これらの資質を、クラスでの子どもたちとの交わりの中だけでなく、あなたの生活のあらゆる面で、ますます明白に示すよう努めることでしょう。バハオラは次のように助言しておられます。

おお、人々よ。他人に良き忠告を与えながら、自分自身はその忠告を実行することを怠^{おこた}るものとならぬよう注意せよ。²¹

レッスンで取り上げられている各資質の意味と含意について、一層の理解を深めることは子どもクラスの教師にとって特に重要です。この理解は、その世話のもとで柔らかな若木を訓練し、育てるという努力において、教師を助けます。気が付いたでしょうが、たとえば、最初のレッスンは「純

粹」に焦点を当てています。性格に焦点を当てたクラスを、心の清らかさという資質の探求で始めるのは適切でしょう。バハオラは、「天と地にあるすべてのもの」は、神が私たちのために制定されたものであるが、神がご自身の美と栄光の住处とされた「人間の心は別」であるということを、私たちに思い起こさせておられます。自分の心の鏡を浄化することによって、人間の魂を飾るべきその他すべての属性を反映することができるのです。

第2章には、1年目で取り上げている精神的資質について教師が考えるのを助けるために、それぞれの資質に関連するいくつかの引用文が挙げられています。ここでは、「純粹」に関する以下の引用文を読むようお勧めします。次に、人間の生活におけるこの資質の重要性、および、特に子どもたちを教えるために立ち上がった人の努力という面から、この資質の重要性についてあなたのグループのメンバーと話し合ってください。あなたの考えを下の欄に書きとめてから、これらの引用文の少なくとも一つを暗記しましょう。

おお、わが兄弟よ！純粹な心は鏡にたとえられる。真実の太陽がその中に輝き、永遠の朝が現れるよう、愛と、神以外のすべてのものからの断絶とでそれを磨け。²²

おお実在の子よ！汝の心はわが家である。わが降臨^{こうりん}のためにそれを清めよ。汝の精神はわが啓示^{けんげん}の場である。わが顕現^{きよ}のためにそれを浄めよ。²³

人間の心が清らかで聖別^{せいべつ}されればされるほど、さらに神に引き寄せられ、真理の太陽の光はその中に表されます。²⁴

人間の生き方は、まず純粹でなければならない。その次に、はつらつとしていること、清潔、精神の独立が必要である。川床^{かわどこ}はまずきれいにしてから新鮮な川の水が流れ込むようにする。²⁵

セクション11

ここで、幼い子どもたちの教師として、あなたは、彼らが教えに沿った行動をする動機を強化し、神が私たちの魂を飾るべきものと言われた資質を発達させるのをどのように助けられるか、自問する必要があります。その教えとは神が、ご自身の顕示者バハオラを通して示された教えです。この質問に対する答えを探すとき、バハオラの次の言葉を熟考しましょう。

わが威力の舌は、わが全能なる栄光の天上より、つぎの言葉をわが創造物に対し語りかけたのである。「わが美を愛するがために、わが法にしたがえ」。この言葉には、いかなる舌も描写することのできない恵みの香りが満ちている。最愛なる御方の神聖なる芳香^{ほうこう}をこの言葉より嗅ぐ^かことのできた愛するものは幸いなり。²⁶

神の愛の炎を汝らの輝く心に赤々とともせ。神聖なる導きをこの炎の燃料とし、この炎を汝の不動の精神の内に保護せよ。神に対する信頼と、神以外のすべてのものからの超脱をもってこの炎を守る火屋^{ほや}とし、よこしまな人々の悪なるささやき^{そむ}がその光を消すことのないようにせよ。²⁷

おお実在の子よ！わが愛はわが砦^{とりで}である。その中に入る者は安全にして無事である。それより背き去る者は、必ず道に踏み迷い、滅び^{ほろ}にいた^{いた}らん。²⁸

1. 以下の文章を、上記の引用文からの言葉で完成させましょう。

- a 私たちは、神の _____ を愛するがために神の法に従わなければならない。
- b 神の愛の _____ を私たちの _____ に _____ と灯さなければならない。

- c 私たちは、神聖なる _____ をこの炎の _____ としなければならない。
- d 私たちは、この炎を私たちの _____ の _____ の内に保護しなければならない。
- e 私たちは、 _____ と、 _____ からの _____
- f _____ をもって神の _____ の炎を _____ としなければならない。私たちは、神の _____ を愛するがために神の法に従わなければならない。神の愛の _____ は、私たちの _____ に _____ と灯されなければならない。私たちは、 _____ 導きをこの炎の _____ としなければならない。私たちはこの炎を _____ の内に保護しなければならない。私たちは _____ と、神以外のすべてのものからの _____ をもってこの炎を守る _____ としなければならない。私たちは、よこしまな人々の悪なるささやきがその _____ を消すことがないよう、神の愛の炎を燃え立たせ、それを守り、保護しなければならない。神の _____ の砦に入る者は誰であれ、安全にして _____ である。

セクション12

あなたは子どもたちと過ごす時、その輝かしい心に「神の愛の炎」を燃え立たせ、神の祝福と、神の言葉を通して成長できる喜びを意識させるよう努めるでしょう。もちろん、神への私たちの愛と神の恩恵を受け取りたいという願いは、なんらかの理由で、神の愛が私たちに届かないという畏れを伴います。つまり、私たちの正しくない行いが、神の祝福を受けとることを妨げる障壁となる場合はどうしようかという思いです。神の愛は私たちの存在の由縁^{ゆえん}で、もし私たちがそれを一瞬でも奪われたなら、私たちの生命は粉碎されます。神に不従順であれば神の愛を受け取ることはできないであろうというその畏れは、私たちをまっすぐな道から逸れないようにし、自我の扇動^{せんどう}や、羨望^{せんぼう}、食欲^{どんよく}、空虚^{くうこ}な想像、墮落^{だらく}した欲望から私たちを守ります。

神の愛の種を子どもたちの心に撒く努力をしながら、神への畏れについても考えなければなりません。この二つは互いに切り離すことができないものだからです。アブドル・バハは勧告しております。

聖なる訓戒^{くんかい}でこれらの子どもたちを訓練せよ。幼少時より、彼らの心に神の愛を染み込ませなさい。そうすれば、彼らは神への畏れを生活の中に表し、神の贈り物を確信する。彼らが人間の不完全さから開放され、人間の心に秘められた聖なる完全性を身に付けるよう教えなさい。²⁹

重要なのは、神への畏れは子どもたちと直接話し合う概念ではないということです。彼らが持つべき唯一のイメージは、愛する神のイメージです。彼らは神の恵みと贈り物を完全に確信し、信頼をおく必要があります。子どもたちに神の愛を育てよう努力するとき、ある言葉や行いは神を喜ばせるが、あるものはそうではないという概念を紹介することができます。折に触れ、子どもたちに、自分達は神様を愛しているからこそ神様を喜ばせたいと願うということを、思い起こさせる必要があります。たとえば、親切な舌を持ち、お互いに思いやりを示すことは神を喜ばせる行いだけでも、不親切な言葉を使うことや、他の人を傷つけることは神様を不快にさせる行いであると話すことができます。

以下の引用文を熟考しましょう。

いかなる状況下であれ、精神的性格と善行を示すように人々を召喚^{しょうかん}することは汝の義務である。それにより、全ての者が人間を向上させるものに気付き、最大限の努力を払って、最も高尚な地位と栄光の頂点に向かうことができるように。古来より変わらず、神への畏れは神の創造物の教育において最も重要な要素であった。それに達した者らは幸いなり！³⁰

この啓示の制度に勝利をもたらすことができる軍勢^{ぐんぜい}は、賞賛に値する行為と高潔な性格という軍勢である。それらの軍勢の指導者や指揮者は常に、神への畏れ、すなわち万物^{ばんぶつ}を包含し、万物を統治する畏れである。³¹

このセクションと前のセクションにある引用文に照らし、神への愛と神への畏れとの関係、また、この二つの強力な相互作用が、称賛に値する性格の発達に、いかに不可欠であるかについて説明する文を一つか二つの段落で、書きましょう。

[illegible]

セクション13

前のセクションでの話し合いで明らかなように、精神的教育は美に引きつける力を利用し、精神的資質の発達に焦点を当てることで、子どもたちの心を真の美に適切に導きます。真の美は、良い性格の美、聖なる言葉に秘められた美、立派な行いの美、高尚な思考の美、そして最も重要なのは、栄光に満ち給う御方の美に魅せられることです。結局、神の法への従順は神の美への愛から湧きでるのです。こういった理由で、子どもたちは、精神的資質の習得はそれ自体が最高の褒美であり、卑しむべき性格を持つことは最大の罰であるということを理解できるよう育てられます。アブドル・バハ^{いわ}曰く。

悪行の根本原因は無知である。従って、私たちは知覚と知識という手段にしっかりと掴^{つか}まらなければならない。良い性格は教えられなければならない。光は遠くまで放散されなければならない。そうすれば、人類の学び舎で、すべての者が^や霊^{れい}の神々^{こうごう}しい性格を身につけ、邪悪で不健全な性格を持つこと以上に恐ろしい地獄や^{もうか}猛火^{なるく}の奈落はなく、また非難されるに値する性格を現すこと以上に暗い穴、忌まわしい苦痛はないということをはっきりと認識するであろう。³³

子どもたちが天の性格を反映する喜びを経験するのを助けるため、私たちは公正な行いを示す彼らの努力を励まし、望ましくない行動を思いとどまらせるべきです。子どもたちを、厳しく罰することと、全く自由に、したい放題にさせることは両方とも避けるべきです。「愛には規律と、そして、子供たちを困難に慣れさせる勇気が求められます。子供の気紛れのすべてを満足させ、意のままにさせるのが愛ではないのです」と、万国正義院は助言し、続けて、子どもたちは「バハイの基準に沿って生活し、… 愛情を込めて、徹底して導き続けなければなりません」と、述べておられます。以下はアブドル・バハの説明です。

母親は、わが子が良いことをしたら、いつでも、その子を褒め、喝采^{ほ かっさい}し、心を喜ばせなさい。もし少しでも望ましくない性質がでたなら、子どもに忠告し、罰を与えなさい。そして理にかなった方法で、必要なら、ちょっとした口頭での叱責^{しっせき}であったとしても与える必要がある。しかしながら、子どもを叩^{たた}いたり、けなしたりすることは許されない。なぜなら、も

し子どもが叩かれたり、言葉で虐待されたりすると、その性格は完全に歪められるからである。³⁴

アブドル・バハの指導に従うために、教師は子どもたちを褒め、良い行いをしたときに、その心を喜ばせる方法を考える必要があります。このために、教師は、子ども一人一人の進歩を注意深く観察し、それを覚えておくこと、また、いつも同じ数人の子だけを褒めて、残りの子は無視するというようなことがないよう注意しなければなりません。教師から愛のこもった注意を受けることに慣れている子どもには、規律に欠けた行動をとった際、教師のちょっとした非難の表現だけで、繊細かつ効果的な罰の手段となるかもしれません。時には、特に子どもが活動の邪魔をしているときは、ふさわしくない振る舞いに対する口頭での非難が必要かもしれません。これは、怒りやいらだちを微塵も示すことなく、子どもに敬意を払いながらも、確固とした声音でなされなければなりません。また、教師たちはしばしば、特定の子どもの助言するため、クラス外に時間をとる必要があります。

教師が上述の助言に従っていても、一部の子どもは期待通りの行動をしないということがあるかも知れません。そのような場合、ちょっとした、適切なお仕置きが求められるでしょう。そのようなお仕置きの例には、何分間かぬり絵、あるいはゲームに加わらせないことが含まれます。これに関して、心しておくべき二つの概念があります。一つは、教師はその子に、なぜお仕置きされるのかはつきりと説明しなければなりません。例えば、「あなたはこれこれのことをしたので、ゲームに加わるのを5分間待たなければなりません」と、言うことができます。二つ目の概念は、お仕置きは、よくない行いをしたら直ぐに加えるべきということ。さもなければ、子どもは行動と罰とを結びつけることができないでしょう。

ここで、あなたのグループのメンバーと上述の考えについて話し合しましょう。子どもたちに良い行いを奨励し、彼らの、個人として、また集団としての進歩を褒めるときに、使用するに適切と思う言葉を一緒に考えましょう。また、必要な時に、良くない行動を思いとどまらせる適切な言葉も考えてみませんか。

セクション14

子どもたちが称賛に値する資質を発達させるのを助けるにあたり、クラスの中に、規律と秩序に特徴づけられる、ふさわしい環境を作ることが重要です。

アブドル・バハは述べておられます。

子どもたちの学校は最大限の規律と秩序の場でなければならず、指導は徹底^{てつてい}しており、性格を修正し洗練するための規定が用意されなければならない。そうすれば、最も早い時期に、その子の本質に聖なる基盤^{きばん}を築かれ、聖なる建造物^たが建てられるであろう。³⁵

また、子どもたちのための週1のクラスについて、次のような助言を与えておられます。

汝はこの組織化された活動を停止させることなく続け、それを重要視しなければならない。そうすれば、それは日々成長し、聖霊^{いぶき}の息吹で活気づけられよう。その活動がうまく組織されれば、大いなる結果を生み出すということを確信せよ。³⁶

教えるコツの大部分は、子ども一人ひとりの導き方を知ることに関するものです。導き方が分かれば、子どもたちは、楽しく、しかも規律ある学びの環境を作る行動をとるようになります。これにつ

いては経験を通して得るべき洞察がたくさんあるでしょうが、開始当初から自分を準備するのに役立つ、いくつかの基本的な考えを検討しましょう。まず、一回のクラスの長さについての以下の説明を読みましょう。

子どもたちが教室に着いたら、身支度を整え、静かに着席するため、数分取ります。子どもたち全員が落ち着いたら、その平静な雰囲気を活かして、お祈りでクラスを始めます。その次の活動は歌です。その後、レッスンのテーマを提示し、子どもたちが引用文を暗記するのを助けます。それから、子どもたちがワクワクして待つ中で、ストーリーを聞かせます。それが終わったらゲームです。それらが終わったら、ぬり絵のシートとクレヨン、または色鉛筆を子どもたちに配り、その絵に丁寧に色を塗るよう言います。クラス終了時には、静かに座り、終わりのお祈りの準備を整えるよう、子どもたちに促します。祈りはあなたと、二、三人の子どもが唱えます。

上に示した活動の順序は妥当ですか。なぜこのように順序つけられたと思いますか？

セクション15

上で話し合ったと思いますが、子どもたちは静かにしているためにクラスに来たのではないし、あなたの意図も静かに過ごさせようというものではないはずです。あなたは、子どもたちのエネルギーを活かして、それを学びに向けるよう努めなければなりません。そのためには、静かに過ごす時間と、動き、自発性を発揮する時間を計画する必要があります。どの場合も、段取りの良さは基本的な要素です。クラスがうまくまとめられると、子どもたちの集中や、学びは容易になります。これに関して、少なくとも以下の三つの点は考慮する価値があります。

1. 各クラスは明確で一貫した方法で始め、同じく整然とした方法で終わる必要がある。

2. 決まった手順を確立する必要がある。こうして、子どもたちは、少しずつ、どの活動がどの活動に続き、自分たちに何を期待されているか理解できるようになる。
3. それぞれの活動の長さは、子どもたちの熱意やエネルギー次第で柔軟性を持たせる必要がある。

前のセクションの説明で述べたように、子どもたちがそれぞれのクラスで行う活動は以下のものです。

- a お祈りの朗唱と暗記
- b 歌
- c バハイの聖典からの引用句の学習と暗記
- d 物語を聞く
- e ゲームをする
- f ぬり絵をする
- g 閉会のお祈り

これらの活動に必要なエネルギーのレベルと動きの程度は、当然、異なるでしょう。あるものとはとても活動的で、あるものはもっと静かなもの、というように。

これら7つの活動で、最も動きのあるものはどれでしょうか？ _____

より静かな活動は？ _____

秩序ある雰囲気を維持するため、教師にはいくつかのことが求められます。以下のうち、好ましい雰囲気作りに役立つものに「○」、それを妨げるものに「X」をつけましょう。

_____ クラスが行われる空間を清潔で、^{せいとん}整頓した状態に保つ

- ___ どのような状況でも、沈着、平静である
- ___ 自分の指示を子どもたちが聞かないと、いらいらする
- ___ 事前にそれぞれの活動のための資料を用意する
- ___ 子どもたちを待たせて、活動のための備品を探し回る
- ___ それぞれの活動について、子どもたちは何をするのか明確に説明する
- ___ 自分のすることをさっさとやり遂げた子どもたちの熱意を冷まさないように、彼らのために他の活動を準備しておく
- ___ 子どもたちが一つの活動から次の活動に整然として移るのを助ける
- ___ 子どもたちに物語を、じかに、本から読んで聞かせる
- ___ 事前に物語をしっかりと習得し、分かりやすさと熱意を持って語れるように準備する

セクション16

クラスに規律と秩序の雰囲気を作り出す過程において、一定の行動の基準を設定する必要があるでしょう。これに関して、最初の数週間は特に重要で、この最初の期間中に設定された基準は全て、年間を通じて維持される可能性が高いものです。最初に、教師は行動のいくつかの基準を選択し、それらを説明する必要があります。それは、一度に三つか四つ以下にとどめ、子どもたちに簡単な言葉で説明されます。「お行儀良くしなければなりません」と言ったような、極めて一般的な基準はあまり役に立ちませんが、「話すときは順番に」というような基準はわかりやすいでしょう。あなたのグループで、以下の文が設定している基準について話し合い、リストに更にいくつか加えましょう。

- a ゲームをするときはお互いに助け合う
- b 仲良くして、ケンカをしない

- c クラスに新しい友達がきたら、温かく迎える
- d 先生や他の人たちが話しているときは、注意して聞く
- e お互いに親切な言葉で話す
- f 自分の話す順番を待つ
- g みんなが使えるように、クレヨンを順番に使う
- h 自分のやっていることを終わらせるよう頑張る
- i _____
- j _____
- k _____
- l _____

このような簡単な文章で表現すると、どのような行動が期待されているか子どもたちと話し合うことができ、その文章を定期的に彼らに言い聞かせることができます。こうして、そこに述べられていることは子どもたちの目指す基準として内面化され、厳格に課せられた規則と見なされるようなことはなくなるでしょう。子どもたちが、示された一連の基準になじんだら、教師は、一度に多くを加えないようにしながら、徐々に他の基準を導入することができます。クラスの時間に特定の困難が生じたら、それを解決するための簡単な文章を作成するよう、子どもたちを援助することができます。そのような場合、教師は断固とした態度で、一貫性を保ち、同時に友好的で、優しさに満ちていなければなりません。

セクション17

セクション8で、私たちは1年目のためのレッスンのそれぞれの要素の意味を簡単に検証し、それらがどのように称賛に値する性格に貢献しているか話し合いました。セクション17とこれからの7

セクションで、子どもたちが活動に積極的に参加できるようにするためのいくつかのアプローチを検討します。まずは、暗記について考えてみましょう。

お祈りや聖なる書からの引用文の暗記はレッスンの中心となるもので、全てのクラスで、あなたは、お祈りを唱え、新しい一つの引用文を暗記する生徒の努力を助けます。この活動に生徒たちが積極的に取り組むようにするにはどうするか話し合う前に、子どもたちが聖なる言葉を暗記するのを助けるために、取り除くべき一般的な誤解について、少し述べておきます。

あなたは、「子どもたちは、文章をそのまま繰り返させられるべきではない」とか、「子どもたちは自分の考えを表現することを学ぶべき」、「子どもたちは、事実や情報をおうむ返しするべきではない」というようなコメントを聞いたか、または、聞くかもしれません。実際、いわゆる暗記ということに対する批判があまりに普及しているため、これらの考えは世界各地にますます広まっています。確かに、数学の方程式、物理学の法則の定義、あるいは、文学の散文をほとんど、または全く理解していなくても、暗記することはできます。しかし、深遠な文章を暗記することと、その意味を理解することは本当に相反するものなのか、自問すべきでしょう。人間にとって、記憶力は、理解力、思考力、想像力と同じほどに重要な能力です。それらは全て、互いを補完し、強化します。神の言葉は人間の心と精神を再生する限りない可能性をもっているので、それを暗記することが、いかに子どもたちの知性と理解を強化するかについては、私たちは想像するしかありません。後に、子どもたちが成長の別の段階を通るとき、自分たちの暗記した引用文から新たな洞察を得、一生を通して、神の言葉の創造力、再生力、変革の力を利用することができましょう。

子どもたちの心と精神に精神的知識の種、やがてとても風味のある果実を実らせる種をしっかりと植え付ける上で神の言葉の暗記が有益であると、教師たちが納得することはなぜ重要なのか、あなたのグループのメンバーと話し合ひましょう。

セクション18

上記の振り返りを念頭に、あなたは生徒たちが聖なる書からの引用文を暗記するのをどのように助けるかについて、レッスン1の引用文を例にとって検討しましょう。はじめに、あなたはこのレッスンが焦点を当てている精神的資質の意味について、いくつかの初歩的な洞察を得るよう彼らを援助するでしょう。この目的のためにあなたが利用できるよう、短い紹介文が提供されています。その後、文中の難しい言葉を選び出し、子どもたちが容易に把握できる状況でそれらを使うことによって、引用文の意味について最初の基礎的な理解を得られるようにすると良いでしょう。純粋という資質について述べている、レッスン1をもとに、このアプローチを考えてみましょう。

私たちの心は鏡にたとえられます。私たちは、それをいつもきれいにしておかなければなりません。誰かに対して恨みを持ったり、嫉妬したり、何らかの理由で誰かに不親切であったりすることは、心の鏡をおおう^{ちり}塵のようなものです。心が純粋であれば、神様の光と、親切、愛、寛大のような、神様の属性を映し出して、私たちは他の人を幸せにすることができるでしょう。私たちの心をいつも純粋にしておくために、バハオラの次の言葉を暗記しましょう。

おお心霊の子よ！わが第一の忠言はこれである。すなわち、純粋にして優しく、また輝かしき心を持て。⁹⁹

<忠言>

1. ジェラルドさんとメアリーちゃんはぬり絵をしていました。ジェラルドさんは黄色のクレヨンが必要だったけど、メアリーちゃんは彼にそれを渡したくありませんでした。先生はメアリーちゃんに、分かち合わなければならないと言いました。先生はメアリーちゃんに良い忠言をしました。
2. パトリシアちゃんはお小遣いでクッキーを買うか、お話の本を買うか決めなくてはなりません。お父さんとお母さんは、お話の本を買うよう勧めました。両親はパトリシアちゃんに良い忠言をしました。

<持つ>

1. ティニアちゃんは寝る前にお祈りをするのが好きです。彼女は小さなお祈りの本を持っていてそれを読みます。ティニアちゃんは小さなお祈りの本を持っています。
2. 私たちは、庭でたくさんの美味しい野菜を育てています。私たちは、たくさんの新鮮な野菜を与えてくれる土地を持っています。

<純粋な心>

1. キャシーちゃんは怒っていたのでアゴットくんの不親切な言葉を投げかけました。アゴットくんは悲しくなりましたが、すぐにキャシーちゃんを許しました。アゴットくんは純粋な心を持っています。
2. ガスタボくんは、子どもたちみんなと自分のお菓子を分け合うのが好きです。誰とも分け合ったりしないジョージくんにも分けてあげます。ガスタボくんは純粋な心を持っています。

<優しい心>

1. ミン・リンちゃんは両親がお友達を家に招いた時、喜んでお客さんに食事を運びます。ミン・リンちゃんは優しい心を持っています。
2. ロバートソンさんはお年寄りです。ジミーくんは、ロバートソンさんの畑で取れた果物を市場へ運ぶのを手伝います。ジミーくんは優しい心を持っています。

<輝かしい心>

1. 私が悲しいとき、お母さんはいつも私を慰め、幸せにしてくれます。私のお母さんは輝かしい心を持っています。
2. オブヤくんは病気になり、いつもベッドで過ごさなければなりません。オブヤくんはたくさんお祈りをして、悲しまないで、幸せにしていました。オブヤくんは輝かしい心を持っています。

当然、あなたは、この本の紹介の言葉や説明文を単に読むのではなく、それを自然な方法で子どもたちに示すため、事前に十分準備する必要があるでしょう。

子どもたちが暗記するお祈りに関して、同じようなアプローチをお勧めしますが、どの言葉、あるいは句が説明を必要とするかを決めるのはあなたです。あなたはこの点に注意を払うことでしょう。時には、子どもたちがそのお祈りから徐々に、言葉の意味を理解できるようにするだけで十分なこともあるでしょう。たとえば、レッスン1で学習し始める、以下のお祈りを見てみましょう。子どもたちは、すぐに、「清らかな心」や「真珠」は両方とも貴重なものだと分かるでしょうが、最終的に純粋で清らかな心は神様から与えられるということを理解するためには、おそらく彼らは、「与え給え」という言葉の意味を学ぶ必要があるでしょう。この目的を果たすために、あなたはどのような文を作りますか。

彼こそは神におわします。おお神よ、わが神よ。私に、真珠のように清らかな心を与え給え。³⁷

セクション19

ここで、あなたの生徒たちがお祈りや引用文を暗記するのを助けるために用いる、一つのアプローチを考えてみましょう。文章をいくつかの文節に区切り、一度に学ぶのはその一つの文節にすることが出来ます。最初の文節が暗記できたら、2番目を追加し、またその次の文節、というように引用文やお祈り全体を暗記するまで続けます。あなたが唱えた後、時には個人個人で、また時にはグループでその部分を繰り返すよう、子どもたちを励ますことができます。

たとえば、レッスン1にある引用文を生徒たちに教えるとき、「おお、心霊の子よ！」という句ではじめ、それを繰り返すようにさせます。それから、「おお、心霊の子よ！」に「わが第一の忠言はこれである」をつなぎ、二つの節を一緒に繰り返すよう言います。最後に、「すなわち、純粋にして優し

く、また輝かしき心を持って」という部分を加えます。グループがこの方法で引用文を学んだら、これを空で唱えるよう、何人かの子どもを助けることができるでしょう。もちろん、この練習は、子どもたちの集中力が続き、楽しい雰囲気が維持されるように、活き活きしたペースでなされなければなりません。さらに、子どもたちの能力が徐々に伸びるにつれ、お祈りの長い文節や引用文全体を一度に覚えることができるようになるかもしれません。

クラスのこの部分を実施する時、予期できないような難しい状況が生じるかもしれませんが、その対処法は実際にそれらを経験することによって学ぶ必要があるでしょう。しかし、ある状況については、準備の一環として検討しておくべきでしょう。あなたのグループのメンバーで以下の課題を話し合しましょう。

- あなたのクラスにたくさんの子どもがいる場合、彼らが引用文を覚えるのをどのように助けるか。
- 子どもたちの何人かは他の子よりも覚えるのが早い場合はどうするか。
- 何人かの子どもが暗記に苦勞しているときはどうするか。
- 人の子はクラスの時間内に引用文全体を覚えることができない。それでも、その子が達成感を感じるようにするためにはどうするか。

セクション20

子どもたちは歌うのが好きで、引用文の暗記の前にあるこの活動は最も楽しいものの一つです。成功の鍵は練習です。あなた自身は、リズムやメロディーに特に注意しながら、この歌を知っている人と一緒に歌うべきです。この歌が収められているCDなどを聞くことができれば、もっと早く学ぶことができます。また、子どもたちがそれを十分に学ぶまで、あなたは子どもたちと一緒に何度も歌う必要があります。歌詞は引用文を覚えるのとほとんど同じ方法で覚えることができますが、歌の場合、言葉はメロディーを付けて繰り返します。生徒たちの能力次第で難しすぎると思われるものがあるかもしれませんが、その場合、あなたがその歌詞の難しい部分を歌い、生徒たちはコーラスの部分をあなたと一緒に歌うこともできます。

セクション21

次に検討する活動はストーリーテリングです。前にも述べましたが、1年目の物語のほとんどは、アブドル・バハの人生からのものです。それらの物語は極めて特別な目的を果たします。それは、子どもたちが身につけようとしている精神的資質が、完全なる模範者——アブドル・バハの地上での日々の生活にいかにか完璧に表されているかについて、彼らの理解を助けます。物語に述べられている出来事を語り聞かせるとき、教師が示すうやうやしい態度は、子どもたちの優しい心に天国の感情を掻き立て、彼らの精神的感受性を目覚めさせます。

あなたが、子どもたちに語るアブドル・バハについての物語は短いですが、それらが示す精神的洞察は深遠です。ですから、あなたは生徒たちが、述べられている事柄についてだけでなく、それを超えて精神的実態を垣間^{かいま}見るのを助けようとするでしょう。この観点から、レッスン1の物語を調べて見ましょう。

アブドル・バハは、いつも人の心の中を読むことができました。そして心が清らかで輝いている人をとても愛されました。一人の婦人が光栄にもアブドル・バハから夕食に招待されました。彼女はその食卓でアブドル・バハの英知溢れるお言葉に耳を傾けながら、自分の前のグラスを見つめ、「ああ、アブドル・バハが私の心にある世俗的な欲を空^{から}にして、ちょうどこのグラスの水を入れ替えてもらうのと同じように、神の愛と知識で心を満たしてくださったら良いのに」と思いました。

この考えはすぐに彼女の頭から消え、それについては何も言いませんでした。でも、その後起こったことで、アブドル・バハが自分の考えていたことを見抜いておられたということに気づかされました。アブドル・バハはお話の途中でお付きの人を呼び、ちょっと何か言いつけられました。お付きの人は静かにその婦人の所に来て、彼女のグラスの水を空にして、グラスを再び、彼女の前に戻しました。

それから少しして、アブドル・バハはお話を続けながらテーブルからお水の入った水差しを取り上げ、ごく自然に、彼女の空のグラスにゆっくりとお水を注がれました。誰も何が起こったか気が付きませんでした。でも、彼女には、アブドル・バハが自分の心の願いを叶えてくださったのだとわかりました。彼女は喜びで一杯でした。その瞬間に彼女はわかりました。アブドル・バハにとって、心と精神は開かれた本のようなもので、彼はその本を大きな愛と優しさをもって読んでいらっしゃるのだということが。

明らかに、この物語、そして実際のところ、このレッスン全体が焦点を当てている精神的資質は、純粋さです。以下の質問は、あなたの語り方が、生徒たちのこの資質についての、およびそれを目指して努力することの意味の理解をどのように深めるか、考える上で助けになるでしょう。

1. アブドル・バハから夕食に招待された女性は純粋な心を持ちたいと願っていたということ、子どもたちが理解することは重要です。この物語で、その願いとその女性の前にある水の入ったグラスとの関連はどのようなものですか。
2. 純粋な状態に達するためには、グラスが空にされてから改めて満たされたように、私たちは、神が、愛や寛大、優しさといったような資質で私たちの心を啓発してくださるよう、まずは自分の中から価値のない考えや感情を取り除かなければなりません。もちろん、私たち

は何事も神の目から隠すことはできないと知っています。このことを知ることは、私たちが純粹になるよう努力するのをどのように助けますか。

これらの質問についてあなたのグループで話し合ってから、あなたの考えのいくつかを下に書き出しましょう。

1学年用のいくつかの物語は、アブドル・バハの生涯に関係しないものもありますが、どれも精神的資質の重要性を示しています。物語を通して、子どもたちはこれらの資質を示すことに対する報酬と、それらをおろそかにした結果を見ることができます。たとえば、レッスン4にある、狼少年の物語は世界の多くの文化でよく知られていますが、これは嘘をついた結果を見せ、この方法で、誠実の資質についての洞察を示します。これらの物語が伝える教訓は、子どもたちの性格形成に必ず役に立つので、大いに有益です。

セクション22

ストーリーテリングは芸術です。物語を効果的に語るためにはそれを十分に知っておく必要があります。このセクションで、教師は子どもたちのためにレッスン1からの物語をどのように語るかについて理解するため、その物語を詳しく学習します。

この物語の主題は心の純粋さであり、それはグラスの例を通して調べられていることが明らかになりました。そこで、まずあなたは、物語のどの部分がこの主題に直接関係するかについて考える必要があります。アブドル・バハの知恵の言葉は、この女性に考えさせました、つまり、自分の心をこのグラスのように、いかにこの世の欲望から清めたいか、と。このことは物語の基本的な部分の一つです。アブドル・バハがお付きの人にグラスの水を捨てるようにと言われ、後でアブドル・バハがそのグラスを水で満たされたということはもう一つの点です。たとえば、アブドル・バハがその女性のグラスを空にするようお付きの人に言われたという部分を、あなたが語らなかつたらどうでしょう？

では、物語の基本的な部分を特定したとしても、その他の細かい部分をおざなりにすることはできません。もしあなたが単に、アブドル・バハのお客が夕食の席で自分の心を、グラスを空にするのと同じように清められたいと思った、というだけだったら、それは物語になるでしょうか。どの物語にも、より多くの感情を伝え、魅力的にする細かい部分があります。この物語におけるそうした部分はどれでしょうか。

- 食事中、アブドル・バハの英知に耳を傾けながら、その客が声にはしなかったが、考えていたこと、つまり、空のグラスについての考え。
- アブドル・バハは夕食に集った人たちに話しておられたが、その女性が口にしなかった考えに応えるために間を置かれた。
- 他の誰も、何が起こったか気がつかなかった。
- その女性は、アブドル・バハが自分の心の願いに気付いてくださったことを知り、深い喜びを感じた。

ここで注意しておきたい点は、全ての教師は、1年目用の物語を、追加の詳細やその他の要素で装飾しないよう注意する必要があるということです。それは、これらの物語が伝えようとする精神的真理から子どもたちの注意を逸^そらせかねないからです。

語っている間中、あなたは物語を聞かせる目的は子どもたちに重要なことを教えることであるという点に留意する必要があります。あなたが喜びをもって、気持ちを込めてこれを語ると、子どもたちはもっと良く理解するでしょう。子どもたちは単調な口調での語りには関心を示しません。あなたは、喜び、悲しみ、失望、恐怖、勇気といったような感情を、声や顔の表情、ジェスチャーを通して伝えることを学ぶ必要があります。あなたの声の調子や大きさは物語の進展に応じて変えられ、ジ

エスチャーは、単純であっても、各部に対応していなければなりません。また、語りのリズムやテンポについても考える必要があります。もし、あまりにゆっくりした口調で話すと子どもたちは飽きてしまい、早すぎると筋道についていけないでしょう。何よりも、見せかけの演技ではなく、気持ちを込めて語るべきであるということを忘れてはなりません。子どもたちは誠意のなさを容易に感じ取ります。望まれることは、子どもたちの心をつなぎ、人類が獲得した知恵の貯蔵庫を、これまでに何千年も世代から世代へと受け継いできたストーリーテリングの長年の伝統を受け継ぐことです。

セクション23

ここでストーリーテリングに続く、二つの活動、ゲームとぬり絵について検討しましょう。このセクションでゲームの時間への取り組み方を検討し、次のセクションでぬり絵について話しましょう。

前に述べたように、1年目で取り入れられているゲームは本質的に協働です。多くの人は、やりがいのあるゲームは、子どもたちが互いに競争する必要があると信じています。認識すべきことは、子どもたちが競争しなければならない状況に置かれると、ゲームをしている間だけでなくその後も、望ましくない姿勢や習慣が身についてしまうということです。さらに、卓越性は競争を通してのみ達成されるという見解があります。あなたはこの考えの信憑性を綿密に調べる必要があります。協力を通して卓越性に達することはできない、というのは本当でしょうか。競争においては、ある人は勝ち、ある人は負けます；協力においては、誰もが達成感を味わいます。

1年目のゲームは、子どもたちに指導を聞き、従うスキルを高めることを目指します。子どもたちは、各ゲームはクラス全体の共通の目標を定め、努力を調整することによって、全員がその目標を達成する上で果たす役割を持つということも理解するようになるでしょう。何よりも、彼らは互いをもっと気遣うようになり、忍耐強さを学び、自分たちを結びつける友情の絆を強めます。ですから、達成感を感じるためにゲームを完璧にする必要はないことを覚えておくべきです。たとえば、レッスン1に提案されているゲームを見てみましょう。これはどのように目指すべき目標に役立ちますか。

次の活動のために、地面や床に車のタイヤを置き、子どもたちにそのタイヤ一つの中に何人が立つことができるか聞きます。もしタイヤが準備できなければ、代わりとしてマットやタオル、あるいはそれに似たような物を使うこともできます。どんな物を使うにせよ、みんなが協力することによってもっと多くの子どもが中に入れるようにするために、クラスの子どもたちの人数に対して、少し小さめにする必要があります。

教師によるゲームの説明の仕方は、子どもたちがそれをどのように実施するかに関わります。ゲームの目的は、はっきり説明しなければなりません。さらに、子どもたちに説明するとき、教師はしばしばそれを実施して見せ、それを子どもたちと一緒に練習する必要があるかもしれません。

セクション24

芸術的な活動は子どもたちの創造力と認知力の発達にとって重要で、幼少時より、子どもたちは自由に描くことや芸術的な表現のその他の形で、自分たちの創造力を働かせる機会を与えられなければなりません。しかし、世界の多くの地で、子どもたちは5、6歳以前に絵を描く機会はほとんどなく、クレヨンを手にするすらありません。彼らにとって、1年目のレッスンで行うぬり絵はクラスで最もワクワクする時間の一つであり、それは後の学年でさらに複雑な芸術活動へ進むのに必要な自信を持たせます。また、器用さや自制心を発達させる手段にもなります。次の能力や、技能、姿勢は、ぬり絵を通してどのように強化されるでしょう。

- 秩序や美を賞賛する
- 細部に気を配る
- 目下のタスクに集中する
- 他の人と教材などの資源を分かち合う
- 他の人を敬う

特定の技能と姿勢を養うことに加えて、ぬり絵の時間は、1年目のレッスンで扱う資質をクラスの子どもたちと話し合う機会を教師に提供します。絵に描かれていることについて質問することで、

教師は、子どもたちが絵の中の出来事について話しながら、考えを言葉で表現し、心の中でつながりをつくる機会を与えます。最初のレッスンのぬり絵の用紙を見て、これをどのように子どもたちに紹介するかあなたのグループで話し合い、あなたの考えを下に書き出しましょう。

教師はこの活動のために十分な準備が必要です。子どもたちは必ずぬり絵をしたがりますが、クラスのこの時間は適切に組織されなければ大混乱になるかもしれません。子どもたちが色を塗る場所を特定し、レッスンのための絵のコピーを事前に準備しておかなければなりません。特に、最初の数レッスンで、教師は、クレヨンをどのように扱うかについて基準を設定し、子どもたちに自制や協力の感覚を確立する必要があるでしょう。最初は、教師が持つ箱から一つのクレヨンを選ぶよう子どもたちに言います。別の色がいるときは、いま持っているクレヨンに戻して、別のものに変えるようにします。このようなぬり絵の活動を何度か行って、子どもたちが、クレヨンはその都度必要な一本だけを持つということに慣れたら、クレヨンの箱をぬり絵のテーブルの真ん中に置いておくことができます。

ここで、以下の状況を検討してみましょう。それぞれの一对の状況でこの活動の効果をあげる助けになるのはどちらでしょう。

_____ 教師は、うまく色塗りしようとしている限り、線の外にはみ出して塗っても許す

_____ ぬり絵は決して線の内側から外れないよう、子どもたちに言う

_____ 子どもたちがぬり絵をしている間、教師は彼らの間を歩き回り、助けや励ましを与える

_____ 子どもたちがぬり絵をしている間、教師は座って個人的な仕事をする

_____ ぬり絵の時間、子どもたちはそのことに集中する

_____ むり絵の時間、子どもたちは互いの邪魔をする

_____ むり絵をしている時、子どもたちは黙りこくっている

_____ むり絵をしている時、子どもたちは楽しく交流し、お互いに励まし合う

セクション25

多くの教師は、自分たちの教えている子どもたちについて基本的な情報を記載するノートを持つと便利だと言います。そのノートに二つの表を書き、一つ目には、生徒たちの出席を記録するため名前と年齢の入っている表、二つ目は引用文暗記の進捗状況を示す表にすると役に立つでしょう。例えば、暗記進捗状況を示す表は、左の欄に子どもたちの氏名、上の行にレッスン番号を書きます。教師は子ども達がどの引用文を暗記したかについて該当する欄に印をつけます。

このノートには、教師が各レッスンについての自分の分析、そのレッスンをどう教えるかについての考え、そして、後になると、子どもたちとのセッションがどのように展開されたかの振り返りを記録する専用のページを作ることができます。

別のページには、教師は各生徒の進歩の状況、その生徒にまつわることで、特に保護者と共有すると良いことなどを記録することができるでしょう。また、このページに、生徒の保護者や兄弟の名前、また彼らの家庭を訪問した際に取り上げられた話題の要約を記録しておくという教師もいます。

セクション26

子どもクラスの教師として、あなたは、各生徒の保護者と定期的に会い、彼らの娘や息子の成長や発展について話し合い、保護者の支援を求めるために、親密で愛情ある関係を築く必要があるでしょう。あなたは、ブック2の学習を完了した時すでに、共同体の子どもクラスに参加している子ど

もたちの家族をいくつか訪問したことがあるかもしれません。あなたの記憶を新たにするため、ブック2の第3章、セクション15を参照してみてください。そのセクションで、子どもクラスの教師マリベルさんは、エマちゃんの家庭への二度目の訪問時に、エマの母親に何を言うかについて、どのように考えをまとめたか調べました。マリベルさんは、エマちゃんがクラスにいて自分の心にもたらされる喜びについて話し、エマちゃんの中に発見した素晴らしい資質について述べることから始めることにしました。親にとって、教師が共同体の子どもたちの世話をする過程で示す喜びと熱意を見ることはどれほど重要でしょうか。親の心を引きつけ、彼らとの信頼の絆を生み出す教師の属性には他にどのようなものがありますか。

その子どもが発達させていると認められる精神的資質に、教師がその子の親の注意を引くことはなぜ重要なのでしょうか。

マリベルさんはまた、あなたがこの章のセクション3で学んだ引用文をエマちゃんのお母さんと共有し、子どもたちの教育への影響について話し合うことにしました。あなたは保護者たちと交わす多くの対話で、子どもクラスのプログラムを形づくっている教育的考えを説明する機会を持つことでしょう。以下はあなたがこの章で考察した概念のいくつかです。それぞれが子どもたちの精神的教

育という文脈の中で果たす役割について、あなたは保護者にどう説明しますか。聖典からの引用文の中に、保護者との会話で共有すると良い、なんらかの概念に関連するものはありますか。

称賛に値する性格の発達： _____

精神的資質の習得： _____

祈りが子どもたちの心に及ぼす効果： _____

神の聖句を暗記する重要性： _____

アブドル・バハの人生からのストーリーが子どもたちに及ぼす啓発的影響： _____

神の愛と神への畏れ： _____

規律と自由： _____

マリベルさんは考えを説明するとき、間を取って、エマちゃんのお母さんに自分の思いを述べるよう誘うことにしました。時間の経過とともに、教師と、子どもの保護者との間に深みのある会話が展開されることが期待されます。最初の訪問の時から、検討中のテーマについて保護者たちからコメント、思い、アイデアを引き出すようにすることは、教師たちにとってなぜ重要なのでしょうか。

精神的資質という概念について、保護者たちと一般的な話し合いをすることに加えて、それぞれのレッスンが彼らの息子や娘に発達させようとしている特定の資質について話し合うために年間を通じて現れる機会を利用する必要があります。レッスン1で扱われている心の純粋さという資質について、あなたが得た洞察を念頭に、そのような会話へのアプローチの仕方を、グループで話し合しましょう。

エマちゃんが、参加しているクラスがもたらす利益を完全に吸収するのを助けるには、自分とエマちゃんのお母さんとの相互理解とサポートが必要であるとマリベルさんは知っています。例え

ば、クラスで学んだお祈りや引用句は、保護者の援助で、家庭でも唱えることができます。そうすれば、子どもたちは、自分の心と魂に浸透し、その性格を形づくるものである神の言葉を、より良く心に刻み込むことができます。保護者たちは教師たちの活動をどのように支持し、強化することができるか、あなたのグループで話し合しましょう。

心身にとって望ましい属性は、長期間にわたる適切な教育を通してのみ、子どもたちに育成することができます。保護者との定期的な会合では、親が子どもに見ることができる進歩を強調すべきということは明らかでしょう。それがどんなに小さな進歩であってもです。その対話が進むにつれて、あなたは、どのようにそれらの達成を積み重ねていくか、保護者と一緒に考えることができます。そのような前向き志向のコミュニケーションができるようになれば、教師は子どもたちに見出した何らかの問題点について、細心の注意を払いつつ、その親と分かち合うことができます。その目的は、子どもが自分の問題点を克服するうえで役に立つ、協力の手段を見つけることにあります。あなたのグループで、保護者とそのような建設的なコミュニケーション方法を作ることの重要性について話し合ってみませんか。

セクション27

この章の初めに述べたように、このコースに参加した全ての人が子どもクラスの立ち上げに取り組むわけではありません。そうする人たちの中には、奉仕の他の領域に移る前に一時的にクラスの開催を選択する人もあるでしょう。また、ある人たちは、長期間のクラスを維持しつつ、子ども達の中に神の愛を育成して、この分野の活動に専念するでしょうが、参加者がたどる道に関係なく、誰もが、隣人の訪問、集まりや会合への参加、あるいは兄弟や親として自分の共同体の子どもたちと交流する機会をもつでしょう。どのような参加者であれ、この章でとりあげた概念や考え方は、共同体全体に子どもたちを世話する責任があるということを参加者たちに認識させると同時に、万国正義院の記述にあるように、子どもたちは共同体の「最も貴重な宝」であるといった洞察も与えてくれます。私たち皆が、人類の明るい未来に期待の目を向けるとき、以下の引用文からインスピレーションと支えを引き出すことができますように。

全ての者に、神の僕^{しもべ}らの間に神の言葉の称揚、そして同様に、存在の世界の進歩と魂の高揚につながるものを我は規定した。この目的達成にとって、最高の手段は子どもの教育である。³⁸

子どもたちの教育と訓練は人間が行う最も価値ある行動の一つであり、慈悲に満ち給う御方の恩寵とご好意を引き出す。なぜなら、教育は人類の全ての卓越性の不可欠の基盤であり、人間に永続する栄光の高みへと向かう努力を可能にするからである。もし子どもが幼少期から訓練されれば、その子は「聖なる庭師」の優しい世話を通して、小川の流れの間にある若木のように、精神と知識の澄^すみきった水を飲むであろう。そして、その子は、確かに、自分自身に「真理の太陽」の輝く光線を集め、その光と熱を通して人生の庭で新鮮でまっすぐに成長し続けるであろう。…

もし、この極めて重要な任務に、非常な努力が払われれば、人間の世界は別の飾りで輝き、最も美しい光を発するであろう。それから、この暗い場所は明るくなり、この地上の住まいは天国に変わる。³⁹

参考文献

1. From a message dated 21 April 2000, published in *Messages from the Universal House of Justice, 1986–2001: The Fourth Epoch of the Formative Age* (Wilmette: Bahá'í Publishing Trust, 2010), no. 331.26, p. 727.
2. Bahá'u'lláh, in “A Compilation on Bahá'í Education”, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, published in *The Compilation of Compilations* (Maryborough: Bahá'í Publications Australia, 1991), vol. 1, no. 576, p. 251.
3. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 106.1, p. 187.
4. 'Abdu'l-Bahá, in “A Compilation on Bahá'í Education”, published in *The Compilation of Compilations*, vol. 1, no. 614, pp. 273–74.
5. バハオラ、「落穂集」、122
6. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 108.1, p. 188.
7. Ibid., no. 110.2, p. 190.
8. Ibid., no. 100.2, p. 179.
9. Ibid., no. 99.1, pp. 178–79.
10. Ibid., no. 103.5, p. 183.
11. Ibid., no. 122.1, pp. 198–99.
12. Words of 'Abdu'l-Bahá, cited in *Star of the West*, vol. 8, no. 4 (17 May 1917), p. 41.
13. バハオラ、「落穂集」、136、また、「バハイ 祈りの書」(2015年版), p.1

14. From a talk given on 5 August 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), par. 6, p. 345.
15. 'Abdu'l-Bahá, in *Prayer and Devotional Life: A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, the Báb, and 'Abdu'l-Bahá and the Letters of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2019), no. 24, p. 7.
16. バハオラ、「落穂集」、43
17. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 24 April 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 1, p. 71.
18. バハオラ、「かくされたる言葉」アラビア編、3
19. 同上、アラビア編、12
20. 同上、アラビア編、11
21. バハオラ、「落穂集」、128
22. *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.43, p. 31.
23. バハオラ、「かくされたる言葉」アラビア編、59
24. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 26 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 1, p. 204.
25. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 129.2, p. 204.
26. バハオラ、「落穂集」、155
27. 同上、153

28. バハオラ、「かくされたる言葉」アラビア編、9
29. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 24 April 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 4, p. 73.
30. Bahá’u’lláh, *Epistle to the Son of the Wolf* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1988, 2016 printing), p. 27.
31. バハオラ、ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、イシュラカトの書簡(輝き)
32. アブドル・バハ、「聖なる文明の秘訣」
33. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 111.1, p. 191.
34. Ibid., no. 95.2, pp. 176–77.
35. Ibid., no. 111.4, pp. 191–92.
36. Ibid., no. 124.1, p. 200.
37. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版), p.209
38. From a Tablet revealed by Bahá’u’lláh, in *Social Action: A Compilation Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 2020), no. 178, p. 107.
39. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 103.1–3, p. 182.



第二章 子どもクラス 1年目のためのレッスン

目的

性格の洗練に焦点を当てて、祈りや聖句の暗記、歌、物語、ゲーム、ぬり絵で構成される5、6歳児のためのクラスを教える能力を発達させる

セクション1

前の章で、あなたは最初の学年を教える活動の性質について考え、レッスンを構成する様々な要素を検討しました。この第2章には、知っての通り、精神的資質の発達を中心に構成された24のレッスンが含まれます。予備のセクションで、あなたはレッスンの内容に精通し、それらを実施する練習の機会を得ました。まず私たちは、一回で4つのレッスンをとりあげて、それらが扱っている精神的資質を熟考します。それから、次の4つのレッスンに進む前に、同じグループの参加者と共に、レッスンについて詳しく検討し、各活動を順番に、実践するようおすすめします。

セクション2

1年目のクラスは毎回、先生が唱えるお祈りで始めるべきです。4つのレッスンごとに新しいお祈りが提案されます。つまり、全部で6つのお祈りが紹介されます。もしあなたが、これらのお祈りを暗記できれば、子どもたちの暗記の努力を大いに励ますことができます。レッスン1から4では、先生が唱えるものとして、次のお祈りを提案します。

おお神よ、この子らを養い給え。この子らはあなたの果樹園の若木であり、あなたの牧場の花であり、あなたの庭園のバラであります。あなたの雨をこの子らの上に降らせ給え。あなたの愛で、彼らの上に真理の太陽を輝かせ給え。そしてこの子らが訓練され、成長し、進歩し、最高の美しさを現すことができますよう、あなたの微風を送り給え。あなたは与え給う御方、^{あわ}憐れみ深き御方におわします。¹

上のお祈りを唱えた後で、何人かの子どもに、自分の覚えているお祈りを唱えるよう促します。始めは、全員がクラスのこの部分に貢献できるというわけにはいかないでしょうが、子どもたちがこの学年で学ぶお祈りを暗記してくるにつれ、徐々に、もっと多くの子どもが暗唱することができるようになります。前の章での学習から、あなたはすでに以下のものを知っているでしょう。この最初のいくつかのレッスンで、子どもたちはこの祈りに集中して暗記する努力をします。

彼こそは神におわします。おお神よ、わが神よ。私に、真珠のように清らかな心を与え給え。²

クラスの冒頭でお祈りに当てられるこの時間はとても重要です。それは神への献身の雰囲気、学習を助ける雰囲気を創り出します。アブドル・バハは、子どもたちを集めてお祈りを教えることは、子どもたちの心に「喜びをもたらす」と教えておられます。神との対話で、「より高い知性からな感情が生まれます」。

子どもたちは、神に対する深い^{うやま}敬いの念を発達させ、お祈りの時にそれを反映する姿勢をとるよう支援される必要があります。彼らは、自分がお祈りをしている時であれ、他の人が祈るのを聞いているときであれ、心と思いを「聖なる言葉」に集中させるように助けられる必要があるかもしれません。先生は、敬いの念をどのように示すことができるか子どもたちに問うことができるでしょう。例えば、どのように座るか、気を散らさないようにするために手はどうすべきか、もし子どもたちがキョロキョロしているのを見つけたら、目をどうすべきか。先生はまた、お祈りの準備の仕方を子どもたちに実演させることもできます。また、次のことを覚えておくといいでしょう。つまり、騒々しい中で子どもたちの全員が一つずつお祈りをするよりも、3、4人の子どもが精神的な雰囲気の中でお祈りを唱える方が良いということ。ですから、クラスの開始時にお祈りをする子どもを、前もって選んでおくようおすすめします。三つか四つのクラスごとに、少なくとも一度は、どの子もお祈りを唱える機会を与えられるようにしなければなりません。

その年度を通して、あなたは、祈りの性質や、なぜ祈るのかについてクラスの子どもたちと、適宜話すことは重要です。最初の数週間で、あなたが子どもたちに言う必要があると思うことを、下の欄に書いてみましょう。

セクション3

ここで、あなたのグループの皆で、最初の4レッスンを一つずつ、注意深く読みましょう。特に導入の部分のコメントと、子どもたちが暗記しようとしている引用文に注目しなければなりません。もちろん、あなたは、最初のレッスンは純粋と言うテーマに焦点を当てていることを知っています。次の三つの各レッスンの中心となっている精神的資質を書き出しましょう。

レッスン1: 純粋

レッスン2: _____

レッスン3: _____

レッスン4: _____

これらのレッスンを教える準備として、あなたがすでに最初の章で、心の清らかさについて行ったように、各レッスンが扱っている資質について熟考するために少し時間をとる必要があります。以下は清らかさ以外の三つの資質に関連する聖なる書からのいくつかの引用文です。あなたのグループでそれぞれの文を何度か読み、あなたのクラスの子どもたちが暗記する引用文を念頭に、それらの文について一緒に考えましょう。その後、個人の生活の中で、一般に、また特に先生としてのあなたの活動において、この資質が意味することについてあなたの考えのいくつかを書き出しましょう。これらの引用文は、クラスの子どもたちのためのものではなく、あなた自身の熟考のためのものであるということを忘れないでください。

正義について、聖典はこう述べています。

人間の光とは「正義」である。圧制や暴虐ぼうぎやくという逆風ぎやくふうによってそれを消すことなかれ。正義の目的とは人々の間に和合をもたらすことである。³

正義の輝きに比較できるものはない。世界の組織と人類の平穩は正義に依存する。⁴

世界を鍛えるものは「正義」である。なぜなら、それは報酬^{ほうしゅう}と罰^{ばつ}という二本の柱によって支えられるからである。これら二本の柱は世界の生命の源である。⁵

おお心霊の子よ！

すべてのもののうち、わが目に最愛なるものは正義である。汝^{なんじ}もし、われを求むるならば、正義にそむくな。またわれ汝を信頼^うし得るよう、それを等閑^{なわざり}にするな。その助けにより、汝、他人の目ならぬ汝自らの目にて見、隣人の理解力ならぬ汝自らの理解力にて知らん。汝の心のうちに熟考せよ。汝はいかにあるべきかを。まことに正義こそは、わが汝への贈物^{おくりもの}であり、わが慈愛のしるしである。さらば、それを汝の目前^{もくぜん}に置け。⁶

愛という資質について、聖典はこう述べています。

愛の真髓^{しんずい}とは、主^{しゅ}がお望みになることのみを求め、神以外のすべてから超脱し、『最愛なる御方』の方へ心に向けることである。⁷

この時代に、神の大業に仕えることは、神の友らの間に愛と親睦^{しんぼく}を生み出すことである。⁸

聖なる顕示者たちの出現の目的は、常に、人間世界に親睦と愛を確立することであった。⁹

「愛」は神の聖なる「宗教制」の神秘であり、慈悲に満ち給う御方の顕示、精神的流出の源泉であるということを確認せよ。愛は天上の優しい光、人間の魂を活気づける聖霊の永遠の息吹である。¹⁰

そして、誠実に関して、私たちはこう助言されています。

言挙げ^{ことあ}よ。正直と礼節をもって自らを飾る装飾とせよ。¹¹

誠実でなければ、神のすべての世界における進歩と成功は、誰にとっても不可能である。¹²

誠実は、他のすべての美德を包含するので、もっともすばらしい資質である。誠実な人は、あらゆる道徳的苦しみから保護され、すべての邪惡な行為を嫌悪し、すべての不正な行動から守られるであろう。というのも、あらゆる悪徳と非行は、まさしく、誠実であることの正反対であり、誠実な人はそれらを完全に忌み嫌^{い きら}うからである。¹³

ここで、これらのレッスンで子どもたちが暗唱することを学ぶ引用文の暗記の他に、あなたは各セットから少なくとも一節を暗記するようおすすめします。

セクション4

上での振り返りを念頭に、あなたが最初の4レッスンで子どもたちに語ろうとしている物語をもう一度、読んでみましょう。お気づきでしょうが、4つのうちの3つは、最高の人間像を表されたアブドル・バハの生涯からとったものです。1年目であなたが教える子どもたちの中にはアブドル・バハという人物についてまだよく知らない子もいるでしょうから、あなたは彼らに、アブドル・バハのことを簡単に紹介する必要があるかもしれません。ブック2第3章であなたが学んだことは、アブドル・バハの特有な地位に対するあなた自身の認識を高めたでしょう。それに続くコースを学習するにつれ、あなたは、アブドル・バハという人物の中に、神が人類に授けられたこの貴重な贈り物について、神への感謝が深まるでしょう。1年目の最初のレッスンを始める子どもたちに、あなたは、アブドル・バハについて何を伝えますか。

第1章の学習で学んだように、あなたは、子どもたちに物語を語るとき、子どもたちが物語で述べられている出来事を超えて、精神的実態を見るよう助ける努力をしましょう。既に、レッスン1にあるアブドル・バハの晩餐に招待された女性の物語が、純粹という資質の意味、そしてそれを目指して努力することの意味についての子どもたちの理解をどのように助けたか考える機会を与えられました。次の3つのレッスンにある物語について、同じようなやり方で調べてみましょう。

既に見てきたように、レッスン2のテーマは正義で、そのレッスンでは、アブドル・バハの正義への関心を描写する物語を語ります。これは、ある日、アブドル・バハがアッカからハイファへ旅をされた時に起こった出来事を述べています。この中には、子どもたちが物語を追う時に把握しなければならない幾つかの詳細があります。例えば、公衆の馬車と一人乗りの馬車の座席の違いです。この差を把握することによって、子どもたちは、アブドル・バハが、困っている人たちに精神的、物質的な支えを与えるためにご自分の快適さを断念されたということをより容易に理解できるようになるでしょう。アブドル・バハの生き方、つまり、不必要に自分自身のためにお金を費やすのではなく、困っている人たちのために与える生き方は、正義という精神的資質を表している、ということ子どもたちが理解するのを確実にするためにあなたはどうしますか。この物語を子どもたちに聞かせる前にあなたの中ではっきりさせておかなければならない点をいくつか、ここに書きましょう。

レッスン3のテーマは愛です。ここであなたは、アッカの1人の男についての物語を子どもたちに聞かせます。この男はいつもアブドル・バハに失礼な態度をとるにもかかわらず、長年にわたり、アブドル・バハは彼に優しさを示されました。もちろん、親切にしてくれる人たちを愛することは簡単です。しかし、アブドル・バハの愛には限りがなく、無条件のものでした。あなたがこの物語を語ると

き、アブドル・バハの愛のこの性質を子どもたちにはっきり分からせるため、あなたは どうしますか。無知であるために間違った行いをする人の心を変革させる愛の力について理解するのを、どのように 助けますか。その部分を抜かしたら、物語の筋を追うことや、この洞察を得ることが子どもたち にとって難しくなると思われる部分をいくつか挙げましょう。

誠実という資質に焦点を当てているレッスン4は、狼だと叫ぶ羊飼いの話を含みます。この話は 広く知られています。物語は、若い羊飼いがついた嘘の結末を示しており、子どもたちはそれを簡 単に把握できるでしょう。しかし、子どもたちにもっと先を見、誠実であることの褒美を認識して欲し いと思うでしょう。その褒美は何か、あなたは、子どもたちがこの物語から確実にそれを探り出すよ うにするため、どうしますか。

セクション5

ここまでのセクションで、あなたは、1年目の最初の4つのレッスンで扱われている精神的資質に ついて考え、それらの重要性について理解を深めました。また、生徒たちにこの学年で一層発達 させてほしいと願っている資質の性質を、物語がどのように垣間見せるか理解しました。

次の4つのレッスンに移る前に、他の参加者と一緒に最初の4レッスンを教える準備のために時間をかけるべきです。前の章で話し合ったアプローチを見直しながら、暗記するお祈りの紹介や、暗記しようと決めた引用文を含め、各レッスンで焦点を当てる精神的資質の説明の練習を、皆で順番にしてみてください。自信を持ってそれらを教えることができるようになるまで、お互いに、物語を語り合い、ゲームをし、歌を歌ってください。それぞれのぬり絵をどのように説明するか考えてください。この実習を始める前に、第1章のセクション17から24を復習すると助けになるでしょう。提案に沿ってそれぞれの要素を練習した後、あなたのグループの各メンバーは、一つかそれ以上のレッスンを教えるようにします。その時、他のメンバーは生徒の役をします。状況にもよりますが、3、4人の子どもたちを集めて、一緒にレッスンを行うことも可能かもしれません。

上記の実習を実践するとき、各レッスンについてノートを取り、その教え方についてあなたの考えを記録しておきたいでしょう。更に、いくつかのゲームには、事前に準備する必要があるかもしれません。先生たちの多くは、第1章に説明したノートにそのような準備のことを書くページを作っています。

しかし、注意してほしいことがあります。あなたは教科書とノートをクラスに持って行くでしょうが、単にそれらを読むだけということがないようにしなければなりません。その内容をゆとりと熱意を持って提示できれば、生徒たちは活動に積極的に取り組むでしょう。ですから、練習と準備は不可欠です。

セクション6

レッスン5から8では、クラスの冒頭で下記の祈りを暗唱することをおすすめします。

おお、お優しい主よ。これらの^{うるわ}美しい子どもたちは、あなたの御力の手によって創造されたものであり、あなたの偉大さのすばらしいしるしであります。おお神よ、この子らを守り給え。この子らが教育されるよう恵み深く助け、人類世界に奉仕できるよう援助し給え。おお神よ、この子らは真珠であります。ご慈悲の真珠貝の中で養育されるようなし給え。

あなたは恵み深い御方におわし、すべてを愛し給う御方におわします。¹⁴

上記の言葉を熟考しながら、あなたが行なっている子どもクラス担当の任務について考える時間をとってはどうでしょうか。これらの言葉はあなたが毎週のクラスでとるアプローチにどのように影響するでしょう。それらの言葉は、どのように、子どもたちの優しい心に神の愛を強めますか。

レッスン5から8では、下にあるお祈りを子どもたちが暗記するのを助けます。周知のように、子どもたちがその意味をある程度理解していれば、暗記するのはより簡単になります。これについて、あなたの考えのいくつかを下記の空欄に書き留めてください。子どもたちにとって新しい、あるいは慣れていない言葉はどれでしょうか？それらを、子どもたちに分かりやすい状況を通してどのように説明できますか？そのような言葉の他に、次の説明も必要でしょう。つまり、ランプや星は共に光を与える、光がなければ闇となり、見ることができず道に迷ってしまうということ。そこで、このお祈りで私たちは、精神的な光を放射できるよう嘆願し、お望みのままになし給う神の御力を証言します。

神様、私をお導き下さい。お守りください。私の心の灯^ひを明るくして、私を輝く星となし給え。あなたは偉大なる御方におわし、力に満ち給う御方にまします。¹⁵

セクション7

ここでレッスン5から8までを、特に、生徒たちと分かち合う導入の説明と暗記するようすすめられている引用文に注意を払いつつ、一つずつ読みましょう。各レッスンで話し合った精神的資質をここに示してください。

レッスン5: _____

レッスン6: _____

レッスン7: _____

レッスン8: _____

以下は、これら4つの資質について洞察を与えてくれる、聖典からのいくつかの引用文です。前に実施したのと同じように、各セットについて熟考し、下の欄にあなたの考えをいくつか書き出しましょう。

寛大という資質について。

と
富める時には寛大であり、損失にあっては忍耐せよ。¹⁶

寛大の始まりとは、己の富を己自身とその家族、そして信教の中の恵まれない仲間のために^{つい}費やすことである。¹⁷

反対に会えば会うほど、自身の誠意を示すようにすべきである。直面せねばならない苦難や災難が多ければ多いほど、より寛大に、恵み溢れる^{さかずき}杯を周囲の人々と分かち合うように。そのような精神が、世界の生命となるのであり、その中心にあるのは広がる光なのである。...¹⁸

汝ら、寛大の夜明け、存在の神秘の夜明けの地点、靈感が降り来る^{お く}地、輝きの立ち上る地点であれ。汝ら聖霊によって支えられた魂、主に魅了^{みりょう}された者、神以外の全てを離脱した者、人間の性格を超えて聖なる者、天上

の天使たちの属性をまとう者となれ。そうすれば、汝らはこの新しい時代、この素晴らしい時代に全ての最高の賜物たまものを勝ち取れよう。¹⁹

無我について、私たちはこう勧告されています。

…あなた方は、互いに対して無限の愛を持ち、互いに自分よりも相手を優先させなければなりません。²⁰

主よ、私に無我の聖盃せいはいから飲ませ給え。自我なき衣ころもで私を装よそおわせ、無欲の大海原ひたに浸らしめ給え。おお至上の主よ、私をあなたの愛し給う人々の通路ちりの塵のごとくなし給え。あなたの道を行く選ばれた人々の歩みによって気高くされた土に私の魂をささげることを許し給え。²¹

他の人々のために自分自身の利益を忘れる人こそが人間です。その者は、万人の福利ぼんにんのために自分の心地よさを手放します。それどころか、むしろ、自分の生命を人類の生命のために投げ出す覚悟でなければなりません。そのような人は人間界の誇りです。そのような人は人類世界の栄光です。そのような人は永遠の至福を勝ち取るものです。そのような人は神の御敷居しきいの近くにいるのです。そのような人は、まさに永遠の幸福あらわを顕す人です。²²

以下の引用文に、私たちは喜びの力学を垣間見ます。

喜びの翼^{つばさ}で神の愛の空間に舞い上がれ。²³

神の御前に達し、神の美を見、神のメロディーを聞き、神の神聖かつ高貴な、そしてその栄光ある輝かしい唇^{くちびる}から出た「言葉」によって活気づけられた者に大いなる喜びを！²⁴

喜びは私たちに翼を与えてくれます。嬉しいとき私たちはますます活気付き、知性はずっと鋭くなり、理解力はよりはっきりしてきます。²⁵

あなた方はできる限り、あらゆる会合で愛のろうそくを灯し、全ての心を優しさで喜ばせ、活気付けなさい。²⁶

以下の句は、実直について述べています。

言挙げよ、実直な魂は神の近くを切望する。あたかも乳飲み子が母親の乳房を欲しがるように。いや、その者の熱望はもっと熱烈である。汝、このことを知り得たならば！さらに、その者の熱望は、甚だしく恩寵の活水^{はなは}

を熱望する者の喘ぎ声^{あえ ぐえ}のようであり、また、罪人が許しや慈悲を切望するようである。²⁷

この頃、正直や実直は、偽りの支配によって苦しめられ、正義は不正の鞭^{むち}により苦しめられている。²⁸

すべての人々はこの儚^{はかな}い人生を実直さと公平さをもって通り抜けるべきである。²⁹

神の賜物^{たまもの}を受け取る者となるためには、心は純粹で、意図は実直でなければなりません。³⁰

上記の各セットから、少なくとも一つの引用文を暗記しましょう。

セクション8

ここでレッスン5 から 8までの物語に移り、それらの物語が探求している精神的資質について子どもたちが洞察を得るのをどのように助けるか考えましょう。各物語を読み、以下の質問について検討してください。

レッスン5の物語の主題は寛大です。それはアブドル・バハのお父様であるバハオラが所有されていた羊の群れを見に行った、幼少期のアブドル・バハのお話です。物語のどの部分がこの主題に関連していますか？もし省略されたなら、子ども達が物語を理解するのを難しくすると思われる詳細部分はどこでしょう？もちろん、もっとも重要なのは、羊飼いたちに対するご自分の息子の寛

大の精神について聞かされたとき、バハオラが示された喜びです。バハオラの所見は、いかにアブドル・バハが、人類の利益のためにご自分の持っているすべてのものを、単に物質的な所有物のみならず、自分自身をも捧げるように成長されるかを予告していました。どうすれば、アブドル・バハの、制限のない寛大さの程度を子ども達が確実に認識するようにできますか。

レッスン6の物語は、子ども達に無我であることについて垣間見せます。アブドル・バハは、高価なコートを受け取ることを断ることで、いかに自分よりも他の人を優先させるかを示されました。あなたの語りで子どもたちが必ずこの結論に達するようにするにはどうしますか。物語を話す前にあなたが明確にしておくべき詳細にはどのようなものがありますか。

レッスン7のテーマは喜びで、リロイ・アイオアスにまつわるお話です。リロイは子どもの頃にアブドル・バハに会い、その後、神の大業を広めるために人生を捧げた人です。この物語で、彼はアブドル・バハのために買った花束をアブドル・バハに渡さないで、代わりに自分の心をアブドル・バハに捧げたいと思いました。なぜリロイはこれをしたのか子どもたちが理解するように、どんな物質よりもはるかに貴重なものは人の心である、ということを伝えることが重要でしょう。物語のこの部分を話す時、声を強めるだけで十分でしょうか？子どもたちが、一連の要点に沿って、また、ご自分のコ

ートから取り出した赤いバラをリロイに渡すというアブドル・バハの行為が、なぜリロイをそれほど喜ばせたかを理解するのを助けるには、あなたの語りでどの部分を強調する必要がありますか。

アブドル・バハはその生涯を通して、彼に会う全ての人に喜びをもたらされました。このお話で、リロイはアブドル・バハの心を喜ばせること以外には何の望みも持たなかったと分かります。人々に喜びをもたらすことは、喜びの最大の源の一つであると理解することは、子どもたちにとってどうしてそれほど重要なのでしょうか。

レッスン8の焦点は実直です。子どもたちにこの物語を紹介する時に、場合によっては、その資質を持っていないことを示す物語を聞いて、その資質を持つことの意味をより良く理解できることもある、と説明してもいいでしょう。隣人に木を切り倒すよう説得する男の物語はその一つの例です。外見は時に人を欺くことがあるということの意味を子どもたちが把握するのを、あなたはどのように助けますか。物語を語る時、このことを確実にする必要があります、つまり、子どもたちに、言行の一致しない隣人が実際は報われたと思わせてしまわないことです。言行不一致の悪影響を子どもたちが理解するのを助けるためにあなたは何を話しますか。

セクション9

レッスン5から8で扱った精神的資質についてのいくつかの洞察を得た今、最初の4つのレッスンと同じように、参加者の皆さんと、それらのレッスンとさまざまな要素を実践する練習をするためにここで時間をとります。あなたのノートに各レッスンについて、残しておきたい要点を書きとめ、それをどのように教えるかについてあなたの考えを記録しておくことを忘れないようにしましょう。

セクション10

レッスン9から12のために、各クラスの始めに以下のお祈りを唱えます。このお祈りの暗記をお勧めします。

おおわが主よ。あなたの美を私の糧^{かて}となし、あなたの存在を私の飲み物とし、あなたのお喜びを私の希望となし給え。また、あなたの賛美を私の行動に、あなたの記憶を私の伴侶^{はんりょ}に、あなたのご主権の力を私の救いに、そしてあなたのお住まい^{おお}を私の住まいになし給え。そして私の住まいを、暗幕で被われたかのようにあなたから閉め出された者らに課された制限から聖別し給え。

まことにあなたは、全能者におわし、栄光に満ち、最も力強い御方におわします。³¹

これら4つのレッスンで、あなたは生徒たちが以下のお祈りを覚えるのを助けます。子どもたちがこのお祈りの意味を把握するために、どの言葉、または句について説明する必要がありますか。

神の御名が述べられ、神の賛美がうたわれた、この地、この家、この場所、この町、この心、この山、このかくれ家^が、この洞穴^{ほらあな}、この谷、この大地、この海、この島、そして、この草原に、祝福あれ。³²

セクション11

前に行ったように、レッスン9から12を、冒頭のコメントと暗記のための引用文に特に注意を払いつつ、通して読みましょう。下の欄に、各レッスンが焦点を当てている精神的資質を書き出してください。

レッスン9: _____

レッスン10: _____

レッスン11: _____

レッスン12: _____

上の4つの資質の重要性についてあなた自身の理解を深めるために、それぞれに関連する引用文の選集について振り返りましょう。その際、あなたの生徒たちが暗記する文節を念頭に置いておいてください。その後、個人の生活において、また子どもたちの教師としてその資質の重要性についてあなたの考えを書き留めてください。

けんきよ
謙虚という資質について、聖典はこう語ります。

けんそん 謙遜は人を栄光の天まで高めるのに反し、うぬぼ 自惚れはみじ 惨めさとだらく 墮落のどん底へ人を落とす。³³

この日、神と共に謙虚に歩み、神にすぎるすべての魂は、あらゆる良き名と地位の栄誉と栄光を授かる自己を発見するであろう。³⁴

いかなる場所に集い、いかなる人と接するときも、神に愛される人々は神に対する態度と、神を賛美しその栄光を称える姿勢を通じて自らの謙虚さと従順を立証しなければならない。それは、彼らの足もとの塵ちりの原子が彼らの献身の深さを証言するほどのものでなければならない。³⁵

人の最高の特異点は、神の御前での謙虚と、神への従順であるということとは明らかである。³⁶

感謝の重要性について、こう述べられています。

なんじ
汝 これを知れ。われ汝に聖なる芳香のすべてを送り、汝にわが言葉を完全に啓示し、汝を通じてわが恩恵を完成し、われ自身のために欲せしものほっを汝のために欲せしことを。さればわが喜びに満足し、われに感謝せよ。³⁷

神をして、汝を完全に満ち足らすものとなせ。神の霊と親密に語らい、感謝する者であれ。³⁸

神は汝を強化し、彼の大業を支援できるようにし、汝の心の庭に知識と理解力の花を咲かせたのである。このことを神に感謝せよ。このようにして彼の恩寵は汝を覆おおいつつみ、全創造物をも覆いつつんだのである。³⁹

真実は、神が、自然界には与えられていない美徳、力、理想的な能力を授けてくださったということです。それにより人間は高められ、特徴付け

られ、他より優れているのです。私たちは、神が与えてくださったこれらの力、これらの賜物、神が私たちの頭上に置いてくださったこの冠^{かんむり}に対し、感謝しなければなりません。⁴⁰

下記の引用文は、許しについて語っています。

罪深い人々をゆるし、彼らの地位の低さを決して軽蔑してはならない。なぜならば、誰も自分の最期^{さいご}を知るものはいないからである。⁴¹

すべてのものの最も奥深い真髓^{しんずい}は万物を通じてこう証言している。「この日、すべての許しは神より流れでる。神は比類なき御方、協同者を持たない御方、全人類にその主権が及ぶ保護者、人間の罪を覆い隠す御方におわす」。⁴²

従って、誰の欠点も見ることなく、許しの目で見なさい。不完全な目は欠点を見ます。短所を覆い隠す目は、魂の創造者の方を見ます。⁴³

誰によっても気分を害されることがないようにしなさい。もし誰かが過ちを犯し、あなたに不正を働いたら、直ち^{ただ}にその者を許しなさい。⁴⁴

以下の引用文は、私たちが熱望する正直の基準を述べています。

言挙げよ——正直や美德や英知、そして高德な人格は人の地位を高めるが、不正直や詐欺や無知、そして偽善は人を卑しめる。⁴⁵

おお、神の都市の神の友らであり、神の国土において神に愛されし者らである汝ら！この虐げられし者は汝らに正直さと敬虔さを命じる。それらの光に照らされる都市に祝福あれ。その光を通して人間は高められ、安全の扉は全創造物の面前に解錠された。それらにしっかりと掴まり、それらの効力を認識する者は幸いなり、そして、それらの地位を否定する者に災いあれ。⁴⁶

まことに、信頼と英知と正直は、創造された者たちをかざる神のうるわしいかざりである。これらの美しい衣は、すべての身体を被うにふさわしいものである。このことを理解する人は幸いであり、これらの美德を身につける人は幸運である。⁴⁷

上の各セットから、少なくとも一つの文を暗記してみませんか。

セクション12

ここで、これら4つのレッスンの物語が、あなたの生徒たちにどのように上記の資質についての洞察を示しているかみて見ましょう。

レッスン9の物語は、アブドル・バハがあるお金持ちの訪問者に会われた時に起こったことを述べていて、アブドル・バハの完全な謙虚さを子どもたちに例証しています。アブドル・バハはものものしい華美な扱いをお望みでなかったと言うのが、中心的テーマです。どのような方法で、この物語はアブドル・バハの謙虚さを表していますか。もちろん、鉢、お水、芳香のするタオルなど特別な類の華美は興味深い詳細でしかなく、それがこの物語を語るときに中心となるテーマから注意を逸らさないようにしなければなりません。代わりに、強調すべき点は結論です。それは、アブドル・バハの謙虚さと、他の人たちに奉仕したいというアブドル・バハの願いについて、子どもたちの理解をどのように深めるでしょうか。

レッスン10のテーマは感謝です。ここで子どもたちは、アブドル・バハを訪問し、自分の悩みや災難の全てを彼にぶちまけた女性についての物語を聞きます。後に、アブドル・バハは彼女にミルザ・ハイデル-アリさんを紹介し、アリの人生はとても大変でしたが、神様からいただいたすべての祝福に感謝し、決して嘆いたりはしませんでした。あなたがこの物語を語る時、アブドル・バハは意味もなくミルザ・ハイデル-アリをこの女性に紹介されたのではない、ということを生徒たちにはっきりさせたいでしょう。この女性はアリに会うことで何を学ぶと思いますか。この物語はこの主題をどのように伝えようとしていますか。

レッスン11のテーマは許しです。ここで生徒たちに話すアブドル・バハについての物語は、私たちが許す人たちに及ぼす許しの影響を示すものです。子どもたちが一連の考えについていけるようにするため、この物語には明確に語るべき詳細がたくさんあります。その中にはアッカの知事のことがあります。その知事はアブドル・バハと、アッカのアブドル・バハの仲間たちを傷つけようとしていたのです。この物語で、アブドル・バハは、知事の行動を許すだけでなく、全てを失った知事を親切に扱い、彼が窮地に立たされている時に援助されたのです。この物語から子どもたちに分かってもらいたいこと、それはつまり、アブドル・バハが示されたように、許しは、私たちに危害を加える人たちに対して悪感情を抱かないということ以上のものです。子どもたちがこのことを把握したか、どのようにして判断しますか。

レッスン12の物語で、子どもたちは、不当な運賃を要求した馬車の御者にアブドル・バハがどう応えられたかをみます。アブドル・バハは親切と礼儀の真髄ですが、ご自分、あるいは他の人たちに対して行われる不誠実、あるいは欺瞞的行動を決してお許しになりませんでした。御者はアブドル・バハの応対から何を学んだと思いますか。不正直であることによって実際に失うものは、御者が受け取り損なったかなりの額のチップのような、物質的なものよりもはるかに大きいということを、子どもたちが理解するのをあなたはどのように助けますか。

セクション13

レッスン9から12で扱われている活動を、参加者と一緒に実践の練習をしたら、次の4つのレッスンに移ります。レッスン13から16では、以下のお祈りを空で唱えることでクラスを始めるようにします。

おお、慈悲深きわが主よ！これは、あなたのお喜びの庭に育てられたヒヤシンスであり、真の知識の果樹園に現れた小枝であります。おお、恵み深い主よ。常に、またいつでも、あなたの活気づけるそよ風によって、元気づけ、あなたの恩寵の雲から溢れる雨により、緑豊かに、みずみずしく繁茂させ給え、おお親切なる主よ。

誠に、あなたは栄光に満ち給う御方におわします。⁴⁸

以下のお祈りは、レッスン13から16のなかであなたの生徒たちが暗記することになっているものです。この意味についての子どもたちの理解を助けるために、彼らにとって新しい、あるいは馴染みのない言葉や文言を特定し、それらの説明をするため適切な例文を考えておく必要があります。当然、子どもたちはお祈りのイメージを容易に掴むでしょう。そのイメージは、あなたがこれらのレッスンで、空で唱えるお祈りと共鳴するでしょう。

おお主よ、このいとけなき苗を、あなたの多様な賜物の庭園に植え、ご慈愛の泉より水を与え給え。ご恩寵と御恵みの雨を降り注ぐことにより、このいとけなき者が立派な木に成長するようなし給え。あなたは強大にして、力に満ち給う御方におわします。⁴⁹

セクション14

いつものように参加者と共にレッスン13から16を通して読み、それぞれのレッスンが扱っている資質を書き出しましょう。

レッスン13: _____

レッスン14: _____

レッスン15: _____

レッスン16: _____

以下の引用文は、あなたが前に行ったように、これらのレッスンで検討されている精神的資質についてさらに熟考する機会を与えるでしょう。

思いやりを示すことの重要性について、こう述べられています。

^{あわ}
憐れみの光を放ち給え。それにより、心が浄化され、清められるように、また、彼らがあなたの授け給うた確証の分け前を受け取ることができるように。⁵⁰

あなたの行動がランプから射し出る光と同様に輝くよう、同情を示しなさい。⁵¹

汝らは一つの木の果実であり、一つの枝の葉である。全人類に対して同情と親切を示しなさい。⁵²

今や、神を愛する者らは神の次の指示に従うために立ち上がらなければならない。つまり、人類の子らに対しては親切な父親となり、若者に対しては思いやりを示す兄弟となり、年を経て腰の曲がった者に対しては無私の子となるように。⁵³

ちょうだつ
超脱について、次のような忠言があります。

我以外のすべてのものを離れ、わが顔に^{おもて}面を向けよ。^{なんじ}汝らにとってこのことは汝らの所有するもの以上の価値がある。⁵⁴

この世のものや、この地上の虚栄と装飾を自らの喜びとしてはならない。同様に、これらのものに望みをかけてはならない。最も崇高にして、最も偉大なる神の^{おもかげ}面影に^{ぜんぶく}全幅の信頼を置け。⁵⁵

超脱の真髓は、人が顔を^{しゅ}主の宮廷へ向け、主の面前に達し、その御顔を見、彼の前で証人として立つことである。⁵⁶

超脱は太陽のようである。心にその太陽が輝くときはいつでも、^{どんよく}貪欲と自我の火は消される。視力が理解の光で照らされている者は、確かに、世界とその虚栄から身を^{いや}引き離す。… 世界とその卑しさに悲嘆することなか

れ。富を持って虚栄心に満たされることのない、また、貧困で悲しみに満たされることのない者は幸いなり。⁵⁷

以下の文は、満足という資質について述べています。

おお人の子よ！ 汝無限の空間を走り抜け、広大なる天空を横切ろうとも、汝はわが命令に服従し、わが顔の前にへり下る以外に安息は見出せないであろう。⁵⁸

おお激情の真髓よ！ すべての貪欲を捨てて満ち足りることを求めよ。貪欲なるものは常に奪われ、満足を知るものは常に愛され称賛されん。⁵⁹

したがって、黙従と忍従の道を歩め。いかなる苦難にも心を煩わされることなく、また、世俗的な贈り物に望みを託すことなきように。それがなんであれ、神の望み給うことに喜び、満足せよ。そうすれば汝の心と魂は平穏で、内なる存在と良心は真の喜びを経験するであろう。⁶⁰

下に挙げたものは、親切についての理解を深めます。

我は汝らが常に、わが喜びの樂園で友情と調和をもって交わるのを見、
汝らの行動に親睦と和合、親愛と親交の芳香をかぐのを喜ぶ。⁶¹

表面的に親切なだけでなく、心から親切であれ。神に愛される者らの一人一人の注意をこれに集中させよ、すなわち、人にとって主の憐れみとなり、主の恩寵となること。自分が出会うすべての人に何らかの良きこと、何か役 に立つことをなせ。⁶²

…どうして人々は互いに不正義や不親切を行い、神に反することを示すのだろうか。神は私たちを愛しておられるのに、なぜ私たちは敵意や憎しみを抱くのだろうか。もし皆を愛することがなかったなら、神は私たちを創造されることも、教育されることも、扶養されることもなかったであろう。親愛は聖なる方法である。⁶³

言葉だけで友情を示すことに満足してはなりません。あなたの道において出会うすべての人に対してあなたの心を愛情あふれる優しさで燃え立たせなさい。⁶⁴

上のセットのそれぞれから少なくともひとつの句を暗記してみましょう。

セクション15

レッスン13から16で取り上げている精神的資質について理解が深められたら、その4つのレッスンの物語を読み、以下の質問についてあなたのグループで話し合しましょう。

レッスン13のテーマは思いやりです。このレッスンの物語は、アブドル・バハに会いたいと願ってアブドル・バハの滞在されていたお宅のドアをノックした女性が、門前払いをくったということが含まれます。この物語のどの部分がこの女性に対するアブドル・バハの同情を表していますか。この物語を追いながら、思いやりの心は、全ての人に平等に関心を持つが、特に苦難、苦痛、悲嘆に暮れている人たちに対して敏感に反応するということを子どもたちが理解するのを助けるのはどの部分ですか。

レッスン14は、超脱という精神的資質に焦点を当てます。物語は聖地に旅することを決めた二人の友だちのことが含まれます。この二人のうち一人はお金持ちで、もう一人はそうでもありません。もちろん、超脱という資質についての洞察を得るため、子どもたちは、聖地への旅が神様に近づくことの象徴であることを理解する必要があります。あなたが、子どもたちに理解してもらいたいと願っている点は、超脱は自分がどれだけ所有しているかに依存するものではなく、神への接近を自分の所有物によって妨げられないようにしているかということです。物語は、この理解の育成をどのように助けていますか。

レッスン15の物語は、主題である満足という資質についての洞察を子どもたちにあたえます。アブドル・バハは、自分はアッカの牢獄都市に投獄されていた時、幸せであった、なぜなら、自分は当時、奉仕の道を歩んでいたからと仲間の人たちに告げられました。彼のおっしゃったことは満足ということについての子どもたちの理解にどのように影響しますか？どうすれば子どもたちは、牢獄の中であっても、アブドル・バハの精神は決して閉じ込められてはいなかったということが分かるでしょうか？

怒りと憎しみに^の呑み込まれていた、アッカのある男のことを含むレッスン16の物語に関連して、あなたはいくつかの詳細部分を強調する必要があるでしょう。そうしなければ、子どもたちはこれが親切という主題にどのように関係するか理解することができないかもしれません。それらの詳細はどれですか？自分の怒りと憎しみに長い間^の呑み込まれていたこの男は、アブドル・バハからどのようなことを学びましたか？

セクション16

レッスン13から16のあなたの分析は実り多く、あなたと仲間の参加者たちは様々な要素を共に練習するのを楽しんだことでしょう。レッスン17から20では、各クラスの開始時に、あなたは以下のお祈りを暗唱しましょう。

神よ、あなたを目指して進み行くこの僕しもべはご愛情の砂漠を夢中でさまよい、ご奉仕の道を歩いております。そして、ご恵沢けいたくを待ち望み、ご恩恵を願望し、御国に頼り、賜物の美酒に喜び勇んでおります。神よ、あなたの愛によせる僕の熱情をいや増し給え。あなたを称えまつる心を確固たらしめ給え。ご愛情こを乞う熱烈な願いをいっそう強くなし給え。

あなたは恵沢多き御方におわし、偉大なるご恩寵おんちようの御方にまします。あなたの他に神はいまさず、あなたは許し給い、ご慈悲に満ち給う御方におわします。⁶⁵

これらのレッスンで、子どもたちは以下のお祈りを空で唱える練習に集中します。あなたは、前にしたと同じように、子どもたちが暗記するお祈りの言葉を理解しているかを確かめる方法を書き留める必要があります。この祈りは前のものよりいくらか長めです。もし、子どもたちが割り当てられた4つのレッスン内で覚えるのは難しいと感じるなら、必要と思われる調整をする必要があるでしょう。

おおわが神よ、あなたの御名は私の治癒ち ゆであります。あなたを思いまつることは私の医薬であります。あなたのおそば近くにいることは私の望みであり、あなたへの愛情は私の伴侶はんりよであります。あなたのご慈悲は私をいやし、この世においても、来たるべき世においても私の救いでありまします。まことに、あなたは御恵みにあふれる御方におわし、全知にしてすべてに賢かしこき御方におわします。⁶⁶

セクション17

レッスン17から20の見直しを始めるにあたり、いつものようにそれらを一つずつ読み、子どもたちと一緒にそれらのレッスンで取り上げられる精神的資質を書き出しましょう。

レッスン17: _____

レッスン18: _____

レッスン19: _____

レッスン20: _____

以下は上記の資質の意味について洞察を得る上であなたと仲間の参加者たちを助けるいくつかの引用文です。それらについて話し合うとき、あなたは個人の生活の視点からだけでなく、それらが子どもたちの教師にとってどのような意味を持つかについて考えるべきであるということを忘れてはなりません。

勇気という資質についてはこう勧告されています。

完全に神の王国に向くようできるかぎり努力せよ、そうすれば、汝は生得の勇気と理想的な力を身に付けることができるであろう。⁶⁷

傷心の者にとっての慰^{なぐさ}めの源泉となりなさい。放浪者にとっての避難所となりなさい。恐怖にかられている者にとっての勇気の源泉となりなさい。こうして、神のご好意と援助を通し、人類の幸福の旗が世界の中心に高く掲げられ、全人類の合意の印が広げられますように。⁶⁸

希望に満ちていることの重要性に関して、こう述べられています。

神にすべての望みをかけよ。神の確かな慈悲に全力をもってすがれ。貧困にあえぐものを富ませ、墮落の淵^{ふち}にしずむものを救済^うし得るものが神以外にいようか。⁶⁹

おお浮動^{じんあい}する塵埃よ！ われ汝と霊の交わりをなさんと欲す。されど汝はわれに信頼を置こうとはせず。汝の反逆の剣は汝の希望の木を切り倒した。われは常に汝の傍^{かたわ}らにいる。されど汝は常にわれより遠くにいる。われ汝のため不滅の栄光を選んだ。しかも汝は、汝自らのために果てしなき恥辱^{ちじよく}を選んだ。間に合ううちに帰り来^{きた}って汝の好機を失うな。⁷⁰

人はあらゆる状況の下で神の祝福の海に身を浸している。したがって、いかなる境遇^{きょうぐう}にあろうとも希望を失わず、自らの望みに確固としてあれ。⁷¹

もし、神が与えたもう祝福に背けているならばどうして幸福を望むことなどできましょう。また神の慈悲を望まず、信じないとすれば、どこに平安を見出すことができるのでしょうか。おお、神を信じなさい。神の恩恵は永遠不滅のものであり、その祝福はすばらしいものだからです。⁷²

そして、信頼性について、聖典はこう語っています。

おお人々よ！今日、神の目にもっともうるわしく見える衣^{ころも}は、信頼性という美德である。この最高のかざりで装う人には、すべての恩恵と栄誉が与えられるであろう。⁷³

信頼性は、人類の町を守る砦^{とりで}のようなものであり、また人という神殿の目のようなものである。それを身につけない人は、神の王座の前では、視力に欠けている人に数えられる。⁷⁴

あらゆる地で、神の信頼性を現すものでありなさい。あなたがたは、たとえ山積みの黄金の町を通るときでさえ、一瞬たりともその誘惑で自分の目を奪われないほどに、この資質を完全に反映させなければならない。⁷⁵

以下の言葉は、燃え立つことについて述べています。

おお、友らよ！この日、あなた方は皆、神の愛の火で燃えたっていません。それにより、その熱があなた方の血管、四肢、身体^{もろもろ}の諸々の器官に現されるほどに、そして、世界の人々がその熱によって点火され、最愛なる御方の地平線に顔を向けることができるように。⁷⁶

世界の中心に燃えるこの不滅の炎をもって自らの魂に点火せよ。そして、宇宙のすべての水をもってしても決して冷ますことのできないほどの熱意をもって魂の炎を燃え立たせよ。⁷⁷

慈悲に満ち給う御方が創造の中心に灯されたこの不死の「火」の炎で、汝を明るく燃え立たせなさい。汝を通して、神の愛の熱が神の愛し給う者らの心に燃え上がるように。わが道に続き、全能者、最も高遠なる御方なる我を想い起こすことにより人々の心を陶酔^{とうすい}させなさい。⁷⁸

愛の火^{とも}を灯して、すべてのものを焼き尽くしなさい。そして、愛する者たちの地に足を踏み入れなさい。⁷⁹

レッスン17から20の各レッスンにある引用文を少なくとも一つ暗記しましょう。

セクション18

ここでレッスン17から20の物語を見てみましょう。それぞれを読んだ後、あなたのグループのメンバーと以下の質問について検討してください。

レッスン17ではアリ・アスカーについて話します。彼は、腐敗した役人から脅されても、嘘をついたり、騙^{だま}したりすることに同意することはありませんでした。子どもたちは既に、嘘は神の目に喜ばれないことであると、よく知っています。この物語は、神の教えへの従順がどのように勇気の源にな

るのか、子どもたちに理解させるでしょう。それがこのレッスンのテーマです。この物語のどの部分が、この結びつきについての子どもたちの理解を助けますか。子どもたちが物語の筋を追い、この重要な点を理解するのを助けるため、あなたが強調して語る必要があるのはどの詳細ですか。

レッスン18は、希望に満ちていることという資質が中心です。あなたは子どもたちに、落胆していた男性の話をします。その人は、アブドル・バハによって望みを取り戻しました。アブドル・バハはこの男性に優しさを注ぎ、その男性が神の王国で豊かであるということを思い起こすようにされました。神の王国で豊かであるということは、たくさんの物質的富を持つという意味ではありません。それはどういう意味でしょう。アブドル・バハの働きかけは、その男性の神の恵みへの信頼をどのように強めましたか。神への信頼なしに望みを持ち続けることは難しいということを子どもたちが認識するのを、あなたはどのように助けますか。

レッスン19のテーマは、信頼性です。この資質の重要性について説明するために、あなたはムハンマド・タキのお話をします。ムハンマド・タキは聖地で手紙を送ったり受け取ったりする任務をアブドル・バハから託されていました。子どもたちがこの主な考え方を見逃さないように、物語を語る時に心しておくべき詳細がたくさんあります。それらは何でしょう。ムハンマド・タキのことを述べる

のに、あなたは「頼りになる」とか、「頼もしい」という言葉を使うでしょう。あなたは、不注意であつて、同時に信頼性を持つことができますか。

レッスン20では、トーマス・ブレイクウェルという人が物語の中心になっており、燃え立つということにまつわるお話です。私たちが心に抱く神への愛の強さ——つまり燃え立つという資質——を理解する助けとして、火の灯ったキャンドル、輝く炎、燃える火という比喻が聖典でしばしば使われます。あなたは、この比喻によって生徒たちは燃え立つという資質の意味についてある程度理解すると確信すべきです。若い時から子どもたちは抽象的なことを考える能力があり、その能力は彼らの言語運用能力が発育するにつれて発達します。これらの考えを念頭に、この物語で、トーマス・ブレイクウェルがどのように神の愛の火で燃え立たされたかを示している部分を特定しましょう。また、この物語に興味を惹きつける部分はどこですか。

セクション19

レッスン17から20の要素を実地に行うことであなたと仲間の参加者たちは鼓舞され、1年目の最後の4つのレッスン、レッスン21から24に進む準備ができたことでしょう。ここで、あなたが各クラスの開始時に空で唱えるこのお祈りを唱えませんか。

おおわが神よ、私の心を清らかなものとなし給え。おお希望の君よ、私に安らかな良心をよみがえらせ給え。おおわが最愛なる御方よ、威力の靈により私を御教えに確固たらしめ給え。おおあこがれの的よ、ご栄光の光でああなたの道を示し給え。おおわが存在の源よ、すべてを超越するあなたの強大なる御力により、私をあなたの聖き^{きよ}天上に引き上げ給え。おおわが神にまします君よ、あなたの久遠^{くおん}の微風により私を喜ばせ給え。おおわが友よ、あなたの永遠^{しら}の調べを通じて私の上に安らぎの息吹^{ただよ}を漂わせ給え。おお師よ、古^{いにしえ}より続くお顔の富で私をあなた以外のあらゆるものから解き放ち給え。おお明らかなるものの中の最も明らかなる御方におわし、隠れたるものの中の最も隠れたるものにまします君よ。あなたの不朽^{しんずい}のご真髓の啓示^{きっぽう}の吉報により私に喜びをもたらし給え。⁸⁰

以下は子どもたちが一年目のクラスで暗記する最後のお祈りです。子どもたちはこのお祈りの意味の多くを容易に理解するでしょうが、彼らにとって新しい、または馴染みのない言葉や文節があればそれらをどのように説明するか考えておくべきです。

おお、お優しい主よ。私は幼い子どもであります。御国に迎え入れることにより私を高め給え。世俗的な私を、天来の者^{げかい}となし給え。下界に属する私を、天上の領域に属するものとなし給え。消沈^{しょうちん}した私を、輝かしい者となし給え。物質的な私を、精神的になし給え。そして、あなたの無限のご恩恵を明らかにすることを私に許し給え。

あなたは力に満ち、愛情あふれる御方におわします。⁸¹

セクション20

あなたが1年目の子どもたちに教える最後の4つのレッスンを読みます。その際、いつものように、生徒たちが暗記することになっている引用文を紹介するために彼らと共有する考えに特別の注意を払いましょう。各レッスンが焦点を当てている資質を書き出してください。

レッスン21: _____

レッスン22: _____

レッスン23: _____

レッスン24: _____

前のセクションで行ったのと同じように、以下の引用文は、これらのレッスンで扱っている精神的資質についてあなたと仲間の参加者の皆さんと一緒に考える機会を提供します。

輝くことの重要性について、聖典は述べています。

おお、神の愛の炎よ！光線は光を投げかけ、太陽は昇るべきである。満月は輝き、星はきらめくべきである。汝は光線であるから、光や啓発を与え、地平線を輝かせ、神の愛の炎で世界を燃え尽きさせることができるよう、主に嘆願せよ。⁸²

おお、人々よ。輝く精神と喜びをもって共に生活せよ。⁸³

全てを愛し給う神は、人間が聖なる光を放射し、言葉と行動、生き方によって世界を照らすために人間を創造されました。⁸⁴

人類への奉仕は神への奉仕です。汝を見るすべての人がその反射で照られるまでに、汝を通して王国の愛と光が放射されるようにしなさい。聖なる地位の高尚さの中で煌めく星々のように輝きなさい。⁸⁵

次の引用文から、忠実という資質についての洞察を得ます。

神の栄光は、汝に、そしてすべての確固として揺るぎない心に、またすべての不変で忠実な魂に宿らん。⁸⁶

汝、慈悲深き御方の侍女らに次の言葉を伝えよ。試練が激しくなる時、彼女らは揺るがず、バハへの愛に忠実でなければならぬ。冬、嵐がきて、大風が吹くが、やがて精華を發揮する春がやってきて、香りの良い植物や目に鮮やかな赤いアネモネが丘や平野を飾るであろう。⁸⁷

今日、主の御敷居で愛される者とは、忠実の盃を回す者、たとえ自分の敵にでも、恵みの宝石を授け、自分を抑圧する人にでも援助の手を差し伸べる者である。その者は、最も残忍な敵にとっても優しい友となる。⁸⁸

下の引用文は忍耐について、こう述べています。

おお人の子よ！ すべてのものには標^{しるし}がある。愛の標は、わが掟^{おきて}の下で
不撓不屈^{ふとうふくつ}の精神、わが試練^{けんれん}の下では堅忍不拔^{けんじんふはつ}なることなり。⁸⁹

確固として耐えるものに祝福あれ。あらゆる災難と苦しみに耐え、身に
降りかかった不幸^ふを嘆くことなく忍従の道を歩むものに祝福あれ。⁹⁰

取り消すことのできない神意^{しんい}によって制定されたことに満足し、忍耐強
く耐える者の一人となれ。⁹¹

最も卓越^{たくえつ}せる地平線に顔を向ける者は皆、忍耐の綱^{つな}に辛抱強くしがみつ
き、危難の中の御救いにおわし、拘束されることなき御方なる神に信頼を
おくべきである。⁹²

確固不動については、次のような文があります。

永遠の真理におわす御方を認め知ることの次に、人間に課せられた最初かつ最大の義務はこれである。つまり、彼の大業において確固不動たることである。⁹³

世俗のいかなるものも、汝を自らの義務より引きとめることのないよう、汝は神の大業に確固不動でなければならない。⁹⁴

神の愛の道を確固と歩み、彼の信教の道を直進し、汝の言葉の威力を通じて彼に加勢せよ。⁹⁵

このようにして、我らは確信の道を着実に踏みしめることができよう。そうすれば恐らく、神のお喜びの草原から吹き渡る微風が、神の承諾の香^{かぐ}わしい薫^{かお}りを我らの上に漂^くわせ、朽^くち果^はつべき我らをして、久遠の栄光^{くおん}の王国へ到達せしめるであろう。⁹⁶

自信を持ち、確固としていなさい。あなたの奉仕は天の力によって確証を受ける。なぜなら、あなたの意図は気高く、目的は純粹で、かつ価値があるゆえに。⁹⁷

これらのレッスンの各引用文から少なくとも一つは暗記しましょう。

セクション21

ここで、あなたが生徒たちに語る最後の4つの物語を見てみましょう。あなたは、たくさんの素晴らしい時間をこの生徒たちと共に過ごし、彼らが学んだ精神的資質を身につけるよう努力しました。各物語を読んで、以下の問いについてあなたのグループで話し合しましょう。

レッスン21で、子どもたちはまだ若い娘だったドロシー・ベイカーが最初にアブドル・バハにお会いした時のお話を聞きます。子どもたちはこの話の中で、彼女がどのようにアブドル・バハの輝かしさにうっとりさせられたかを理解するでしょう。輝かしさはこのレッスンのテーマです。アブドル・バハの輝きはドロシーにどのような影響を与えたのでしょうか。この物語は、子どもたちのアブドル・バハへの愛着をどのように深めるのでしょうか。

レッスン22のテーマは忠実で、この資質がイスファンディアの物語に描かれています。物語のどの部分が最も直接的にこのテーマに関連していますか。イスファンディアが忠実であり続けるのを助ける資質で、彼が持っている資質は他にありますか。あなたがこの物語を語るときに、必ず含めるのはどの部分ですか。

レッスン23の中心テーマは、忍耐です。リ・シンは桃の木の世話をする間、すなわち、小さな種からついには果実を実らせるまでに成長する様々な段階を通る間、忍耐しました。この物語は、長期間忍耐したことで報われる喜びを強調し、私たちの労働の成果を見るまでには幾度も、たくさんの努力をしなければならないということを示します。子どもたちがこのように忍耐の資質を考えることは、どうして重要なのですか。この物語を生徒たちに語る時、あなたの頭にはっきりとさせておきたいのはどの部分ですか。

レッスン24であなたは、アブドル・バハの妹さん、バヒヤ・カヌーンの人生についての物語を子どもたちに聞かせます。それは、バヒヤ・カヌーンが逆境に直面していかに確固不動を示されたかを説明しています。しかし、同時にあなたは、神の愛への確固不動は、ある特定の危機や困難を克服する以上のことを含むという理解を子どもたちにもってもらいたいです。バヒヤ・カヌーンの物語は、神の大業に対する確固さが求める堅固さと恒常性を、子どもたちにどのように垣間見せていますか。

セクション22

この章で、あなたは、最初の年に取り上げる精神的資質について考え、子どもたちの性格の発達に役立つことを願って教える、24のレッスンの様々な要素を実施する練習をしました。ここでしばし時間をとって、1年目にあなたの生徒たちが発達させようとするすべての精神的資質を思い起こしてみましょう。子どもたちにこれらの精神的資質の発達を助けることは、あなたにとって恩恵です。それらの精神的資質のなかで、これらのレッスンを締めくくるテーマは神の愛に対する確固不動です。これはとても相応^{ふさわ}しいことであり、以前に話し合いましたが、このレッスンを心の純粹さということから始めたと同じく重要です。あなたが最初に教師としての活動に着手するとき、世話をしている生徒たちが自分に内在する宝石のような資質のすべてを現すために辛抱強く努力するのを、神の愛に対する確固不動がどのように役立つかについてしばしば振り返るようにしましょう。

子どものための**24**レッスン

レッスン1

A. お祈りの暗唱と暗記

クラスの始めに、神様の祝福を引きつけ、精神的雰囲気にするため、まずあなたが覚えているお祈りのひとつを唱えます。例えば、セクション2で提案しているお祈りを使うことができます。次に、子どもたちに声をかけ、誰かに、自分の覚えているお祈りを一つ唱えてもらえるかと聞きます。その後、皆で下記のお祈りを暗記します。このお祈りの意味を理解するのを助けるため、お祈りのなかの言葉で具体的な例を挙げて説明する必要があると思われるものを特定しましょう。子どもたちの多くは、このお祈りを容易に学ぶでしょうが、次の3回のクラスの冒頭で、このお祈りをおさらいすることによって、レッスン5で新しいお祈りを習い始めるときまでに、このお祈りが子どもたちのここにしっかりと根付くでしょう。

彼こそは神におわします。おお神よ、わが神よ。私に、真珠^{しんじゅ}のように清らかな心を与え給え。⁹⁸

子どもたちがこれら最初の数レッスンで暗記するお祈りは短いので、あなたは、畏敬の念とお祈りの性質について、このブックの第2章セクション2で述べられた考えのいくつかを子どもたちと話し合う機会が何度かあるでしょう。

B. 歌

お祈りの時間の後は以下の歌を習います。これは、あとで子どもたちが暗記することになる、このレッスンのテーマである心の純粋さに関する引用文に曲をつけたものです。いくつかの言葉は子どもたちには難しいでしょうから、最初の4行を子どもたちに教え、残りはあなたが歌うようにすると助けになるでしょう。

My First Counsel (「わが第一の忠言」)

C C/B Am C/B
O Son of Spirit!
C C/B Am C/B
O Son of Spirit!

(continued on next page)

F G
 My first counsel is this
 F G
 My first counsel is this
 F G C Am
 Possess a pure, kindly and radiant heart
 F G C Am
 That thine may be a sovereignty
 F G C C/B Am C/B
 Ancient, imperishable and everlasting
 F G C
 Ancient, imperishable

おお、心霊の子よ！

おお、心霊の子よ！

わが第一の忠言はこれである。

わが第一の忠言はこれである。

すなわち、純粋にして優しく、また輝かしき心を持て。

さらば古よりつづく不朽にして永遠なる主権は

汝のものとならん。

C. 引用句の暗記

次に子どもたちはバハイの聖典からの一つの引用文を暗記します。次のように、このレッスンのテーマと暗記する聖句を紹介するといいいでしょう。

私たちの心は鏡にたとえられます。私たちは、それをいつもきれいにしておかなければなりません。誰かに対して恨みを持ったり、嫉妬したり、何らかの理由で誰かに不親切であったりすることは、心の鏡をおおう塵ちりのようなものです。心が純粋であれば、神様の光と、親切、愛、寛大のような、神様の属性を映し出して、私たちは他の人を幸せにすることができるでしょう。私たちの心をも純粋にしておくために、バハオラの次の言葉を暗記しましょう。

おお心霊の子よ！わが第一の忠言はこれである。すなわち、純粋にして優しく、また輝かしき心を持て。 99

子どもたちは、引用文をよく理解すれば、より簡単に暗記することができます。ですから、言葉や文章の意味を子どもたちと話しあう時間を持つようにしましょう。以下はあなたの助けなるでしょう。

<わが> (☆: 英語にはない)

* 神様はわたしたちにお話する時に、この言葉を、「わたしの」とか「ぼくの」という代わりに使われます。ですから、ここでは、「わが第一の忠言」というのは、神様は私たちに、なによりも、これを守りなさいとおっしゃっているということです。

<忠言>

1. ジェラルド君とメアリーちゃんは塗り絵をしていました。ジェラルド君は黄色のクレヨンが必要だったけど、メアリーちゃんは彼にそれを渡したくありませんでした。先生はメアリーちゃんに、分かち合わなければならないと言いました。先生はメアリーちゃんに良い忠言をしました。
2. パトリシアちゃんはお小遣いでクッキーを買うか、絵本を買うか決めなくてはなりません。お父さんとお母さんは絵本を買うよう勧めました。両親はパトリシアちゃんに良い忠言をしました。

<持つ>

1. ティニアちゃんは寝る前にお祈りをするのが好きです。彼女は小さなお祈りの本にある祈りを読みます。ティニアちゃんは小さなお祈りの本を持っています。
2. 私たちは、私たちの庭にたくさんの美味しい野菜を育てています。私たちは、たくさんの新鮮な野菜を与えてくれる土地を持っています。

<すなわち> 同じことを、別な言葉で言い換える時に使う言葉です。 (☆)

1. まりこちゃんの顔は真っ赤で、触ったら、熱かったのです。すなわち、まりこちゃんは熱がありました。
2. 今すぐ、それをしましょう。すなわち、テーブルをかたづけて、昼食の用意をしましょう。

<純粋な心>

1. キャシーちゃんは怒っていたので、アゴット君に不親切な言葉を投げかけました。アゴット君は悲しくなりましたが、すぐにキャシーちゃんを許しました。アゴット君は純粋な心を持っています。
2. ガスタボ君は、子どもたちみんなと自分のお菓子を分け合うのが好きです。誰とも分け合ったりしない、ホルヘ君にも分けてあげます。ガスタボ君は純粋な心を持っています。

<優しい心>

1. ミン・リンちゃんは両親がお友達を家に招いた時、喜んでお客さんに食事を運びます。ミン・リンちゃんは優しい心を持っています。
2. ロバートソンさんはお年寄りです。ジミー君はロバートソンさんの畑で取れた果物を市場へ運ぶのを手伝います。ジミー君は優しい心を持っています。

<輝かしい心>

1. 私が悲しいとき、お母さんはいつも私を慰め、幸せにしてくれます。私のお母さんは輝かしい心を持っています。
2. オブヤ君は病気になり、いつもベッドで過ごさなければなりません。オブヤ君はたくさんお祈りをして、悲しまないで、幸せにしていました。オブヤ君は輝かしい心を持っています。

D. お話

子どもたちが上記の引用を暗記したら、純粋な心の大切さをもっと分かり易く示している、アブドル・バハの以下のストーリーを話します。アブドル・バハのことを知らない子がいるかもしれないので、お話を始める前に彼について簡単な説明を準備しておきましょう。

アブドル・バハはいつも人の心の中を読むことができました。そして、心が清らかで輝いている人をととても愛されました。一人の婦人が光栄にもアブドル・バハから夕食に招待されました。彼女はその食卓でアブドル・バハの英知溢れるお言葉に耳を傾けながら、自分の前のグラスを見つめ、「ああ、アブドル・バハが私の心にある世俗的な欲を空にして、ちょうどこのグラスの水を入れ替えてもら

うのと同じように、神の愛と知識で心を満たしてくださったら良いのに」と思いました。

この考えはすぐに彼女の頭から消え、それについては何も言いませんでした。でも、その後に起こったことで、アブドル・バハが自分の考えていたことを見抜いておられたということに気づかされました。アブドル・バハはお話の途中でお付きの人を呼び、ちょっと何か言いつけられました。お付きの人は静かにその婦人の所に来て、彼女のグラスの水を空にして、グラスを再び、彼女の前に戻しました。

それから少しして、アブドル・バハはお話を続けながらテーブルからお水の入った水差しを取り上げ、ごく自然に、彼女の空のグラスにゆっくりとお水を注がれました。誰も何が起こったか気が付きませんでした。でも彼女には、アブドル・バハが自分の心の願いを叶えてくださったのだとわかりました。彼女は喜びで一杯でした。その瞬間に彼女はわかりました。アブドル・バハにとって、心と精神は開かれた本のようなもので、彼はその本を大きな愛と優しさをもって読んでいらっしゃるのだということが。

E. ゲーム「分け合い」

次の活動のために、遊び場に車のタイヤを置き、子どもたちにそのタイヤ一つの中に何人立つことができるか聞きます。もしタイヤが準備できなければ、代わりとしてマットやタオル、あるいはそれに似たような物を使うこともできます。どんな物を使うにせよ、みんなが協力することによって多くの子どもが入れるようにするために、子どもたちの人数よりも少し小さ目にする必要があります。

F. むり絵 1

ゲームの後は塗り絵をします。そのため、子どもたちはもう一度集って、図1のコピーをもらいます。図の下にあるのは、皆が覚えた引用句であると説明し、この絵とレッスンのテーマとにどのような関係があるか、説明します。説明は事前に考えておきましょう。

G. 終わりの祈り

クラスを終わるとき、子どもたち二、三人に覚えているお祈り、あるいは暗記するよう学んだ引用文を暗唱してもらい、その後、あなたが最後のお祈りを唱えます。

レッスン2

A. お祈りの暗唱と暗記

このレッスンと次の2つのレッスンの開始時に、レッスン1の始めに唱えたお祈りを唱えるよう勧めます。続いて、前もって選んでおいた2、3人の子に、自分の知っているお祈りを唱えてもらいましょう。その後、前のレッスンで習い始めたお祈りの続きを暗記するよう生徒たちを助けます。

B. 歌

次の活動は歌です。子どもたちは前回習った歌を一つと、下に挙げた新しい歌をうたいます。新しい歌はこのレッスンのテーマである正義についての歌です。

A Noble Way

D
Justice is a noble way
A D
Justice brings a brighter day
G D
A light to those in need
A D
Shining through good deeds
D A D
Oh, justice is the way
D
We know 'Abdu'l-Bahá would share

A D
Showing love and showing care

G D
He was content with less

A D
In order to bring happiness

D A D
He was content with less

(continued on next page)

D
To be just we have to give

A D
Share our love and joy to live

G D
Sharing blessings we receive

A D
A better world we will achieve

D A D
Oh, justice is the way

(repeat first stanza, singing last line twice)

C. 引用文の暗記

二つの歌に続いて、子どもたちはバハオラの書からの引用句を暗記するよう促されます。このレッスンのテーマ、および提案されている引用句を紹介するためのいくつかの考えをここに挙げておきます。

神様は正義を愛されます。正義があるとき、皆は人生の良いものを楽しみます。すべての子どもが学校に行くことができ、すべての家族が快適な家を持ちます。また、より多くを持つ人たちは、自分たちが神からいただいた恵みを、他の人の^{あんねい}安寧のために喜んで差し出します。神は、私たちがお互いに公明正大であることを喜ばれます。誰かが不当に扱われているのを見たら、その人たちを擁護して助けなければなりません。友達や隣人たちのものを奪ってはなりません。何かを分かち合うときは、誰も仲間外れにされることがないように

にし、皆が公平に分け前に与^{あずか}ることができるようにしなければなりません。私たちが公平でいられるように、バハオラのこの引用句を暗唱しましょう。

正義の道を歩みなさい。誠にそれはまっすぐな道である。¹⁰⁰

子どもたちが上の引用句の暗記を始める前に、引用句について基本的な理解があることを確認することは重要です。子どもたちにとって、新しいかもしれない言葉の意味を説明するときの助けとなる文章を下にいくつか述べます。

<歩む>

1. 森の木々からたくさんの葉っぱが落ちて、道をおおいます。ふみこちゃんは森を通り抜けます。彼女は落ち葉で覆われた道を歩みます。
2. ペドロ君は友だちみんなが楽しく一緒に遊べるよう助けるのが好きです。ペドロ君とお友だちはとても仲良しです。ペドロ君は和合の道を歩みます。

<道>

1. ルイズ君はロバを持っています。彼は放牧^{ほうぼく}のためにロバを牧草地に連れて行き、置き去りにしました。ロバは自分で家への道を見つけました。
2. 学校へ行くには二つの道があります。ミリーちゃんは、おばあちゃんの家の側を通る道に行くのが好きです。

<正義>

1. カルロス君はクラスでみんなに配るようとクレヨンを渡されました。クレヨンは10本で、子どもは5人です。カルロス君は子ども一人一人に2本ずつクレヨンを渡しました。カルロス君は、正義を持ってクレヨンを配りました。
2. アンナさんの畑にある井戸にはたくさんの水がありますが、隣人の井戸の水はときどき枯れてしまいます。アンナさんは隣人が困ることがないように、遠慮なく水を取れるようにしています。アンナさんは正義を愛します。

D. お話

子どもたちが引用文を暗唱することを学習した後、以下のストーリーを聞かせましょう。これはアブドル・バハがどのように正義を実行されたかを示しています。

ある日、アブドル・バハはアッカからハイファに向かわれるとき、安い普通の馬車に乗られました。その馬車は普段、ぎゅうぎゅう詰^づめです。馬車の運転手はびっくりしました。アブドル・バハはどうして安い馬車に乗ってまで節約されるのだらうと思ったに違いありません。「閣下^{かっか}は自分専用の馬車で旅することを好まれるとばかり思ったのですが」と言いました。師は「とんでもない」とお答えになり、ハイファまでの道のりを、混み合った乗り合い馬車で行かれました。ハイファに着いて師が馬車から降りられると、一人の女の漁師が師のところへ助けを求めてやってきました。彼女は一日中、魚が一匹^{いっぴき}も釣れず、お腹を空かして待っている家族のところに帰らねばなりませんでした。アブドル・バハは彼女に十分なお金を与えてから、運転手に向かって「大勢の人がお腹を空かしている時に、どうして私が贅^{ぜい}沢な馬車に乗ることができるでしょう」と言われました。

E. ゲーム「のどがカラカラ」

ストーリーテリングの時間の後、子どもたちはゲームをしたいと思うでしょう。肘を曲げることができないように子どもたちの腕に添え木をします。それから、皆は一緒に砂漠を歩いているところで、喉がカラカラに渴いているのだと想像させます。あなたがあらかじめ用意しておいたコップの水を子どもたちは見つけますが、それを飲む方法を考えださなければなりません。子どもたちは互いに助け合わなければ飲めないこと、互いに水をこぼさないよう注意しなければならないということを悟ります。

F. むり絵 2

次は、図2のコピーのむり絵をします。子どもたちに配られたその絵の意味とこのレッスンのテーマとの関係を、皆が覚えた引用句を参照して説明できるように準備しておくことが大切です。子どもたちが暗記した文は絵の下にあります。

G. 終わりの祈り

ぬり絵を塗り終わったら、二、三人の子にお祈り、またはこれまでに覚えた聖句を暗唱してもらいましょう。最後にあなたがお祈りを唱えましょう。

レッスン3

A. お祈りの暗唱と暗記

クラスを始めるにあたって、覚えているお祈りを唱え、あらかじめ選んでおいた2、3人の子にも同じくお祈りしてもらいます。その後、レッスン1で学び始めたお祈りについて復習する時間を取ります。

B. 歌

次に、レッスン1と2で習った二つの歌を子どもたちが歌ってから、下の歌を教えます。これは今回のレッスンのテーマ、愛についての歌です。

「愛、愛、愛」

(『ブック3 子どもクラスの歌』CD, 4 番)

愛、愛、愛、愛、人を愛そう　愛、愛、愛、愛、広がる世界
主は創造を愛し、人を創られた　愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛、愛、人を愛そう　愛、愛、愛、愛、広がる世界
主は創造を愛し、人を創られた　愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛、愛、人を愛そう　愛、愛、愛、愛、広がる世界
主は創造を愛し、人を創られた　愛、愛、愛せよ、神と人

愛、愛、愛せよ、神と人

C. 引用句の暗記

暗記する引用句を示すとき、このレッスンのテーマに関して生徒たちと次のような考えを分かち合うと良いでしょう。

神さまの愛は、太陽の光線のようにすべての人の上に輝いています。太陽の光線は、乾いた砂漠にも、緑が生い茂る庭にも同じように降りそそぎます。その温もりを通して、豊かな土地に植えられた種は成長し、すばらしい果物が実ります。ですから、私たちは、私たちの清らかな心の土に神様の愛の種を植えなければなりません。すると、その種は、神様の優しいお世話の温かさのもとに成長し、花を咲かせます。そして私たちの愛は広まり、全ての人に、たとえ私たちに対してときどき不親切な人にでも、愛を示します。全ての人を愛することができるように、バハオラのこの言葉を暗記しましょう。

おお、友よ！汝の心の花園に愛のバラのみを植えよ。¹⁰¹

この引用文で、説明を要する言葉は「のみ」という言葉だけでしょう。これは「それだけ」という意味です。

＜のみ＞

1. ディネオ君は太陽や花の歌を歌うのは好きで、他のことについての歌は歌いません。ディネオ君は太陽と花の歌のみを歌います。
2. タ・ジェン君は川遊びに行きたいのですが、お手伝いを終わっていません。父さんはそれを終わるまで外出してはいけないと言ったので、タ・ジェン君は、残念ながら腹を立ててしまいました。すると、おばあちゃんが言いました、「お父さんの言うことをきかなかったら、川遊びのみでなく、他のことも全部できなくなってしまうんだよ」。

D. お話

暗記の時間が終わったら、以下のストーリーを聞かせましょう。

アブドル・バハが牢獄都市^{ろうごくとし}アッカに住んでいらしかったころ、アブドル・バハにとっても失礼な態度をとる男がいました。彼は、アブドル・バハは悪い人である、バハイたちがどんなにひどく扱われようと神さまは気にされない、と思っていました。彼は、バハイたちを憎む^{にく}ことで神さまへの愛を示していると本気で信

じていて、アブドル・バハを心から憎みました。その憎しみは彼の中でどんどん大きくなっていて、時には壊れた水がめから水がこぼれ出すように、行動で現れました。人々がお祈りにやって来たモスクの中で、この男は大声をあげ、アブドル・バハについてひどいことを言いました。通りでアブドル・バハと出会うと、その顔を見ないようにするために着ている服で顔をおおいました。

ところで、この男はとても貧しかったので、食べるものや着るものも十分持っていませんでした。さて、アブドル・バハはこの男に対してどうされたと思いますか。アブドル・バハは彼に親切にし、食べ物や着る物をあげ、ちゃんと暮らせていけるようお世話されました。たとえば、この男が重い病気になったとき、アブドル・バハは彼のために医者さんを頼み、食べ物や薬の代金を払い、お金も渡されました。男はアブドル・バハからの贈り物を受け取りながら、ありがとうも言いませんでした。実は、医者さんが脈を取るときもこの男は片方のお医者さんに出しながら、もう片方の手で着物の端をつかんで顔を隠し、アブドル・バハの顔を見ないようにするほどでした。このような状態が長年続きました。こうしたある日、ついに男の心が変わったのです。男はアブドル・バハの家に来て、滝のように涙を流しながら、その足元にひざまずいて嘆願しました。

「閣下^{かっか}、私を許してください。24年もの間、私はあなた様にひどいことをしてきました。その24年間、あなた様は私にただただ親切にしてくださいました。いま、私は自分が間違っていたと気づきました。どうか私を許してください」と。このように、アブドル・バハの大きな愛は憎しみを打ち負かしたのです。

E. ゲーム「橋」

次の活動のために、ベンチ、または板、レンガ、タイルなどで遊び場に一本の線を作り、それを「橋」と呼びます。子どもたちを二つのグループに分けて、互いに一方の端に並び、同時にその橋を渡ります。どちらのチームも、一人も橋から落ちないで向かい側の端にたどりつかなければなりません。子どもたちは互いに助け合って、一人ずつ順に位置をいれ替わるようにしなければ渡れないことを理解するようになるでしょう。

子どもたちを助けるために、彼らをそれぞれのスタート地点に誘導し、橋を進む手伝いをします。全員一度に橋の上に乗るのではなく、まず二人で練習をさせて、そして、3、4名ができるよう

にします。このような練習を数回したら、橋の上の乗る子の数を増やし、全員参加できるまで続けます。

F. むり絵 3

ゲームの次は、図3のコピーを一人ずつに配ってむり絵をします。この絵とこのレッスンのテーマにどんな関係があるかを簡単に説明することを忘れないでください。

G. 終わりの祈り

クラスを終わるため、生徒たちは静かに座り、2、3人の生徒が彼らの暗記したお祈りか聖句を唱えるよう促します。それから、子どもたちの一人、またはあなたが終わりのお祈りを唱えます。

レッスン4

A. お祈りの暗唱と暗記

開始のお祈りに続いて、これまでのレッスンで暗記したお祈りについて復習しましょう。

B. 歌

次の活動で、誠実というテーマについて新しい歌を教える前に、これまでに習った歌を子どもたちに歌ってもらいましょう。

Truthful Words

G		D
A mirror that's covered up in dust		
A		D
Cannot reflect the sun's bright light		
G		D
A bird with wings all full of mud		
A	D	D7
Is unable to take flight		

CHORUS:

1. サンジェイ君はグラスを落として割ってしまいました。お母さんからどうしたのかと訊かれたとき、サンジェイ君は嘘をつかず本当のことを言いました。サンジェイ君は誠実さを示しました。
2. ギタちゃんはある日の夕方遅くまで遊んだので、宿題を終わらせることができませんでした。次の日、宿題を提出しなければならない時、ギタちゃんは、本当のことを言うと先生に怒られると思ったけど、本当のことを話そうと決めました。ギタちゃんは誠実さを示しました。

< 美徳 >

1. オーロラちゃんは優しく、礼儀正しく、親切な女の子です。優しさ、礼儀正しさ、親切は、オーロラちゃんの持っているたくさんの美徳のいくつかです。
2. パテル先生は子どもたちに正義や、寛大、謙虚、正直について教えます。これらは、皆が持つべき大事な美徳の例です。

< 基礎 >

1. アロック君のお父さんは家を建てていました。壁を作る前に、石とセメントで下地を固めました。石とセメントは家の基礎になります。それは家をしっかりと支えています。
2. 読み書きを習い始める前に、文字とそれらの音を知らなければなりません。文字の音を学ぶことは、読み書きの学習の基礎です。

D. お話

次に、以下のストーリーを聞かせましょう。誠実について考えさせる助けになります。

昔、あるところに羊飼いの少年が暮らしていました。お父さんが畑で働き、お母さんが家事をする間、この少年は羊の世話をすることになっていました。ある日のこと、少年は面白いことはないかなと思い、村の人をからかうことにしました。突然、大声でこう叫び出したのです。「^{おおかみ}狼 が来た！狼が来た！狼が羊を食べちゃうよ！！」村人たちが狼を追い払おうと走ってきました。しかし、そこにはだまされた村人を見て大笑いする少年がいるだけで、狼はどこにもいませんでした。

た。皆は、なんてひどいいたずらをするんだろうと言いながら、仕事に戻りました。

次の日、少年はまた嘘^{うそ}を繰り返しました。「狼だ！狼だ！助けて！助けてー！！」何人かの人^{ひと}がまた走って助けに来ました。けれどもそこにいたのは「狼が来たなんて嘘だよ」と言って、げらげら笑う少年だけでした。その次の日、「狼が来た！狼がきた！狼が羊を食べちゃうよー！助けに来て！！」という声を聞いた村人は、まったく気にもとめませんでした。またいつもの嘘だと思ったからです。ところが、この時は本当に狼が来て羊を食べてしまったのです。少年はとても悲しかったのですが、大事なことを学びました。嘘ばかりいっていると、本当のことを言っても親も兄弟も友達も、誰も信用しなくなるということです。

E. ゲーム「電報ごっこ」

次は「電報ごっこ」というゲームです。子どもたちは同じ方向を向いて一列に並びます。列の一番前の子どもの前には黒板か紙があります。筆記用具も必要です。子どもの数が多ければ何列かになってもかまいません。

あなた(先生)は列の一番後ろの子の背中に指で何か書きます。その子は自分の前の子の背中に、先生が書かれたことを書き、書かれた子はまた前の子の背中に書きます。そして一番前の子どもが黒板か紙に、自分の背中に書かれたことを書きます。それから、その横にあなたが最初に指で書いたことを書きます。書く内容は、子どもたちが書きやすいように、簡単なものにしましょう。

F. むり絵 4

次の活動として、子どもたちに図4のコピーを配り、むり絵をさせましょう。

G. 終わりの祈り

いつものように、お祈りや引用句を唱える間、子どもたちに静かにするように言います。

レッスン5

A. お祈りの暗唱と暗記

ここからの4つのレッスンは、あなたが暗記している別のお祈りでクラスをはじめます。このためにセクション6に出ているお祈りを使いましょう。あなたと、数人の子どもが始めのお祈りを唱えてから、下のお祈りを紹介し、暗記を始めてもらいましょう。このクラスが終わる前に少なくともこのお祈りの一部分を覚え、レッスン8までに完全に覚えて暗唱できることを目指しましょう。

神様、私をお導きください。お守りください。

私の心の灯^ひを明るくして、私を輝く星となし給え。

あなたは偉大なる御方におわし、力に満ち給う御方にまします。 ¹⁰³

B. 歌

このレッスンで、以下の歌を教えるとともに、すでに習った歌と一緒に歌うといいでしょう。

「寛大な噴水」

『ブック3 子どもクラスの歌』CD、11番

噴水であれ 泉であれ たえず湧き出させよ

あなたがそうすれば 幸せがやってくる

毎日探しなさい

何かあげるもの あるでしょう

幸せをゴールにせよ 心と魂 与え

あなたがそうすれば 神と ともにある

噴水であれ 泉であれ たえず湧き出させよ

あなたがそうすれば 幸せがやってくる

毎日探しなさい

何かあげるもの あるでしょう

幸せをゴールにせよ 心と魂 与え

あなたがそうすれば 神と共にある

あなたがそうすれば 神と共にある

C. 引用句の暗記

このレッスンのテーマと、子どもたちが暗記する引用句を説明するとき、下の文は助けになるでしょう。

神は創造されたものに対して、とても寛大です。草木には雨を降らせてくださり、人や動物には食べ物を用意してくださいます。神は私たち皆の面倒をみてくださいます。神は私たちにたくさんの贈り物をくださいました。山や、川、星、また私たちの周りにあるすべての美しいものを見るために目をくださり、美しい歌の調べや鳥のさえずり、お父さんやお母さんの教えや、神様の言葉を聞くために耳をくださいました。神は私たちに宇宙の神秘を知ることができるように知性もくださいました。そして何より、神を知り、神を愛することができるように精神的な力をくださいました。神様が私達に寛大なように、私たちも他の人に寛大でなければなりません。私たちが持っているもの、たとえば食べ物、持ち物、時間、知識などを、それを必要としている人達にあげるべきです。私たちの愛や喜び、それに家や学校で習った良いことも分かち合うべきです。寛大であるよう努力するのを助けるために、バハオラからの次の引用文を暗記しましょう。これは神様の寛大さを私たちに思い起こさせます。

^{せよ}
施与と寛大とはわが属性である。

わが美德をもって自己を飾る者は幸いである。 ¹⁰⁴

<寛大>

1. ラム君とラージシュ君は、ちょっとだけ貯金がありました。二人はそのお金で弟と妹に本を何冊か買ってあげることにしました。ラム君とラージシュ君は寛大です。
2. マーフィー夫人は午前中かかって作ったケーキを町に売りに行く前に、大きなケーキ2個を隣の人たちに分けてあげました。マーフィー夫人は寛大です。

<わが>

＊ 前も説明したように、神様はご自分のこととお話される時、「わたし」とか「ぼく」の代わりに「われ」と言われます。ですから、ここでは、「わが属性」というのは、神様の属性という意味です。

<属性>

1. 石はとても硬い。硬さは石の属性です。
2. 「チャーリーちゃん、あなたの属性の一つは、自分から進んで一所懸命に勉強するところね」と、先生はチャーリーちゃんに言いました。

<飾る>

1. 今夜、コミュニティーセンターでお祈りの会が開かれます。子どもたちは集会室に活けるお花を摘みました。集会室はお花で飾られました。
2. リー・フェン君の笑顔は素敵です。彼の顔はいつも笑顔で飾られています。

<幸いなり> = 幸せである、恵まれている(☆: 英語にはない)

D. お話

このレッスンで、以下のお話をきかせます。これは子どもたちが寛大という概念について考える助けになるでしょう。

ある日、アブドル・バハは、お父様バハオラの羊の世話を任されている人から、郊外^{こうがい}で羊飼^{ちそう}いたちと共に一日を過ごしませんかと誘われました。当時、アブドル・バハはまだ幼い子どもで、バハオラとそこご家族が愛すべき祖国を追放されるずっと前のことでした。バハオラは、山岳地帯にかなり広い土地を所有されており、たくさんの羊を飼っておられました。お母様の許しを得たアブドル・バハは、羊飼^{ちそう}いの人たちと一緒に歌ったり踊ったり、素晴らしいご馳走^{ちそう}を食べたり、素敵な一日を過ごされました。日も暮れて、アブドル・バハが帰ろうとされていると、羊飼^{ちそう}いたち全員が集まってきてお別れの挨拶をしました。すると、連れの者が、「土地や羊を持っている人は、お別れの時にお餞別^{せんべつ}を渡すものですよ」と言いました。アブドル・バハはしばらく黙っておられました。彼らにあげ

るものを何も用意していなかったからです。しかし、連れの者は羊飼いたちが何かもらえるものと期待していると言いつけました。そこでアブドル・バハは彼らが世話をしている羊のうちの何頭かを贈ることを思いつかれました。アブドル・バハのこのように寛大な心遣いについてお聞きになったバハオラは、とても喜ばれました。そして、アブドル・バハは自分までもあげてしまうことになるから、皆でしっかり彼を世話しないといけない、と冗談まじりにおっしゃいました。もちろん、これこそアブドル・バハが生涯を通じて行われたことです。師は持っていた物全てを人にあげられたのです。私たちを一つに結び、本当の幸せをもたらすために、師は人生の一瞬一瞬を人類に捧げられました。

E. ゲーム「双子」

お話の後、いつものようにゲームをします。子どもたちを2人ずつ組にします。できるだけ同じ背丈の子とペアになるようにします。二人が背中合わせに立ってからしゃがみ、それから肘を組んで立ち上がるように挑戦してもらいます。これができたら、3人か4人の組を作って同じことをやってみます。

F. むり絵 5

最後の活動は塗り絵。図5のコピーを一人1枚ずつ配りましょう。

G. 終わりの祈り

いつものように、あなたと数人の子どもたちがお祈りと引用句を唱えて、クラスを終わります。

レッスン6

A. お祈りの暗唱と暗記

あなたと、数人の子どもが始めのお祈りを唱えてから、子どもたちがレッスン5で暗記し始めたお祈りの暗記を続けるのを助けましょう。

B. 歌

次に、以下の歌を習います。これはこのレッスンのテーマに関連するものです。この歌の他に、子どもたちの好きな歌をいくつか歌うのもいいでしょう。

「あなたの兄弟を先にしなさい」

『ブック3 子どもクラスの歌』CD、9番

のどが渴く のどが渴く

でも 私の兄弟を先に

そこで かれに水をあげた

かれの渴きをいやすため

兄弟を先にすることは御恵み

思いやりを示すこと

兄弟を先にすることは御恵み

分ければ もっと豊かになる

おなかがすいた

おなかがすいた

私の兄弟もすいた

そこで わたしの食べ物をあげた

これが一番よいこと

兄弟を先にすることは御恵み

思いやりを示すこと

兄弟を先にすることは御恵み

分ければ もっと豊かになる

C. 引用文の暗記

このレッスンではバハオラの手書かれた聖典から、無我について教えた以下の引用文を習います。このテーマについて下記のような説明ができます。

神さまは私たち一人一人を愛しておられます、そして、神様のことを知り、神様を愛することができるように私たちの心を作ってくださいました。私たちの心が純粹であれば、創造されたものの中に映し出される神様のしるしを見出すことができます。神様の寛大さ、優しさ、ご慈悲を見出せます。神様を愛していると、お父さんやお母さん、兄弟やお友だちやお隣の人皆に喜びと幸せをあげたいと思うでしょう。私たちの愛が大きければ、自分たちのためにほしいと思っているものを周りの人々にあげて、喜んでもらうことが私たちの一番の喜びになります。このように、自分のことよりも、他の人のことを先に考えるようになります。バハオラの次の引用文を暗記しましょう。

己よりも^{どうほう}同胞の方を^{この}好む者は^{さいわ}幸いである。 105

<好む>

1. アニュショカちゃんのおばあちゃんはミントのお茶とレモンティのどちらも好きですが、今日はミントのお茶を選びました。おばあちゃんはミントのお茶を好みました。
2. ビアスナちゃんは遊びに行くことも、庭でお父さんのお手伝いをすることもできます。彼女はお父さんのお手伝いをするを選びました。彼女はお父さんのお手伝いの方を好みました。

<幸い> ^{さいわ} 幸せ、恵まれている

1. アメリアちゃんのお母さんはお店に行って5つのものを買ってくるよう、アメリアちゃんに頼みました。アメリアちゃんは買ってくるもののリストを作らなかったけど、全部忘れずに買ってきました。アメリアちゃんは記憶力に恵まれていて、幸いです。
2. ビクター君の家族は毎朝、お家でお祈りをします。彼の家族の家は神様を思うことによって祝福されていて、幸いです。

D. お話

以下のお話は、アブドル・バハが、言葉と行動を通してどのように無欲を示されたかを描いています。

アブドル・バハは質素^{しつそ}な身なりを好まれました。彼にとって、服の値段よりもっと大切なのは、行き届いた清潔さでした。余分の服があるといつも誰かにあげてしまわれたのです。ある時、アッカの知事をおもてなしされることになりました。アブドル・バハの奥様はアブドル・バハの上着はそのような場にふさわしくないと思い、前もって仕立屋に行き、アブドル・バハのために新しい上等の上着を注文しました。知事の訪問の当日、新しい上着が用意されていましたが、アブドル・バハは古い上着をお探しになりました。彼は奥様に、そこに置いてある高価な上着は自分のものではないだろうと主張されました。この一着分のお金でいつものような上着が5着は作れる。だから、新しい服1着を持つだけでなく、4人の人にも新しい上着をあげることができるんだよ、とおっしゃいました。

E. ゲーム「かたつむり」

次の活動について、子どもたちにカタツムリになると説明します。全員が手をつないで1列になって立ち、その手を離さないように言います。一方の端にいる子が中心になり、じっと立っていません。もう一方の端の子は中央の子の周りを巻くように、その列の他の子どもたちみなを誘導します。少しずつ、らせん状に巻いていき、カタツムリのようにしていきます。

応用編として、全員が手をつないで1列になって立ち、一方の端の子が先頭になってゆっくりと動き始め、他の子どもたちがその子を巻き込んでいきます。他の子の足を踏みつけないように注意しましょう。

もし時間があれば、次のようなこともできるでしょう。カタツムリができあがったら、中央部にいる子どもたちは腰をかがめ、手をつないだままで真ん中の子から順に隣の子の腕の下を潜るようにして、カタツムリの外側に出ていき、やがて、一直線の状態にもどります。このゲームのためには、子どもたちの数がある程度あることが重要です。

F. むり絵 6

G. 終わりの祈り

レッスン7

A. お祈りの暗唱と暗記

あなたと、数人の子どもが始めのお祈りを唱えてから、子どもたちがレッスン5で暗記し始めたお祈りを復習しましょう。

B. 歌（前に習った歌を歌うことも含む）

Joy Gives Us Wings

 D A D G D
Joy gives us wings to fly, joy gives us wings
 D A D A D
Joy gives us wings to fly, joy gives us wings

 A D
In times of joy, our strength grows in might
 A D
In times of joy, our intellect takes flight

(continued on next page)

 A D
In times of joy, our understanding is bright
 D A D A D
Joy gives us wings to fly, joy gives us wings

 Dm A7 Dm A7 Dm
But when sadness visits us, when sadness visits us
 A Dm A Dm
We become weak, our strength goes away

A Dm A Dm
Our insights are dim, our thoughts become gray

A7
How-ev-er

Joy gives us wings to fly, joy gives us wings
Joy gives us wings to fly, joy gives us wings

In times of joy, our strength grows in might
In times of joy, our intellect takes flight
In times of joy, our understanding is bright
Joy gives us wings to fly, joy gives us wings

C. 引用文の暗記

以下は、このレッスンで子どもたちが暗記する引用文について説明するのに役立つでしょう。これは喜びというテーマに焦点を当てています。

アブドル・バハは、喜びは翼を与え、喜ぶとき私たちはもっと強くなり、幸せなとき物事がもっと早く分かると教えられておられます。喜びは私たちの心の特徴です。喜びでいっぱい
の心があると、神様の恵みが私たちの周りを取り巻いていることが分かります。優しい両親
のめぐみ、友だちの恵み、それから、何よりも、神様のことを知って、神様を愛する恵み。私
たちはどんな状況でも幸せで喜んでいて、みんなに喜びを分けてあげなければなりません。
アブドル・バハは、子どもたち皆が、すべてのところで喜びの光を放つランプのように輝
くよう願っておられます。いつも喜ぶことを思い出すために次の引用文を暗記しましょう。

おお人の子よ！^{なんじ} 汝 われに会い、
^び わが美を反映するに^{ふさわ} 相応しくなれるよう汝の心に喜びを持て。 106

<汝> 神様が人間をさす時に使うことば、「あなた」という意味。

<われ> 神様が自分のことをさす時に使われることば、「私」という意味。ですから、「汝われに会い」というのは、「あなたが神様に会い」という意味になる。

<わが> 前に習ったように、神様はわたしたちにお話する時、この言葉を「私の」の代わりに使われる。

<美> うつくしさ

1. イラナちゃんのお母さんは空を飛ぶ鳥たちや、咲いている花々、海岸に打ち寄せる波を見るのが好きです。彼女は自然に美を見出します。
2. ときどき、歌の美しさは私たちの胸をうち、涙が出るほどです。
3. ムニル君はお祈りをするとき、いつも、神様のうつくしさや、愛、寛大、英知を思い出します。

<反映する>

1. アマリ君は自分が見つけた石を磨いて、それが光を反映するほど輝くようにしました。
2. 純粋な心は神様の属性を反映します。

<ふさわ
相応しい>

1. ショナちゃん是一所懸命、勉強をして、とても良い成績を収めました。先生は彼女が真面目にがんばったことをほめました。ショナちゃんの頑張りは先生がほめるに相応しいものです。
2. デイビッド君はいつも兄弟の面倒をみます。両親はデイビッド君に子どもたちをまかせることができますと思います。デイビッド君は両親の信頼に相応しい子です。

<喜ぶ>

1. ロナルド君はおじいちゃん、おばあちゃんと遠く離れて住んでいます。学校が休みのとき、おじいちゃんたちのところへ行くと聞いて、彼は心から喜びました。
2. モゼガンちゃんは、畑にきゅうりのタネをまく時、両親を手伝いました。最初の小さなきゅうりができ始めたのを見て、彼女は心から喜びました。

D. お話

以下のストーリーは、アブドル・バハがどのように周りの人々の心に喜びをもたらされたかを、子どもたちに伝えるものです。

リロイ・アイオアスは有名なバハイでした。みんなはもっと大きくなったら、彼のことをもっと知ることでしょう。アブドル・バハが1912年にシカゴを訪問された時、リロイはまだほんの少年でした。この精神的に純粋な少年がアブドル・バハに会ったときの興奮がどんなものだったか、みんなは想像できますか。ある日、リロイと彼のお父さんが、アブドル・バハの泊まっていらっしゃるホテルへと向かっているとき、リロイにある考えが浮かびました。彼はアブドル・バハにお花を持って行くことにしたのです。彼が持っていたお金はわずかでしたが、白いカーネーションの美しい花束を買うことができました。でも、ホテルに着く頃にリロイの気が変わりました。彼は、アブドル・バハに物質的なものを差し上げない方が良く、たとえ美しいお花であっても、と思いました。彼は自分の心を捧げたかったのです。それは彼が捧げられる最も大事なものでした。それでリロイのお父さんは、誰が持ってきたかを言わないで、そのお花をアブドル・バハに差し上げました。

アブドル・バハは、彼に会うためにホテルに集まってきた大勢の友にお話をされていました。お話の間、リロイはアブドル・バハの足元に静かに座り、アブドル・バハの知恵と愛に満ちた言葉に耳を傾けました。その後、アブドル・バハは立ち上がり、お客さまたちと握手をかわしながら、その一人一人に愛のしるしとして白いカーネーションを一本ずつ渡していきました。その時、リロイはアブドル・バハの後ろに立って、こう思いました。「ああ、アブドル・バハが振り向いて、そのお花の一本を私に下さったらいいのになあ」と。多分、彼は心の中で密かに、実際、この美しい花を持ってきたのは誰か、アブドル・バハに気づいてほしかったのかもしれませんが。でも、一本また一本と白いカーネーションが他の人に渡されると、もうリロイにはまわってこないように見えました。そのとき、突然、アブドル・バハが振り向いて、リロイを見つめられました。アブドル・バハの顔は愛で輝いており、その目は優しさに満ち溢れていました。さて皆さん、リロイはアブドル・バハから白いカーネーションをもらったと思いますか。いいえ、アブドル・バハはそれよりももっとすばらしいものをリロイに与えられたのでした。アブドル・バハは上着につけておられた美しい真っ赤なバラを抜き取

り、その少年に渡されたのでした。リロイは大喜びでした。結局のところ、アブドル・バハは、誰がその白いカーネーションを持ってきたかご存知だったのです。

E. ゲーム: 竜の尻尾つかみ

子どもたちは一列に並び、後ろの子が前の子の肩か腰に手をかけます。先頭の子は竜の頭で、最後尾の子は尻尾です。尻尾が頭に捕まらないように、必死に左右に動く心構えをします。「始め」という合図があるまで、列は真っ直ぐのままでいます。一人の子が「1、2、3 始め!」と言ったら、頭が尻尾を捕まえようとし、尻尾は逃げようとし、列を崩さないようにして互いに右へ左へと列全体が動きまわります。頭が尻尾を捕まえることができた、または、途中で列がくずれたら、頭が最後尾に着いて、列の二番目の子が頭になります。どの子も一度は頭と尻尾になるようにゲームを続けます。

F. ぬり絵 7

G. 終わりの祈り

レッスン8

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、あなたと、前もって頼んでおいた数人の子どもが始めのお祈りを唱えてから、子どもたちがレッスン5で習い始めたお祈りを復習しましょう。

B. 歌(すでに習っている歌も含める)

At All Times

CHORUS:

E A
We should at all times manifest

B E A B
Our truthfulness and sincerity

(continued on next page)

E A
We should at all times manifest

B E A B
Our truthfulness and sincerity (*repeat*)

E A B
When I speak, I share from the bottom of my heart

E A B
I let kind and true words be my art

E A B
Oh what a treasure is sincerity

A E B E
A beautiful mix of honesty and purity

A E B E A E
Oh what a treasure is sincerity

When I serve, I give from the bottom of my heart
I purify my thoughts and pray before I start
This way my actions can build true unity
Oh what a treasure is sincerity
Oh what a treasure is sincerity

When I pray, I pray from the bottom of my heart
I close my eyes and think of God
I don't think of my desire, I don't think of what I need
I think of how sincerity can shine through my deeds
Oh what a treasure is sincerity

CHORUS (*repeat twice*)

C. 引用文の暗記

以下の引用文を暗記するとき、このレッスンのテーマに関連する次のような考えに注意を向けるようにすると良いでしょう。

私たちの言葉と行いが私たちの心の中にあるものの反映する時、実直という特質を示します。実直は他の人とかかわるとき、誠実であることと忠実であることを私たちに呼び起こしま

す。たとえば、私たちが何かについて許しを願うとき、過ちを繰り返さないよう努力しようと心から思うのは実直です。私たちが実直を示せば、他の人が私たちの心の純粋さを見て信頼できるようになります。実直という特質の大切さを忘れないようにするため、アブドル・バハの以下の引用文を暗記すると良いでしょう。

私たちは、どんな時でも誠実と実直を表さなければなりません…。¹⁰⁷

〈実直〉

1. レオ君のクラスメイトは、勉強しないでゲームばかりしています。レオ君はクラスメイトの勉強が遅れるのを心配して、みんなと一緒に勉強して、お互いに学習を助け合う方法を考えようと提案します。レオ君のクラスメイトに対する気遣いは、実直を示しています。
2. ローザちゃんは毎日宿題をすることをお母さんに約束しました。ご両親がそばにいないくても、ローザちゃんはきちんと宿題をします。ローザちゃんは約束したことを、実直に守ります。

〈表す〉

1. アシヤ君は、夏休みに行った海辺の景色やそこで遊んだときの気持ちを絵で表しました。
2. 花言葉というものがあります。花などの植物に象徴的な意味をもたせたもので、例えば、花言葉でスマレが表すのは「誠実」です。

D. お話

あなたがこのレッスンで語るストーリーは、誠意という特質を持つということの意味と、その特質がないとどうなるか、子どもたちが考える助けになるでしょう。

数人の子どもを持つ夫婦の家の裏に大きな木が立っていました。その木は長年、そこに立っていて、大きくなるにつれ、枝が伸びて、家の裏の良い日除けになりました。ある冬の朝、父親がその木の下を歩いているとき、隣人に会い、村の出来事などしばらく話していると、その隣人はその大きな木を見て言いました。「ところで、この大きな木を切りたおす時じゃないですか。伸びきってどうしようもなくなっていますよ。もし枝の一本でも折れて、あなたの家の屋根に落ちてきたら、それとももっと悪いことに、あなたの子どもがその陰で遊んでいて

それが当たったらどうしますか？」隣人が行ってしまってから、父親は隣人の忠告について考えてみました。その木は彼の記憶がある限りそこに立っていたが、何の害もなかった。夏には日陰を作ってくれるし、冬には厳しい風から家を守ってくれている。その木はびくともせず強そうだ。「でも、隣人が言っていることは正しいかもしれない」と、つぶやきました。「見た目は時々、実際とは違うからな。もし、この木が見た目ほど強くなかったらどうなるだろうか？」そこで、父親はその木を切り倒すことにしました。

その木は大きくて、じつにたくさんの太い枝や小枝が、かなり高いところにもあったので、切り倒すのは大変な仕事でした。父親がちょうど作業を終わったころ、さっきの隣人が息子二人と一緒に荷車で戻って来ました。隣人は、積み上げられたたくさんの木を見ながら「ああ、木を切り倒すことにしたんですね」と言いました。「誰かにその木を持って行って欲しいんじゃないですか。手伝いましょう。ちょうど荷車と二人の息子も連れて来ています。あなたの庭からこれらを全部もって行ってあげましょう」。彼の返事も待たずに、息子たちはその木を荷車に乗せはじめました。彼らが荷車を引いて行ってから、父親はこの木の切り株に座って考えました。そして、この木は長い間、自分の家を守って来たと悟りました。結局、隣人は他の人の家族の安全のことを考えていたのではなく、ただ冬の数カ月間に自分達に必要な薪を準備することしか考えていなかったと分かったのです。「見た目は、時々、実際とは違う」と、父親はため息をつきながら言いました。家族がその美しい木をその日失ったことは何と悲しいことでしょう。でも、もっと悲しいことは、その隣人が、友だちの信頼と、神様のお喜びを勝ち取る機会を失ったことです。

E. ゲーム: 熱い 冷たい

まず、子どもの一人に目隠しをして、グループに背を向けるよう言います。それから、残りの子どもたちが小さな物、たとえば鉛筆とかクレヨンを隠し、最初の子の目隠しをとり、隠した物を捜すように言います。他の子どもたちは、その子が隠した場所に近づくと大きく手を叩いて見つけるのを手伝います。隠した場所から遠のくと手を叩く音を小さくします。手を叩く代わりに、隠した場所に近付くと、「暖かい」「熱い」、離れたら、「冷たい」「とても冷たい」と言い、もっと遠のいてしまったら「凍っちゃうよ」と言うやり方もあります。隠してある場所からわざと引き離すようなことをしないよう気をつけましょう。さもないと、お互いの信用がなくなってゲームの意味がなくなります。

F. むり絵 8

G. 終わりの祈り

レッスン9

A. お祈りの暗唱と暗記

このレッスンを含むこれから続く4回のクラスは、たとえばセクション10にあるお祈りなど、すでに暗記しているお祈りを選んで唱えます。あなたと数人の子どもたちが開始のお祈りをしてから、以下のお祈りの暗記に入ります。このお祈りは子どもたちが前に暗記した二つのお祈りよりも長いのですが、意味を掴むのは難しくはないので、レッスン12までには覚えることができるでしょう。

神の御名が述べられ 神の賛美がうたわれた
この地 この家 この場所 この町 この心 この山 このかくれ家
この洞穴 この谷 この大地 この海 この島 そして この草原に
祝福あれ 108

B. 歌(既に覚えた歌も含める)

けんきょ うた
謙虚の歌

1. だいち
大地を見てごらん
とてもけんきょ
生きるために必要な
ものを育てる
まいにち うえ
毎日その上を
ある
歩かれているのに
もんく
文句を言わない
いばらない
2. いなほ み
稲穂を見てごらん
とてもけんきょ
とても謙虚

みの
実れば実るほど
だいち じぎ
大地にお辞儀する
おいしいごはんになって
げんき
元気をくれる
み
だけど見てごらん
いばらない

3. 大地のように

稲穂のように
けんきょ つばさ
謙虚の翼で
おおぞら と
大空を飛ぼう
謙虚の翼で
大空を飛ぼう

C. 引用文の暗記

以下の考えは、このレッスンのテーマと暗記する引用文を紹介するときの役に立つでしょう。

謙虚は、とても重要な精神的特質です。神さまの前で謙虚な人は、神の偉大さと神の創造を認めます。そのような人は神様の助けや恩恵がなければ、何も達成することができないということを知っています。神さまは全能者、力に満ちた御方です。私たちは神さまの前で決して思い上がるようなことがないように、神さまの創られたものすべての前で謙虚です。私たちは地球やその上にある全てのものは神さまがお創りになったものであり、神の印と属性を表しているということを覚えています。私たちは自然を敬い、私たちの周囲のものからいつも何かを学ぶことができると心の中で知っています。次の引用文を暗記しましょう。

おお人の子よ！わが前にへりくだれ。さればわれ汝を恵み深く訪わん。^{なんじ}^と 109

<へりくだる> 謙虚な態度を持つ

1. ジナブちゃんは、算数の宿題に熱心に取り組み、テストの結果もいつも良いのですが、それを自慢することはありません。ジナブちゃんは謙虚です。

2. ヨン・フーの近所の子どもたちはとても勉強熱心です。ヨン・フー君はその子どもたちのために小さなクラスをつくるよう頼まれました。彼は、自分はあまり経験がなく、力が足りないと思っていましたが、神様を信頼して、一所懸命、頑張ることにしました。彼は この仕事に謙虚に取り組めます。

＜恵み深い＞

1. カンドスちゃんの家族が近所の人たちを食事に招待したとき、カンドスちゃんはお客さんたちを温かく迎え、恵み深く、冷たい飲み物を配ります。
2. ジオバニ君は近所のおばあさんが買い物袋をさげて、苦労しながら歩いているのを見ました。そこで、彼はおばあさんのために恵み深く、買い物袋を運んであげました。

＜訪わん＞ 訪問すること。神様が私達のそば近くまでいらっしゃること。 (☆: 英語にはない)

D. お話

謙虚さは、アブドル・バハの資質の中でも特にきわ立っています。たくさんの人が彼に立派な称号を贈ろうとしましたが、師はただ「アブドル・バハ」と呼ばれることを望まれました。それは「栄光に仕える者」という意味です。アブドル・バハの一番の望みは、奉仕することでした。ある時、裕福な訪問客たちが、アブドル・バハが食事の前に手を洗われるための綿密な計画を練りました。特別に正装した男の子が透明な水の入った立派な器と、いい香りのするタオルを持って、アブドル・バハを待っていたのです。水の入った器とタオルを持った小さな男の子とその訪問客たちが芝生を渡って来るのをご覧になった師は彼らの計画をお分かりになりました。そこで急いで近くにある水で手を洗い、庭師が持っていた布切れで手を拭いてから、にっこりして皆に挨拶をして、彼のために用意されたきれいな水とタオルを、お客さんたちが使えるようにされました。

E. ゲーム: 「伸び縮み」

一人の子どもが目隠しをし、残りの子どもはその子の周りを囲んで円になります。みんなで爪先立ちしてできるだけ背を伸ばしながら、一斉に「私はとっても背が高い、私はとっても背が高い」と言います。次にしゃがんで、できるだけ姿勢を低くして、「私はとっても背が低い、私はとっても背が低い」と言います。これらの動作と姿勢の調整を繰り返します。それから、子どもたちは、先生の合

図にしたがって背を高くするか、低くするかしながら声をそろえて、「今、私の背は高い？ 低い？」と目隠しをした子に聞きます。目隠しした子は子どもたちの声で、背の高さを言い当てます。目隠しは順番に行います。

F. ぬり絵 9

G. 終わりの祈り

レッスン10

A. お祈りの暗唱と暗記

始めのお祈りの後、子どもたちはレッスン9で習い始めたお祈りの暗記を続けます。

B. 歌(すでに習った歌の復習を含む)

「感謝と賛美を」

『一つの海の波』CD、5番

*〈繰り返しの部分〉

感謝と賛美を 慈悲の冠 わが頭に

置きたもうた 神に 捧げます

*(繰り返す)

感謝と賛美を わが心に 愛と知識を

植えつけてくださった 神に 捧げます

*(繰り返す)

(一音上げる)感謝と賛美を わが眼を輝かせる 真理の

光授けたもうた神に 捧げます 捧げます 捧げます

C. 引用文の暗記

ここで暗記するこの引用文は、子どもたちに以下のように紹介することができます：

私たちは、どんなに小さなプレゼントでも、それをくれた人にお礼をいいます。ですから、私たちを見守ってくれる目、愛してくれる心、成長できるような世界を創造したことなど、たくさんの贈り物や恩恵をくださった神様にはもっとも感謝しなければなりません。アブドル・バハは、神様がくださったたくさんの恩恵に対して、そして神様の愛で私たちの心をいっぱいにしてくださっていることに対して感謝しなければならないとおっしゃいました。私たちはいつも、たとえ困っているときでも、神に感謝しなければなりません。神様に感謝すると、神様の限りない恩恵をもっとも受けとることができます。次の引用文を暗記しましょう。

幸せでありなさい。^{かんしゃ}感謝しなさい。神に感謝するために立ち上がれば、
その感謝の気持ちはさらなる恵み^{めぐみ}をもたらしでしょう。¹¹⁰

下記の文章は引用文の説明に役立つでしょう。

<立ち上がる>

1. サルマちゃんは、長いこと病気だったおばあちゃんがベッドから立ち上がり、散歩に出るのを見て、嬉しくなりました。
2. 子どもたちは、昼食の後、畑の作業を手伝うために立ち上がりました。

<さらなる> =もっと多くなること

1. 去年、マリアちゃんの学校には先生が5人しかいませんでした。今年、8名の先生がいます。先生数はさらに3人多くなりました。
2. シャヤン君は幸せな子です。シャヤン君は他の人たちを助けた時はもっと幸せになります。他の人を奉仕するとき、彼はさらに幸せになります。

<もたらす>

1. ナディアちゃんはいつも清潔にしています。彼女は、清潔は精神的な成長にとって大切だということを知っています。清潔は精神性をもたらします。

2. セフ君の家族は協力し、家族の大切な問題でお互いに助け合います。家族みんなが協力するので、仲良く暮らしています。協力は調和をもたらします。

D. お話

ある時、お金持ちの女性がアブドル・バハに会うため、遠くから聖地にやってきました。女性は自分の小さな問題ごとを次から次に、長々とアブドル・バハに話し始めました。アブドル・バハは別の約束で呼び出されるまで、かなりの時間、忍耐強く、親切に彼女の話に耳を傾けられました。しかし、アブドル・バハはその女性と別れる前に、窓の外を歩いていた紳士を指差して、「あなたに会ってほしい人がいるので呼びましょう。彼の名はミルザ・ハイデル-アリといいます。彼は地上を歩いていながら天上に住んでいます。彼はたくさんの問題を抱えています。それらについてあなたにお話しするでしょう」と言われました。

ミルザ・ハイデル-アリは実際、たくさんの困難を抱えていました。彼はペルシャの出身です。その国では、バハイ信者が不当に扱われ、とてもいじめられています。ある人は逮捕され、不当に投獄^{とうごく}され、またある人たちは憎しみと怒りに満ちた人々によって殴られています。ミルザ・ハイデル-アリの人生に降りかかった苦難のすべてを聞くとあなたはとても悲しくなるでしょう。

アブドル・バハはミルザ・ハイデル-アリを呼びに行き、女性のお客さんに引き合わされました。彼を彼女に紹介して、アブドル・バハは出て行かれました。ミルザ・ハイデル-アリはすぐに、とても嬉しそうに、謙虚に、自分たちの生きているこの素晴らしい時代とこれから続く神の祝福のすべてについて、彼女に話し始めました。その女性はちょっとの間、聞いていましたが、話の途中でイライラして、話を遮^{さえぎ}りました。「だけど、アブドル・バハは、あなたがご自分のかかえる困難について話すだろうとおっしゃったわ」と言いました。ミルザ・ハイデル-アリは当惑したように顔をあげて、「困難？」と答えました。「私にはなんの問題もありませんよ。困難ってなんのことだか、私には分かりません」と答えました。ミルザ・ハイデル-アリは確かに大変な困難を経験しているけれど、それに煩^{わづら}わされるようなことは決してなく、ただ、神様があたえてくださった全ての祝福の方だけを見、それに感謝するということを、もちろん、アブドル・バハはご存知だったのです。

E. ゲーム：素早い合図

子どもたちは手をつないで輪を作ります。まず、皆で同時に左の手をぎゅっと握り、次に右手をぎゅっと握る練習をします。それから、一人の子が片方の手でとなりの子とつないだ手をぎゅっと握りしめて合図を送り、その合図を受けた子が次の子に合図を送ります。こうして次々と合図を伝え、最初の子のもう一方の手に合図が戻って来ます。その合図が一周する時間を測って、どんどん速くなるように促します。このゲームの仕方を覚えたら、今度は反対方向にその合図を送るようにするか、またはぎゅっと握る合図の回数を増やしましょう。

F. むり絵 10

G. 終わりの祈り

レッスン11

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、自分が暗記しているお祈りを唱えてから、数人の子がそれぞれ自分の暗記しているお祈りを唱えることでクラスを始めます。それから、子どもたちがレッスン9で習い始めたお祈りの暗記を助けましょう。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「長所を見よう」

『一つの海の波』CD、4番

C F7 C G7

優秀——それが目標 でも先はまだ長い

毎日長所を見ると とっても助けになるんだ

だから欠点が見えても この歌では歌わないよ

人にも話さないよ 考えることさえしないさ

*＜繰り返しの部分1＞

良いところを見るんだ 良いとこだけ見るんだ

みんなも見るんだ 誰でもそうしてほしいから

神さまも僕の 良いとこ見てくださる

* * <繰り返しの部分2>

他人の欠点を見ても 僕が目をつぶるなら

神さまも目をつぶってくださるだろう

(音楽)(C F7 C G)

アブドル・バハは眼を見て 心を読み取られる

人の欠点に気づいても 成長するためのすべを

示してくださる だから 人の欠点が見えても

僕は人には言わないし 自分にさえに言わないよ

* <繰り返しの部分1> * * <繰り返しの部分2>

* <繰り返しの部分1> * * <繰り返しの部分2>

* * <繰り返しの部分2>

C. 引用文の暗記

以下の考えを子どもたちと分かち合うことによって、このレッスンのテーマと暗記する引用文を紹介すると良いでしょう。

許すことは神の属性の一つです。アブドル・バハは、私たちはいつも互いに許し合わなければならないと言われました。お互いに欠点を見るのではなく、許しの目で見ることが大切です。アブドル・バハの行動を見習えば、友達がまちがった事をしたときだけでなく、不親切であった人たちでも許すことができるでしょう。許す事ができるようになるため、次の引用文を暗記しましょう。

… 許しと慈悲、そして、神の寵愛を受ける者の心に喜びをもたらすものをもって自身の飾りとせよ。¹¹¹

<慈悲>

1. 何日も雨が降り続けました。村の川が氾濫^{はんらん}しても雨は降り止みませんでした。雨は慈悲を示しませんでした。
2. 神様にお祈りする時、神様は私たちの間違いを許してくださいます。神様は私たちに慈悲を示されます。

<喜びをもたらす>

1. アースラちゃんは病気でした。お友だちのエルシーちゃんはお花を持ってお見舞いに来て、長い間アースラちゃんのそばに座りおしゃべりをしました。エルシーちゃんのお見舞いはアースラちゃんに喜びをもたらしました。
2. サンチェス夫人は、仕事のために近くの町に一人で暮らしている夫から長い手紙を受け取りました。その手紙にはもうすぐ家に帰ってくると書いてありました。その知らせは、彼女に大きな喜びをもたらしました。

<寵愛を受ける>

1. 先生は生徒たち皆のことを好きで、彼らの一人一人を注意深く世話しました。生徒たちは全員、先生の寵愛を受けています。

D.お話

アブドル・バハがアッカ市に住んでいらしかった時のことです。アッカの知事は何度も、バハイ信者たちをいじめようとしていました。ある時、知事はバハイたちが暮らしていけないようにするという計画をたてました。知事が警備員たちにすべてのバハイの店に行って、閉めさせ、鍵を知事に持ってくる命令を出しました。しかし、アブドル・バハは、その知事の計画を知って、バハイたちにその日にお店を開けないように忠告して、神様は何をお定めになったか、成り行きを見ましようと言われました。

警備員たちから、お店は開いていなかったの鍵を取り上げてくることができなかったときかされた時、知事はどんなに驚いたことでしょう。しかし、知事が

次の計画を考える時間がないうちに、予想もしなかったことが起こりました。知事の上司から電報が届いて、彼は解雇されることになったのです。という訳で、バハイの友らのお店も閉められることはありませんでした。

その元知事はアッカを出て、ダマスカスという別な都市に行くよう命令されました。元知事は、どうしたらいいか分かりませんでした。元知事はすぐに、一人でアッカを出なければなりませんでした。自分の家族はどうなるのだろう、政府の支援を失った自分を誰も助けてはくれないだろうと思ったのです。しかし、このことをお聞きになったアブドル・バハは、元知事を訪問されました。アブドル・バハは、まるで、この元知事が決してバハイをいじめたことはなかったかのように、不幸な元知事にとっても親切にされました。過去に元知事がやったいじわるについては一言もおっしゃらず、むしろ、できるだけの援助をすると申し出られました。元知事は自分がアッカ市を去った後、奥さんと子どもはどうなるかと心配していました。アブドル・バハは彼らの世話を約束されました。その後、元知事の奥さんと子どもたちに信頼のおける人を同行させ、快適な旅を用意して、ダマスカスへ送り出されました。そのために必要な費用は全部アブドル・バハが支払われました。

家族が再び一緒になった時、元知事は大喜びしました。彼はとても感謝して、家族に同伴してくれた人に旅の費用について尋ねました。同行してきた人は、アブドル・バハがすでに払っていると答えました。元知事は、旅の間、家族に示された親切や苦労のお礼として同行人に贈り物を上げようとしたしましたが、同行人はそれを断りました。自分はただ、アブドル・バハの言いつけに従っただけなので、自分のしたことに何のお礼もいらないと言いました。次に元知事は自分のお客さんとして家に一晚泊まっていくよう頼みましたが、アブドル・バハはすぐに戻ってくるようにと言われたので、自分はその申し付けに従いたいと言って断りました。そこで元知事は、せめてアブドル・バハにお手紙を書く間だけでも待ってくれるようにと頼み、家族に同行した人はそれを受け入れました。同行人がアッカ市に戻って、その手紙をアブドル・バハに渡した手紙にはこう書いてありました。「アブドル・バハ様。私をお許してください。私はあなた様を理解していませんでした。あなた様のことを知りませんでした。あなた様が大変悪いことをしてしまいました。それなのに、あなた様は私に大変よい扱いで返してくださいました」

E. ゲーム: 人から人

子どもたちは手を叩いて、「人から人」と言いながら自由に歩きまわります。先生が「背中と背中」と合図すると立ち止まり、それぞれに相手を見つけて、その子と背中を合わせます。先生の次の合図で子どもたちはもとのように手を叩いて、「人から人」と言いながら歩きまわります。先生が「顔と顔」と合図したら立ち止まって、また相手を見つけて軽く頭を垂れて会釈します。このような二つの合図を繰り返しながらゲームを続けますが、他に、「ひざとひざ」、「ひじとひじ」と言ったような合図を取り入れることもできます。

F. むり絵 11

G. 終わりの祈り

レッスン12

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、いくつかのお祈りでクラスを始めます。その後、レッスン9、10、11で学んだお祈りを復習します。レッスン13では新しいお祈りを暗記することになるので、ここで、このお祈りを全員が上手に言えるようになっていることを確認する必要があります。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「真実に満ちていること」

(『ブック3 子どもクラスの歌』CD、10番)

ララララ ラーララ ラララララ

ララララ ラーララ ラララララ

真実は太陽より明るい 真実は太陽より明るい

真実で舌を美しく 真実で舌を美しく

ララララ ラーララ ラララララ

ララララ ラーララ ラララララ

正直はみんなの魂を飾る 正直はみんなの魂を飾る

正直は太陽より明るい 正直は太陽より明るい

ララララ ラーララ ラララララ

ララララ ラーララ ラララララ

C. 引用文の暗記

以下の考えを子どもたちと分かち合うことによって、このレッスンのテーマである正直ということと、子どもたちが暗記する引用文を彼らに紹介できます。

庭は、違った形や色のいろんな花で飾られます。果物を実らせる木は、春には、匂いの良い花を咲かせます。私たちは清潔でしみのない衣服で飾ります。これらの飾りはみんなの美しさを創ります。でも、それらの物質的なものよりも、人間を美しくし、心に喜びをもたらすものは、精神的な資質の輝きです。私たちの人生の飾りとして、正直は一番美しい資質の一つです。私たちが正直で身を飾ると、他の人の物を許可なく取りあげたりはしません。人をだましたり、何かをさせるためにごまかしたりするようなこともありません。正直と言う資質を忘れないようにするため、次のバハオラからの言葉を暗記しましょう。

おお人々よ。正直をもって自らの口を美しくせよ。真実^{しんじつ}をもって 魂^{たましい}を飾る^{そうしよく}装飾とせよ。¹¹²

<美しくする>

1. マリット君は庭に美しいバラを植えました。バラは庭を美しくします。
2. スニル君は真実だけを話します。スニル君の言葉はいつも、誠実で美しくされます。

D. お話

アブドル・バハは人生の終わりの頃、世界中のいろんな所を旅されました。そして、いく先々で、労働者や、指導者や、教育者や科学者など様々な人にお会いになりました。彼は誰もが安心できるよう、できる限りのことをされました。ある日、エジプトで、アブドル・バハは政府の、位の高い役人をお昼に招待し、彼

らを目的地まで連れていくために馬車を雇うことにされました。役人たちがそのような快適さに慣れていることを知っておられたからです。

それほど長く乗ることもなく、彼らは昼食会の場所に着きました。馬車の御者がアブドル・バハに支払いを正当な運賃よりかなり高く請求しました。アブドル・バハは、その御者が正直でないと気づき、正当な額だけを払われました。

御者が文句を言おうとしたとき、アブドル・バハはその御者に向かってきっぱりと言われました。もし正当な運賃を請求していたら、かなりいいチップ(心付け)をつけて払うつもりだったと。それからアブドル・バハは、自分の行動を振り返る御者を残して去って行かれました。

E. ゲーム:「四角、丸、三角」

子どもたちが、たとえば、「四角」、「丸」、「三角」というような、形の名前を知っているか確認することが必要です。まずこれらの形の名前を復習して、それを特定することができるか試しましょう。

それから、あなたが事前に用意した、形の配列を書いたカード、例えば、「丸、丸、四角」と書いたカードを取り上げ、子どもたちにそれをよく見せてから、そのカードを元に戻して、一人の子に、そのカードになんと書いてあったか発表させます。あらかじめ用意していたカードを使って、これを数回繰り返します。もし三つの形を覚えるのが難しいようであれば、カードに書く形は二つだけでも構わないし、三つが易しすぎるようなら、四つか五つの配列を書くこともできるでしょう。

その後、子どもたちの能力に応じて、二つ、三つ、あるいは四つの一連の形の名前を読み上げ、グループの一人にそれを繰り返すよう言います。クラスの全員とこれを何度か繰り返した後、もっと難しいゲーム、たとえば、先生が読み上げる通りに一連の形を描くというゲームに取り組むこともできます。

F. むり絵 12

G. 終わりの祈り

レッスン13

A. お祈りの暗唱と暗記

まず、教師が、例えばセクション13で示したようなお祈りを暗唱し、次に2、3人の生徒がお祈りを唱えてクラスを始め、それから下記のお祈りを紹介します。今回とこれからの3回のクラスで、子どもたちはこのお祈りを暗唱することに努めます。

おお主よ、このいとけなき苗を、あなたの多様な賜物の庭園に植え、ご
慈愛の泉より水を与え給え。ご恩寵と御恵みの雨を降り注ぐことにより、
このいとけなき者が立派な木に成長するようなし給え。

あなたは強大にして、力に満ち給う御方におわします。 ¹¹³

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Be Fair

CHORUS:

A
Be fair, be fair
E7 A
And strive to provide for the comfort of all
A
Be fair, be fair
E7 A
And strive to provide for the comfort of all

A E
When we are fair in our dealings with others
E7 A
We gain the trust of our sisters and brothers
A7 D
When things are divided equitably
E A
Justice will shine for the world to see

(continued on next page)

CHORUS

When you give true comfort and aid
You'll follow the path that the Master laid
When wise and just in what you say and do
You'll bring joy to hearts around you

CHORUS

C. 引用文の暗記

このレッスンで子どもたちは思いやりという資質について学びます。あなたは次のように説明することができます。

神様は最も慈悲深く憐れみ深い御方です。困っているとき、私たちの心は神様に向かい、慰めてもらい強くなれるようお願いします。ですから、私たちも他の人に思いやりを示めさなければなりません。私たちの知っている誰かが困っているか悲しんでいるなら、その人の気持ちを思いやって、助けるためにできる限り力を尽くす必要があります。私たちは、どんな状況でも、誰に対しても思いやりを示し、親切でなければなりません。木は、たとえその木に石を投げる人にでも、果実をあげます。私たちもそうでなければなりません。アブドル・バハの人生は困難でいっぱいでしたが、いつも、全ての人に思いやりを示されました。わたちが思いやりを示す努力を助けるために、バハオラの次の言葉を覚えましょう。

神の王国は、平等と正義、すべての人に対する慈悲、思いやり、親切の
うえに創られる。¹¹⁴

< 平等 >

1. その王国の全ての人々は国の繁栄のために一所懸命働きました。収穫が終わったとき、王様はそれぞれの家族の人数に合わせて収穫を国民に分け与えました。王様は国民を平等に扱いました。
2. となり村へ行くための道路を作るために、村の議会は、農地の外周りにその道路を作ることになりました。そうすることで、お百姓たちが困ることもなく、たくさんの人がその新しい道路から利益を得ることが出来ました。議会は、この決定で平等の考えを示しました。

<創られる>

1. そのお医者さんは村の子どもたちの健康を心配して、子どもたちのための診療所を開きました。お医者さんの子供たちへの愛の上に、その診療所は創られました。
2. ジェンナちゃんとメルセデスちゃんは長い間の友達で、いつも一緒に勉強し、お互いに自分たちが学んだ役に立つことを分かち合います。彼女らの友情は親切と愛のうえに創られています。

<思いやり>

1. リ・ヨン君は、友達のザーラちゃんが悲しそうなのに気づいて、何かしてあげられることはないかとザーラちゃんに聞きました。ザーラちゃんは、お母さんが病気で入院していると言いました。リ・ヨン君は、ザーラちゃんの話聞いて、彼女を慰めました。次の日、ザーラちゃんと一緒に病院へお見舞いに行くよと言いました。リ・ヨン君はザーラちゃんに思いやりを示しました。
2. しおりちゃんが田舎道を散歩していると、フェンスに足が引っ掛かっている子羊を見ました。しおりちゃんはその足をゆっくりフェンスから取り出して、包帯で巻いてあげました。しおりちゃんは子羊に思いやりを示しました。

D.お話

アブドル・バハが西洋を旅されたとき、訪問したどの町でもたくさんの人がアブドル・バハに会いに来て、励ましの言葉に聞き入りました。アブドル・バハは、昼も夜も、若者や老人、金持ちや貧しい人、役人や一般市民など様々な人に会われました。ある人はアブドル・バハを慕って来ましたが、ある人はアブドル・バハが何を言うか知りたくて来ました。

ある日、一人の女性がアブドル・バハの滞在先にやってきてドアをノックしました。彼女はごく普通の人で、アブドル・バハとほんの少しの時間を過ごしたいと心から願っていました。ドアを開けた男の人は彼女に、「アブドル・バハに会う約束をされていたのですか?」と、たずねました。彼女が、約束はしてないと答えると、「では、会うことはできません。アブドル・バハは今、とても偉い人たちと会っておられるからです」と断られました。彼女は悲しそうに、玄関の階段

を下りて帰りはじめました。どんなにがっかりしたことでしょう！でも、その時、突然、アブドル・バハからのお使いが来て、彼女に戻るように言いました。アブドル・バハは彼女に会いたいと思っておられました。「人の心が傷つけられました。急いで、急いで！彼女を私のところに連れてきてください」と、アブドル・バハの力強い、威厳ある声が聞こえてきました。

E. ゲーム:「一緒に」

子どもたちを二人一組にして二人三脚を作ります(一人の右足を、もう一人の左足に紐で結びます)。子どもたちに、このゲームで成功するためには、パートナーを協力することを学ばなければならないと説明します。それから、それぞれの組みは一つの、決められた地点から別の地点へ歩きます。目標の地点までの間に、木の枝や石ころなど、ちょっとした障害物を置くと、もっと難しくなり、やる気を高めるかもしれません。しかし、しっかりと安全を確保できるよう気をつけましょう。また、ただ歩くだけでなく、ウサギ跳びや馬のようにギャロップするなどといった進み方にするのもおもしろいでしょう。これは、速さを競い合う競争ではないことを、子どもたちに説明する必要があります。

F. むり絵 13

G. 終わりの祈り

レッスン14

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、あなたと、数人の子とのお祈りの暗唱でクラスを始めます。その後、子どもたちは前のレッスンで学んだお祈りの暗記を続けます。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

On the Wings of Detachment

CHORUS:

One day a bird was flying in the sky above

(continued on next page)

Full of joy and confidence

Soaring in this Paradise, his home

As he flew, his hunger began to grow

So he turned to the water and clay below

Down below

He was trapped

By his desire

And his wings got covered in mud

Too heavy to fly,

He could not return to his home

CHORUS

Like that bird I belong to the heavens
So I will not cling to the earth below
I will not cling to riches
I will not cling to my wishes
I will not cling to anything but God

So I will walk on the feet of detachment

I will soar on the wings of detachment

C G F
I will free myself of all attachment

G C
To anything but God (*repeat*)

C. 引用文の暗記

子どもたちは超脱という資質についての引用文を学びます。超脱はこのレッスンのテーマです。あなたはこのテーマについて次のように説明することができますでしょう。

神様はこの世のすべての良いものを、私たちの喜びのために創ってくださいました。健康、おいしい食べ物、愛や友情、自然の美しさ、考える力などです。考える力は私たちの生活をよくするための発明や発見を可能にします。神様が与えて下さった全ての恵みを使うようにして、生かされている喜びを神様に感謝すべきです。でも、この世界に執着しないよう、気をつけましょう。私たちの魂はいつも自由でなければなりません。自由で、力強い鳥のように、精神の世界に飛んでいるべきです。鳥が地上のことがらに執着して、飛び立つことができないとしたら、何と悲しいことでしょう。次の引用文 を暗記しましょう。

汝の真の飾りは、神への愛と、神以外のすべてのものに^{とら}囚われないこと
にあることを知りなさい…。¹¹⁵

<以外のすべて>

1. 勉強をしなかった一人の子を除いて、子どもたちは全員、テストで成績が良かった。一人の生徒以外のすべては成績が良かった。
2. お母さんは家族のために特別の食事を用意しようと思いました。でも、重要な材料の一つがなかったのでそれができないと気づきました。一つの材料以外のすべては揃っていました。

<囚われない>

1. ヘルギ君は、とても、友だちと泳ぎに行きたかったのですが、お母さんが買い物に行くので、喜んで、妹と一緒に家に残りました。ヘルギ君は家族を助けるために、自分の計画に囚われませんでした。

2. 学年の終わりに、アジャリちゃんは担任の先生にお花を贈ったらいいと思いました。彼女のお姉さんはお花よりもみんなでケーキを焼くよう助言しました。アジャリちゃんは、それはいい考えだと思いました。アジャリちゃんは自分の考えに囚われませんでした。

D. お話

ある時、二人の男性がお茶を楽しみながら精神的なお話をしていました。二人は長年の友人です。今、二人のうちの一人は生活を通してたくさんお金を貯めて、何も欲しいものはありませんでした。もう一人はそれほど持っていないで、彼は、「聖地へ行きたいな」と、お金持ちの友だちに言いました。お金持ちの友だちは、「それは良い考えだな。わしも一緒に行くよ」と、何のためらいもなく答えました。二人はお茶のカップをテーブルに置くとすぐさま立ち上がり、聖地へ向かいました。

二人がほんの少し歩いた頃、日が暮れました。貧しい男はのろのろと歩き、とうとう歩みを止めて、「友よ、今日は家に帰って一夜を過ごそうじゃないか。その方が心地良いし、明日の朝、新鮮な気持ちで始めることができる」と言いました。「どうして引き返すんだ？ わしらは聖地へ向かっているんじゃないか！」と、もう一人が尋ねましたが、一方はどうしても納得せず、「聖地は徒歩で行くには遠いよ。少なくとも、家に引き返してロバを連れてくるのを許してくれよ、わしはそのロバを置いて行きたくないんだ」と言いました。

お金持ちの方は言いました、「結局のところ、多分、あんたは、この旅でわたしに同行する者ではないんだ。わしは喜んで、馬や土地、上等の衣服など、たくさんの財産を捨てたが、喪失感はずっとない。なぜかという、例えば一瞬だけでも聖地で過ごす時間よりも大きな恩恵はないからだ。あんたはロバ一匹も捨てることのできないのか」。悲しいことに、貧しい方の友だちは、自分の貴重な所有物一つを手放すことができませんでしたので、聖地への道を進み、決して振り返ることのなかった自分の友だちをおいて去りました。

E. ゲーム:車輪

子どもたちは輪になって立ち、左腕を輪の中心に向けて伸ばし、お互いの手をつなぎます。その腕は、車輪のスポーク(輻)を表します。次に、子どもたちはそのままの姿勢で輪の中心を軸にし

て回ります。その後、車輪の形を保ちながら、輪の向きを変え、クラスルームの空いている場所に移動するよう言います。車輪の形を崩さないでスキップしたり、はねたりさせることもできるでしょう。それができたら、今度は編隊を変えないで、円の向きを変えながら動き回るようにします。

またゲームをさらに難しくするために、子どもたちが輪になって床に座り、脚をまっすぐに伸ばして、真ん中で足が触れるようにさせることができます。それから、両掌を腰のところで床に付けます。こうして車輪の形で動きます。まず、みんなが両手で腰を持ち上げて右側に動きます。この方法で一步步、手で動き、「車輪」が一周するまで車輪の中心となる足が離れないようにします。

F. ぬり絵 14

G. 終わりの祈り

レッスン15

A. お祈りの暗唱と暗記

開始のために幾つかのお祈りをした後、レッスン13で学んだお祈りの暗記を続けるよう、子どもたちを援助しましょう。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Bestow Upon Me My Portion

CHORUS:

A
Bestow upon me my portion

D A
O Lord, O Lord

A D A
Bestow upon me my portion

E A
As it pleaseth Thee

^A
 It's easy to be content
^D ^A
 When things are going well
^A
 It's easy to be content
^E ^A
 When you're feeling swell
^D ^A
 But what is really more challenging
^E ^A
 Is to be content when things go wrong
^D ^A
 To be patient in times of difficulty
^E ^A
 Perhaps even sing a song

CHORUS

From the time He was a boy
 The Master suffered indignities
 From early in His life
 He hardly had any comfort or ease
 But He remained content and calm
 Never full of anxiety
 He trusted in God and accepted His Will
 Continued on ever patiently

CHORUS

C. 引用文の暗記

以下は、このレッスンのテーマと、子どもたちが暗記する引用文を説明するのに役立つ幾つかの考えです。

アブドル・バハはどのような状況でも神のご意思に満足しておられました。師はよく、周囲の友らにこう言われました。健康で快適な暮らしをしているときや、物事がうまくいっているときに満足するのはたやすいことだが、困難や、病気や苦勞が多いときでも幸せで満足しているというのはむずかしいことです。アブドル・バハは人生でたくさんの困難の中にあっても、決してがっかりされませんでした。非常に悲しく、困難なときでも、師は満足して、

神に感謝しておられました。アブドル・バハはいつも明るく楽天的でした。次の引用文を暗記して、いつも、神のご意思に満足することの価値を思い出すようにしましょう。

栄光えいこうの源みなもととは、神が授け給さずうものをすべて受け入れ、神が定め給さだうことに満足することである。¹¹⁶

<栄光>

1. 学校で科学を勉強した後、ポウ・レンさんは科学者のグループに入りました。彼らはたくさんすばらしい発見をしました。ポウ・レンさんの働きは、彼女の家族の名に栄光をもたらしました。
2. スイーちゃんは、山や木や海など、自然を見るのが大好きです。自然の美しさをみるといつも、このようなすばらしいものを創られた神さまの威厳と偉大さを感じました。自然を見ると、スイーちゃんは神の栄光について考えます。

<源> (☆: 英語にはない)

1. 川の水の流れでもと。例えば、淀川よどがわの源は琵琶湖びわこです。
2. エミちゃんは、朝顔の種を植えました。毎日お水をやりました。お水やお日様は植物の成長の源です。

<授ける>、<授け給う> (「給う」は偉い人がされる動作を飾る言葉 = 尊敬語)

1. 神様は、パウロ君にやさしい家族やたくさんのお友だちを授けてくださいました。パウロ君はたくさんのお贈り物を授け給うた神に感謝します。
2. 太陽がなければ地球は暗くて寒く、生物が生きていくことはできません。太陽は地球に光と暖かさを授けます。

<定める>

1. 王様は、その国のすべての人々に対して、春の最初の日には働かないようにと決めました。春の最初の日には休日と定められました。

2. 何か月もの間、その地方には雨が降りませんでした。村の議会は、水の使用を制限するよう人々に命じました。議会は節水を定めました。

D. お話

ある日の夕方、アブドル・バハは数人のバハイたちと、通りの両側に街頭の灯^{とも}る、明るいロンドンの街を歩いておられました。その街灯は通りのずっと先まで続いていました。親愛なるアブドル・バハにお供していた人たちは、まるで自分たちの心が別の世界に運ばれたかのように感じました。

アブドル・バハは、「この風景は私を喜ばせてくれます。光は良いものだ。一番良い。アッカの牢獄はとても暗かった」と、おっしゃいました。

アブドル・バハを愛していたその友らの小さなグループは、彼が、牢獄都市アッカに幽閉されていらっしゃったことを思い出して悲しくなりました。師はお父様のバハオラと共に、囚人として何年もの歳月をそこで過ごされたのです。アッカはとても居心地の悪いところで、家族は大変な苦勞をされました。「アブドル・バハ、あなたが自由の身になられて、私たちはとても嬉しいです！」と、友らは言いました。

すると、アブドル・バハは、こうお答えになりました。「私は牢獄にいるときも幸せでした。それらの日々に奉仕の道を進んでいたからです」。そして、お話されました。最大の牢獄は自我の牢獄です。もし、自分のことしか考えず、周りの人たちのことを考えることがなかったとしたら、どうでしょう。それこそが、私たちが本当に牢獄の中に閉じ込められているときであり、それは本当に罰せられている時です。アブドル・バハはどんな時も満足しておられました、それは、彼が神様と人々への奉仕の道を歩いておられたからです。アッカに閉じ込められていた暗黒の日々でさえ、アブドル・バハの不屈の精神の灯^ひは輝いており、他の人々に温かさを与え、慰めをもたらしておられました。

G. ゲーム：彫刻家

あなたは彫刻家で、子どもたちはあなたが一つの作品を作り上げるのを手伝っているとします。一人の子に、前に出てきて、あなたが示すポーズ、たとえば、両腕を広げて屈むポーズをとるよう

言います。それから、続けて一人ずつ、あるいは数人ずつが加わり、示されたポーズをとります。自分がどのようなポーズをとるのか全員がわかったら、一緒になって一つの作品を作り上げます。最後に、あなた自身もその作品の部分として加わりましょう。

生徒たちを二人一組にしてゲームを続けることもできます。各組でそれぞれに、順番に、片方が彫刻家になって、もう一方にポーズをとるよう言います。

このゲームのさまざまな変形を考えることもできます。たとえば、「フェンスになることはできる？」とか、「庭になることができる？」と言ったような質問をすることもできるでしょう。子どもたちは、その形を作るために自分たちで考えるでしょう。

F. むり絵 15

G. 終わりの祈り

レッスン16

A. お祈りの暗唱と暗記

今回までに、レッスン13で覚え始めたお祈りを暗唱できるようになっているのが望ましいです。オープニングのお祈りをした後、そのお祈りについて復習しましょう。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

We Are Flowers (「みんなが庭の花」)

: repeat phrase (ことばをくり返す)

We are flowers : of one garden :

ウィー アー フラワーズ アブ ワン ガーデン

and the leaves : of one tree. :

アン ザ リーブス アブ ワン トゥリー

*Come and join us :

カム アン ジョイン アス

in our quest for unity.

イン アウア クエスト フォア ユニティ

It's the way of life for you and me.

イツ ザ ウエイ アブ ライフ フォア ユー アン ミー

みんなが : にわのはな : minna ga niwa no hana

ひとつの木の : はっぱ : hitotsu no ki no happa

みんなでいこう : minna de ikou

へいわ と あいをさがしに heiwa to ai o sagashi ni

これは へいわ の みち。Kore wa heiwa no michi

All the earth : is one country :

オール ジ アース イズ ワン カントリー

Man is one : family. :

マン イズ ワン ファミリー

*Come and join us :

カム アン ジョイン アス

in our quest for unity.

イン アウア クエスト フォア ユニティ

It's the way of life for you and me.

イツ ザ ウエイ アブ ライフ フォア ユー アン ミー

せかい : は : ひとつのくに : sekai wa hitotsu no kuni

みんなが : かぞく : minna ga kazoku

みんなでいこう : minna de ikou

へいわ と あいをさがしに heiwa to ai o sagashi ni

これは へいわ の みち。 Kore wa heiwa no michi

C. 引用文の暗記

このレッスンのテーマと、子どもたちが暗記する引用文を紹介するときに以下の説明が助けになるでしょう。

神様は人類みんなが一つの家族として仲良く暮らすように創造されました。そうするためには、私たちの間に差別があってははいけません。どの宗教の人であっても、どの国や環境の人であっても、心からの愛と親切をもって交わらなければいけません。このことを忘れないために、みんなでバハオラの次の言葉を暗記しましょう。

しじょう 至上の親切と愛の精神をもって ばんにん まじ 万人と交わる者に祝福あれ。 ¹¹⁷

〈至上〉 = 「最高」 (☆: 英語にはない)

1. 純子ちゃんは明日のテストのために一所懸命、復習をしました。純子ちゃんは至上の努力をしました。
2. 美樹ちゃんは、できるだけやさしく弟に服を着せてあげました。美樹ちゃんは、至上の親切を示しました。

〈精神〉 (☆)

1. 純子ちゃんは、奉仕の精神をもって教室のお掃除をしました。
2. 晃君は、植物にも精神はあるのかなと考えながら、お水をやりました。

〈をもって〉 = …で (☆)

〈万人〉 = すべての人 (☆)

〈交わる〉

1. すずめ しらすぎ 雀と白鷺は草原に住む 2 種類の鳥です。この鳥たちはよくいっしょにいます。これらの二つの鳥は交わります。

2. お祈りの会でみんながお祈りをした後、みんなは一つの家族のように交わりました。

〈祝福〉(「祝福あれ」=「祝福があるように」) (☆)

1. 今年は天気がとてもよかったので、お米がたくさんとれました。私たちはいい天気に祝福されました。
2. 彼女はいつも弟と仲良く学校へ行きます。お母さんは、兄弟姉妹の仲が良いことは神さまの祝福、と言いました。

D. お話

みんなは、昔のお話から、アブドル・バハがアッカに到着された頃、たくさんの人がアブドル・バハにひどい仕打ちをしたということを知っているでしょう。彼らはバハイたちを冷たく扱い、話そうともしませんでした。でも、間もなく、アッカの人々はバハイが優しくて親切な人たちだとわかって、町の多くの人は、少しずつ、バハイに親切にし始めました。しかし、一部の人はまだ怒りと憎しみを抱いていました。

そんなある日、アブドル・バハに強い憎しみを抱いている男が、アブドル・バハの素晴らしさと優しさについて人々が褒めているのを耳にしました。その男はとても怒って、みんなの尊敬しているアブドル・バハはそんなに素晴らしい人物ではないことを見せてやると言いすてると、怒りに燃えながらその場を去って行きました。ちょうどその時間、アブドル・バハはモスクでお祈りをしているだろうと思ったその男は、みんなに愛されるアブドル・バハに暴力を加えてやろうと、そこに走って行きました。しかし、落ち着きと気高さを持ってその男を見たアブドル・バハは、たとえその人たちが自分と違っていても、すべてのお客さんみんなに寛大でなければならないという神の教えを、やさしく、彼に思い出させました。この時、その男は、アブドル・バハとバハイたちは、実際、自分の家であるアッカの町ではお客さんのようなものだ気がつきました。そして、自分は寛大なホストのように、バハイたちを優しく歓迎し、親切にしなければならないとわかったのです。

E. ゲーム: 隠された資質

子どもたちは両手をお椀のようにして前に出し、みんなで円になります。先生は、たとえば小石のような、小さなものを手に持って円の真ん中に立ちます。その小石は一つの資質——例えば、「親切」——を表します。先生は、たとえば、「ジョン君は親切」、「イザベラちゃんは親切」、「デービちゃんは親切」と言って、子どもたち一人一人の手にその小石を手渡す振りをして周り、どの子も自分がその小石をもらったかのように手を閉じます。しかし、実は、先生は一人の子だけにその小石を預けています。先生が全体を周り終わったら、子どもの一人が実際に小石を持っている子を当てようと、たとえば「ケンジ君はとても親切だ」と言います。すると、ケンジ君は手を開いて見せます。それを持っている子を当てるために一人の子は3度、試すことができます。それが終わったら、別の資質を使ってこのゲームを続けます。すべての子が、少なくとも一度は小石を持つ機会を与えられるようにしましょう。

F. むり絵 16

G. 終わりの祈り

レッスン17

A. お祈りの暗唱と暗記

次の4つのレッスンで、子どもたちは以下のお祈りを暗記することを学びます。毎回クラスのはじめに、あなたが覚えると決めた新しいお祈り、例えばセクション16で提案されている一つを唱えると子どもたちは勇気づけられるでしょう。あなたに続いて、数人の生徒たちがオープニングのお祈りをした後、いつもの方法でこれを紹介します。

おおわが神よ、あなたの御名は私の治癒^{ち ゆ}であります。あなたを思いまつ
ることは私の医薬であります。あなたのおそば近くにいることは私の望
みであり、あなたへの愛情は私の伴侶^{はんりょ}であります。あなたのご慈悲は私を
いやし、この世においても、来たるべき世においても私の救いでありま

す。まことに、あなたは御恵^{みめぐ}みにあふれる御方におわし、全知にしてすべてに賢き御方におわします。118

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Source of Courage

CHORUS:

Am
The source of courage and power
Dm E Am
Is the promotion of the Word of God
Am
The source of courage and power
Dm E Am
Is steadfastness in His love

G
Forget about yourself
C
Stand up for what is right
E7
Defend those in need
Am
Rely upon His might

Teach the Word of God
Be courageous in your deeds
Follow His path
To happiness it leads

CHORUS

C. 引用文の暗記

以下の説明は、このレッスンのテーマと、暗記する引用文を紹介するときに役立つでしょう。

勇気があるということは、それを行う人がたとえ私たちだけであっても、正しいことのために立ち向かい、たとえ私たちには嫌なことであっても、助けを必要とする人を守ること、また、たとえそれが私たちに困難をもたらすであろうと分かっているにもかかわらず真実を話すことです。困難な時に、落ち着きや気品をもって立ち向かうには勇気がいります。私たちは、神の愛と、他の何よりも神に喜んでもらいたいという願いから勇気を引き出します。どんな状況であれ、勇気を出して立ち向かうことができるように、次の引用文を暗記しましょう。

勇気と力の源^{みなもと}は、神の言葉を広め、神の愛に確固としていることである。¹¹⁹

<源>

1. ギョンミ君は谷間の村に住んでいます。近くの山の頂からでる湧き水が村の人たちの水の源です。
2. パッタズ夫人には三人の優しく、礼儀正しい子どもがいます。この子どもたちが彼女の喜びと幸せの源です。

<広める>

1. ショア君の友達の二人が口げんかをして、互いに相手に腹を立てていました。ショア君は二人が相手の言い分を理解するよう助け、仲直りさせました。ショア君はいつも、友達の間に平和と理解を広めます。
2. 看護師さんは、健康に良い食べ物について子どもたちに教えるため、クラスを訪問します。
3. 看護師さんは健康的な食事を広めます。

<確固とする>

1. プロミラちゃんはお医者さんになりたいので、学校で一所懸命勉強し、長年の苦労の後、目標を達成しました。彼女はお医者さんになるための努力において確固としていました。
2. ズヴァンダイさんは、新しい学校を作るのを助けるため、遠く離れた村へ行きました。家族と離れた寂しさや、たくさん問題はあったけど、彼は、先生になる人を育て、子どもたちの面倒をみるために確固として、長年、その村にとどまりました。

D. お話

アリ・アスカーはペルシャの商人でした。彼がバハイになったとき、信教に敵対する人によるとても苦い経験をしました。彼は、あっという間に財産のすべてを失いましたが落胆はしませんでした。母国では暮らしていけないと分かったので、隣国のアドリアノーブルという町に引っ越すことにしました。

アドリアノーブルで、ほとんど何もないまま、わずかな品物で商売を始めました。ところが、未だ何一つ売れていないときに、泥棒たちに全部盗まれてしまい、再び丸裸になってしまいました。

まもなくしてその泥棒たちは捕まり、彼らが多くの人たちから盗んだ莫大な品物が押収されました。現地の役人の一人はそれらの富に目がくらんで、独り占めしようとしてしました。彼は自分のオフィスにアリ・アスカーを呼んで説明しました。

「アリ・アスカーよ、この泥棒たちはとても金持ちだ。わしは政府への報告に、泥棒たちがお前から盗んだ額はとても多かったと書いた。だから、お前は法廷に立って、私が書いたことは真実だと証言しなければならない」。その役人は、この方法で、お金のすべてがアリ・アスカーに返されるようにし、後でそれらを二人で山分けすればよいと考えたのでした。

アリ・アスカーは、そのような計画に賛成することはできないとわかっていました。「お役人様、私が盗まれたものはほんの少しです。真実ではないことを報告することなどできません。もし、法廷で聞かれたら、私はありのままを言います。これは私の義務であり、これしか考えられません」と答えました。

役人はもう一度、アリ・アスカーを説得しようとしてしました。「アリ・アスカー、わしらには今、素晴らしいチャンスがあるんだ。お前とわしはその恩恵を受けることが出来る。こんな、一生に一度しかないようなチャンスを逃すようなことはするな!」

しかし、アリ・アスカーは再び拒否して言いました。「お役人様、私は神様になんとお答えすれば良いでしょう。私を放っておいてください。私は真実しか言いません」

すると役人は怒りだしました。もし、アリ・アスカーが役人の計画に賛成しなければ、彼の計画は台無しになって、せっかく掴んだ富を失うことになります。そこで役人はアリ・アスカーが恐れを抱いて協力することを期待して、「お前を牢にぶち込むぞ。この国から追放するぞ。わしは容赦しないぞ」と言って脅し、もし従わないならペルシャに送り返すとまで言いました。

アリ・アスカーはただ、ほほ笑んで言いました。「役人様、好きなようにしてください。私は正しいことに背を向けるつもりはありません」

E. ゲーム: 本当かうそか

子どもたちは大きな円を作り、あなたは円の中心に立ちます。それから、子どもたちは、あなたが今から言うことは正しいか、正しくないかを考え、正しければ「イエス(本当)」と言って、円の中に向かって跳び、間違っている時は「ノー(うそ)」と言って後ろに跳びます。あなたがここで言うことはすべて、子どもたちがこれまでのレッスンで学んだことに基づいていなければなりません。たとえば、「太陽は光を与える」とか、「木は種から成長する」、「山は高い」というようなことは、「イエス(本当)」と答えることの例です。その他、「セラちゃんは青色のシャツを着ています」というような、子どもたちが着ているものについてのこととか、「あそこにベンチが二つあります」というように、周囲に見えることについて言うこともできます。

「雨は下から降ってきます」とか、「魚は空を飛びます」、「石ころは歩くことができます」といったようなことは「ノー(うそ)」の例です。こちらも、周りのことで正しくないコメントを作ることができるでしょう。間違ったことよりも正しい内容のことをもっと多く述べることで、子どもたちが、ゲームの終わりに円の中の中心にいるあなたに近づけるようにすることが重要です。

F. むり絵 17

G. 終わりの祈り

レッスン18

A. お祈りの暗唱と暗記

始まりのお祈りの後、レッスン17で学び始めたお祈りを暗唱する練習をします。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Be Hopeful

 C F
The future we can never know
 G C
What will happen the next day
 C F
Yet bounties never cease to flow
 G C
Trust in God and make your way

CHORUS:

 F G
Be hopeful, be hopeful
 C F
And find God's bounties everywhere
 F
The sun will rise
 G
And fill the skies
 C F
Look up with expectant eyes
 F G C
Look to Him with hopeful eyes

Be ever hopeful, strive to grow
And winter will give way to spring
His bounties never cease to flow
They're bringing life to everything

CHORUS

Be a source of joy and peace
Serve and let the spirit glow
Remember bounties never cease
Be hopeful for tomorrow

CHORUS

C. 引用文の暗記

以下は、あなたが、このクラスで子どもたちに暗記するよう求める引用文を紹介するときに役立つ幾つかのアイデアです。

神様の愛はいつも私たちと共にあります。神様は私たちを一人にしないで、人生を通してずっと助けると約束してくださいました。私たちは、毎日、何が起きるか分からないけれど、いつも神様からの贈り物と恵みがあることを思い出して、神様を信じます。そして未来を考えると、神様からの限りのない祝福の分け前をもらえることを信じて、希望をもちます。希望に満ちた心をもって、神様の恵みが注がれることを常に期待します。希望をもつことの大切さを思い出すのを助けるために次のアブドル・バハの言葉を暗記しましょう。

汝、神への信頼を決して失うことなきように。常に希望を持て。何となれば、神の恩寵は決して途絶えることなく人間の上に注がれているからである。¹²⁰

<信頼>

1. エドワードは問題を抱えていて、ホン・ウェイさんに助けを求めました。エドワードはホン・ウェイさんが自分を助けるために力を尽くしてくれると知っていました。エドワードはホン・ウェイさんを信頼しています。
2. ニルマーラさんは家の屋根を修理したいのですが、一人ではできません。何人かの友達が彼女を助けるために明日来るよと約束してくれました。彼女は彼らが約束どおり来てくれると信頼し、準備を整えて待ちました。

<希望を持つ>

1. アイオセフィーナちゃんは日当たりの良いところに種を植え、毎日水をやりました。彼女はその種が育つのを心待ちしていました。彼女は、その種がいつか立派な木になることに希望をもっています。

2. アントニオ君の親友、マット君は別の町に引っ越しました。アントニオ君は友達が恋しかったのですが、すぐにまた会えるという希望をもっていました。

<恩寵>

1. リリアンちゃんは、毎晩お祈りするとき、自分が幸運にも持っているたくさんのものについて考えます。両親のことや、友だち、先生のこと、ゆっくり休める家があることなど、自分がもっている幸せについて考え、自分がいただいているたくさんの恩寵に感謝します。
2. レザ君には、彼を愛し、成長を助けてくれるたくさんの友だちや親戚があります。レザ君は、彼らの愛や援助の恩寵に感謝します。

<絶える>

1. ターヒェ君が水道の蛇口を閉めると水は止まります。水の流れが絶えるのです。
2. 曇りの日でも、太陽の光線は地上を温めます。太陽の光線は決して絶えることはありません。

D. お話

ロンドンのテムズ川の土手にホームレスの男が独りぼっちで住んでいました。彼はとても悲しくて、人生の幸せへの希望を全くなくしていました。ある日、彼はある店の前を歩いていて、新聞の写真が目にとまりました。それはアブドル・バハの顔でした。その男はその顔をじっと見つめて、凍りついたように立ち尽くしました。彼はこれまで一度もアブドル・バハを見たことはなく、それが誰かも知らなかったのですが、どうしてもその人に会わなくては、と思いました。新聞に家の住所が載っていたので、男はその人を見つけようと思って歩き始めました。その家はとても遠く、50キロ近くもありましたが、男は歩き続けました。

やっとたどり着いたときは、疲れ果てて、お腹が空いていました。その家の女主人は男を優しく招き入れて、食事を与え、しばらく休ませてくれました。休んでいる間、女主人にこれまでのいきさつを話し、アブドル・バハはここにいらっしゃるかとたずねました。女主人は、いらっしゃると答えました。

すると男は、「私のような者にでも会ってくださるでしょうか?」と、尋ねました。

もちろん、アブドル・バハは会ってくださるでしょう、と彼女が返事をしたでしょうどそのとき、アブドル・バハが入ってこられました。男が立ちあがると、アブドル・バハは彼に腕を差し伸ばしてあいさつをし、その様子は、まるでずっと会うことを待ち望んでいた古い友を迎えるかのようでした。アブドル・バハはその男を、愛と思いやりを持って歓迎し、自分のそばに座るよう勧められました。

アブドル・バハは、いつも、どうすれば人々の心に失われた喜びを取り戻すことができるかをご存知でした。そこで、その男に話し始められました。神の王国で男は豊かであるということを思い起こさせ、悲しみを追い払うよう励まされました。アブドル・バハが男に同情を示されると、その心地よい言葉は男の心を癒やし、力づけました。男の悲しみは少しずつ流れ去り、帰り際には、アブドル・バハに、もう貧しさで悲しまされないようにする、代わりに畑で仕事を見つけ、お金を貯めて少しばかりの土地を買い、すみれの花を育てて市場で売ることになると告げました。男は、神を信頼し、自分の努力が神に認められ、祝福されると信じることをアブドル・バハから学びました。彼の落胆は希望に変わりました。

E. ゲーム: 雨を降らせる人

子どもたちは先生の周りに輪になって立ちます。子どもたちに、長いこと雨の降らない砂漠にいて、雨乞いをしていると想像するよう言いましょう。先生は手のひらをすり合わせます。そうしながら、子どもたちの一人一人を見ると、彼らも同じ動作をします。こうして、子どもたち全員は、先生が新しい動作を見せるまで手のひらをすり合わせ続けます。新しい動作は、指をならす、手を叩く、ひざを叩く、足踏みをし、だんだん音を大きくする、など。最初の音は雨の降り始めを示し、だんだん雨足が強くなって行く感じで、ついには大嵐を思わせるような音にします。

F. ぬり絵 18

G. 終わりの祈り

レッスン19

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものようにお祈りでクラスを始めましょう。それから、レッスン17で暗記し始めたお祈りの暗記が進むよう助けます。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Busy Hands

CHORUS:

C F
Busy hands make happy children

C G
Happy children can be found

C F
Making other people happy

C F G C
Spreading peace and love around

C F
Working hands to build a new world

C G
Everybody has a role

C F
All of us can be so thankful

C F G C
For we soon shall reach our goal

CHORUS

God will help us build a new world
Where we all help someone else
All of us will love our neighbour
More than we love our own selves

CHORUS (*with last line repeated*)

C. 引用文の暗記

このレッスンで子どもたちは信頼性についての引用文を暗記します。このテーマの紹介として次のような説明を使うことができます。

神様の目に最高と認められる資質の一つに、信頼性があります。信頼される人は、誠実で正直です。その人の言葉と行いは一致します。言っていることと、することとが違ってはいけません。行いはいつも、言うことと同じでなければなりません。私たちが信頼される人であれば、周りの人たちは、私たちが責任をもって義務を果たすよう最善を尽くすと信用してくれます。このようにすると、誰もが自分の役割を果たすと分かり、仲良く働くことができます。信頼の重要性を忘れないようにするため、次の引用文を暗記しましょう。

信頼性は人々の平穏と安全につながる最大の^{もんこ}門戸である。 ¹²¹

<信頼性> (=信頼に値する、信頼できる)

1. アソス君は夕食の準備を手伝うとお母さんに約束しました。友だちが遊ぼうと誘いに来たけど、お母さんとの約束を思い出して、友だちにまた次の機会に遊ぼうと言いました。アソス君は信頼性という美徳を示しました。
2. スニタちゃんは、家族のためにお店に品物を取りに行きましたが、それらの支払いに要するだけのお金を持ってきませんでした。スニタちゃんは、不足分を翌日払いにすることができるかとお店の人に尋ねました。お店の人は、スニタちゃんは信頼できる人で、約束を守ると知っていたので、明日払えばいいと言いました。

<平穏>

1. エミリオ君は大事なことを決めなければならないときはいつも、静かに考え、瞑想できる場所を探します。エミリオ君は近くの静かな庭園に行きます。その平穏は、心と気持ちを落ち着かせてくれます。

2. 台風が去ると、通常、全てが静かになります。嵐の後は平和と平穏が戻ります。

<安全>

1. 動物の赤ちゃんが怖がっている時は、お母さんが赤ちゃんを守るために走ってきます。お母さんは赤ちゃんに安全を与えます。
2. ハイカーは山登りに出かけ、森の中で迷ってしまいました。その時、村からガイドたちが彼を探しにきました。ガイドたちが自分を見つけてくれた時、彼は、ガイドたちは安全に導いてくれると知って、安心しました。

D.お話

何年も前のこと、バハイ信教の初期の頃、バハイの数はほんのわずかで、数カ国に散らばっていました。彼らはたくさんの課題に直面し、しばしば聖地のアブドル・バハに知らせや質問を書きました。それらの手紙は、アブドル・バハに届くまでに長い道のりを通り、アブドル・バハは大きな愛と心遣いをもってそれら一つ一つにお返事されました。彼の励ましの言葉はバハイたちを強くし、彼らの心を元気づけました。ですから、この交流の流れが邪魔されないようにすることはとても大切なことでした。

当時、その地域にムハンマド・タキというバハイが住んでいました。彼はかなり前、まだ若いときにペルシャからやって来て小さな商売をしていました。次第に、彼はその揺るぎない信頼性で知られるようになり、聖地にいらっしゃるアブドル・バハへのお手紙と、外国へ送られたその返事は、ムハンマド・タキの家を通して行われるほどでした。皆が、彼は一つ一つの手紙を速やかに、安全に配達してくれると信頼していました。

しかし、それから、信教の敵がアブドル・バハに反対して立ち上がりました。敵は、人々がアブドル・バハに示す愛と尊敬に嫉妬しました。彼らは、アブドル・バハの追放か、それどころか、処刑を願っていました。スパイが彼の家のいたるところに張り付いていて、アブドル・バハは常に監視されていました。敵は、アブドル・バハと他国に住む献身的なバハイたちとの交信やつなかりを止めることができたらどれほど喜んだでしょう。さらに、当局を誤解させるような書類を盗むことができたらもっと喜んだことでしょう。

しかしながら、アブドル・バハを妨^{きまた}げることはできませんでした。しばしば、夜遅くまで、ランプの下で手紙を書いておられるアブドル・バハの姿が見られました。なぜなら、彼は手紙のやり取りの安全な手段を確保しておられたからです。彼はどうされたと思いますか？

もちろん、アブドル・バハは、敵がムハンマド・タキの行なっている仕事の重要性を認めていることをご存知でした。敵たちは、間違いなく、彼のところを経由する手紙を奪おうとするでしょう。そこで、アブドル・バハはムハンマド・タキを、危険のない、隣国の近くの場所へ送られました。そして、敵が疑わなかった人たちが、聖地からムハンマド・タキのところにすべての手紙を運びました。ムハンマド・タキは、その安全な地点から手紙を忠実に受取り、送り続け、アブドル・バハの信頼を揺るがすことはありませんでした。このように、最も困難な時でさえも、聖地との交信は決して断たれることなく、導きは最も遠い国のバハイたちにも途切れることなく届けられたのでした。

E. ゲーム: 案内人

子どもたちは二人一組になり、一人が目隠しをして、もう一方の子はその子の手をとって物につまずいたりしないよう、導きながら一緒に歩きます。さらにチャレンジして、例えば、木や溝、石やタイヤなどの障害物を置いて、それらをうまく避けるように導きます。お互いの信頼が築かれると、目隠しした子を言葉だけで導くようにします。この場合、ガイドはそばについていて、つまずいて転んだりすることのないようにします。別のやり方として、子ども達は全員目隠しをして、列車のようにつながり、子どもたちの1人、または先生がそれを導くというものもあります。

F. むり絵 19

G. 終わりの祈り

レッスン20

A. お祈りの暗唱と暗記

あなたと、数人の生徒たちが始まりのお祈りをした後、前の3つのレッスンで学習中のお祈りの復習をしましょう。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Kindling the Fire of God's Love

D
In my heart

A
There is a flame

G
That God has placed

D
A special flame

A
This is the fire

(continued on next page)

G
The fire

D
Of His love

CHORUS:

D A
I will pray
 I will pray (*echo voice*)

G
To God

A D A
To kindle in my heart
 To kindle in my heart (*echo voice*)

G
That flame

A D A
The fire of His love

G
And I will strive
A D
That its light illumines all hearts

Day by day
I will feed this flame
As I pray
And do good unto others

This flame will grow
As I pray
And serve mankind

And as this flame burns
As it grows
It will be felt
By all who come
Its way
It will bring warmth
To all
Who come its way

CHORUS

C. 引用文の暗記

このレッスンのテーマは燃え立つということです。以下の説明文は、あなたが、このテーマと暗記する引用文を紹介するときの助けになるでしょう。

すべての人は神を知り、神を愛するよう創造されていて、私たちは皆、神の愛のきらめきを心に持っています。この神の愛の炎がますます強くなるよう、毎日神に祈り、他の人々に奉仕することによって、それを育てることが重要です。この炎が心に一層赤々と燃えるとき、その温かさは私たちと行き交うすべての人に感じられるでしょう。そして、その人々の心にも、火が着くでしょう。私たちがそのように燃え立っているとき、私たちは燃えているろうそくのようになり、それは周囲の人々に光と温かさを与えずにはいられないでしょう。以下の引用文を暗記しましょう。

おお、人々よ、他の人々の心を燃え立たせることができるように、神の
愛の熱で燃え立ちなさい。 ¹²²

<燃え立たせる>

1. 部屋の中が寒かったので、アクセル君のお父さんは部屋を温めることにしました。お父さんはストーブに薪^{まき}を入れ、火をつけました。薪はすぐに燃え立ち、暖かくなりました。
2. 生徒たちは科学者から宇宙の働きについてたくさんの興味深い話を聞きました。講演の後、生徒たちは科学者にいろいろな質問をしました。その女性科学者は、生徒たちに、世界についてもっと知りたいという熱意を燃え立たせました。

D. お話

トーマス・ブレイクウェルは若くして、アメリカ南部の綿織工場で重要な地位についていました。1901年の夏、休暇でヨーロッパに行く途中、蒸気船で一人の婦人に会い、精神的なことについて話しました。パリに着くと、その婦人は自分の友人のアパートにブレイクウェル氏を案内しました。その友人も同様に、精神的なことに興味があることを彼女は知っていたからです。若い女性は彼らを歓迎し、三人はしばらく話をしました。その日の帰り際に、ブレイクウェル氏はもっとお話するためにまた会いにきても良いかと、その女主人にたずね、次の日の朝、また会うことになりました。

次の朝、その若い婦人は、ブレイクウェル氏の目が輝いていて、声は感動に満ちているのに気付きました。彼女は、腰かけるよう彼に勧めました。彼は彼女の方を一瞬じっと見つめてから、自分の不思議な経験を次のように話し始めました。昨日、あなたの家をお暇^{いとま}してから、蒸し暑い夕方の通りを一人歩きました。周囲では、葉の一枚すら動かぬほどでした。そのとき突然、強い風が吹き、神の新しいメッセージの嬉しい知らせをもたらしたかのようでした、と。

婦人は彼に落ち着くように言いました。というのも、彼女はブレイクウェル氏の言うそのメッセージを知っていたからです。次の三日間、何時間もかけて、彼女はバハイ信教について、その教えや歴史について、そして、それらの教えの完

壁なお手本であるアブドル・バハが聖地の牢獄都市アッカに住んでいることなど、知っていることすべてを彼に話しました。

三日目の終わりまでにはブレイクウェル氏の心は喜びと希望に満ち、アッカに行き、アブドル・バハに会うということ以外、何の望みもありませんでした。たまたま、もう一人の若者がこの全く同じ目的で聖地を訪れる計画を既にしていた、ブレイクウェル氏と一緒にいくことをとても喜びました。そこで、訪問の許可を求める手紙をアブドル・バハに送り、それからすぐに二人は出発しました。

二人がアブドル・バハの家に着いたとき、一つの部屋に通されました。そこには数人の男性が集まっていました。部屋を見まわしたとき、ブレイクウェル氏は途方にくれました。アブドル・バハがこれらの人々の中にいらっしゃるはずと思いながらも、そこには彼の心を惹きつける人はいなかったのです。彼は、自分にはパリで聞いたような、神々しい人を認めることができなかったのではないかと心配しました。彼はがっかりして、座りこみました。そのとき、ドアが開き、ブレイクウェル氏は顔を上げました。輝かしい光の中から、アブドル・バハの姿が現れるのを見ました。すぐに、ブレイクウェル氏は自分の願いがかなえられたことが分かりました。

ブレイクウェル氏はすばらしい2日間をアブドル・バハのもとで過ごしました。その間、彼の心に燃え立った炎はどんどん勢いを増しました。ブレイクウェル氏が、綿織工場での自分の仕事や、その工場で子どもが労働者として働いていることをアブドル・バハに話したとき、アブドル・バハはその仕事を辞めるようにと言われました。ブレイクウェル氏は、ためらいなくその助言に従いました。訪問が終わり、パリにもどりました。彼の精神は輝いていました。彼の短い生涯の残りの期間、彼は輝くろうそくのように燃え、出会うすべての人に心に燃える光を分かち合いました。彼が亡くなったとき、アブドル・バハは彼の栄誉をたたえて書簡を書かれました。それは次のような句を含むものでした。

「おお、ブレイクウェル、わが親愛なる者よ！汝は天上の集合のランプのなかに燃え、アブハの楽園に足を踏み入れ、祝福された木の影に避難所を見出し、天国の中の天国で彼との会合に達した」

E. ゲーム: 病人の介護

子どもの一人が病人役になります。二人の子が向かい合って、右手で相手の右腕を掴み、左手で左腕を掴んで椅子の形を作ります。子どもたちの大きさや能力に応じて、椅子の作り方を変えます。その場合、両方が自分の左手で右手首を掴み、右手で相手の左手首を握ります。他の子どもたちは病人の子がその椅子に座るのを手伝います。木か何かを「健康センター」として決めておき、椅子の二人はその病人をそこへ運びます。2列の子供たちは向かい合って、右手は相手の左腕を、左手は相手の右腕をつかんで担架たんかを作ります。大きいグループでは椅子の代わりに、互いに向かい合って二列に並んで担架を作ります。子どもたちは肘を曲げて、向かい側の相手の子どもの前腕を掴みます。それから、病人の子をその担架に寝かせて、「健康センター」へ運びます。「患者さん」を安全に健康センターまで運ぶために、皆が心を一つにして働かなければならないということを子どもたちに理解させるために、「もし、患者さんを落としたら、その患者さんは怪我をし、皆が悲しくなるでしょう。でも、患者さんをうまく運ぶことができたなら、私たちは友達を助けたので皆が嬉しくなるでしょう」と、言い聞かせます。

F. むり絵 20

G. 終わりの祈り

レッスン21

A. お祈りの暗唱と暗記

このレッスンと次の3つのレッスンで、セクション19で提案されているように、クラスの冒頭で暗記しているお祈りを暗唱します。あなたと、数人の子どもがオープニングのお祈りをした後、以下のお祈りを紹介します。これは子どもたちが1年目に暗記する最後のお祈りです。

おお、お優しい主よ。私は幼おさない子どもであります。御国に迎え入れることにより私を高め給え。世俗せぞくてき的な私を、天来てんらいの者となし給え。下界げかいに属する私を、天上てんじょうの領域りょういきに属するものとなし給え。消沈しょうちんした私を、輝かがやかしい者となし給え。物質ぶつしつ的な私を、精神しんせい的になし給え。そして、あなたの無限むげんのご恩恵おんけいを明らかにすることを私に許し給え。

あなたは力に満ち、愛情あふれる御方におわします。 ¹²³

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Radiance

E A
As we reflect the light that shines from above
B E
Our hearts will radiate with kindness and love
E A
As we are joyful, illumined and bright
B E
All those around will feel the warmth of His light

CHORUS:

E A
O Son! O Son of Being!
B E
Thou art My lamp and My light is in thee!

(continued on next page)

E A
O Son! O Son of Being!
B E
Thou art My lamp and My light is in thee!

The love of God never ceases to flow
As we arise to serve its brightness will grow
Don't hesitate! Just radiate! With all of your might
Till each and every heart is filled with His light

CHORUS *(with last line repeated)*

C. 引用文の暗記

このレッスンで子どもたちが暗記する、輝くことという資質に関する引用文は、次のように説明することができるでしょう。

神の愛の光は、私たちの心に光り続けます。この光が明るくなればなるほど、心は神の愛で輝きます。神の知識の光 ― 神の偉大さ、神の栄光についての知識 ― それは、私たちの目を明るくします。そして、私たちの寛大な行いと親切な言葉をとおして、愛と知識の光は輝き出ます。周りの人々は、私たちの喜びの輝きに感動します。輝くことという資質の重要性を忘れないようにするため、以下の引用文の暗記が役に立つでしょう。

おお実在の子よ！

^{なんじ}
汝はわがランプであり、わが光は汝のうちにある。汝それより汝の輝き^えを得よ。そしてわれ以外に何ものをも^{もと}求むるな。 ¹²⁴

<輝き>

1. ティレル君が目覚めた時、部屋はお日様の光でいっぱいでした。ティレル君は太陽の輝きに迎えられてうれしくなりました。
2. サントス夫人はみんなを自分の家族のように愛して、いつも誰にでも寛大で、優しく、みんなをお世話します。彼女の心の愛は彼女に会うすべての人々に感じられ、彼らに喜びをもたらします。皆が、彼女の輝きに感動させられます。

<得る> (☆: 英語にはない)

1. 牛乳は牛から得ることができます。
2. 知識を学校の先生と本、お父さんとお母さんなどから得る。

<求める>

1. ひなどりが卵から^{かえ}孵ると、おやどりはひなのために餌を探しに行きます。母鳥は餌を求めます。
2. 学校はすべての生徒を特別な遠足に招待しています。参加するには保護者の許可が必要です。子どもたちは、両親からの承認を求められます。

D. お話

ドロシー・ベイカーは少女のとき、光栄にもアブドル・バハに会うことができました。あなた方はこの女性について、いつか、もっと詳しく学ぶでしょう。ドロシーの祖母はアブドル・バハが西洋を旅されたとき、ドロシーを連れてアブドル・バハに会いに行ったのです。ドロシーがこれまで訪れたことのない、その家に着いたとき、たくさんの人々が集まっている部屋に通されました。彼らは、アブドル・バハのお話を待っている間、小さな声で行儀よくしゃべっていました。ドロシーと祖母が部屋に入ったとき、師は微笑んで、自分のそばに座るようにと少女をお招きになりました。彼女はそうしたいと思いつつも不安を感じながら、お部屋を横切りました。じっと床を見つめながら、他のお客さんたちの間を注意深く通り過ぎて、アブドル・バハの足元近くの足台にたどり着きました。

アブドル・バハが話し始められると、ドロシーは下を向いて自分の黒い靴を見つめていました。彼女は師を見る勇気がありませんでしたが、すぐにその怖れは消えました。彼女はアブドル・バハの愛に満ちた存在の温かさに引かれました。師の輝きは磁石のようでした。思わず、ドロシーは両手で頬を抱え、肘を膝について、アブドル・バハの方を向き、その輝かしいお顔を見つめていたのです。

ドロシーは、その日、アブドル・バハが何をお話されたかまったく思い出せませんでした。思い出すのは師の優しいお顔、彼の流れる調べのようなお声、彼の存在の暖かさだけでした。彼の優しい眼差しは、神の精神世界について彼女に話しているようでした。やがて、彼女の心に灯された神の愛はとても強く、ついに彼女はアブドル・バハに手紙を書く決心をしました。彼女は、師と、師のお父様、バハオラの大業に仕えることを許して欲しいと求めました。彼女への師の返事で、アブドル・バハは彼女の目標を褒め、神の恩恵を保証し、彼女の希望がかなうよう望んでいると言われました。そして、実際に、ドロシーは神と人類に仕えることにその生涯を捧げたのです。

E. ゲーム: 同じように動く

子どもたちは二人一組になり、互いに向き合います。一人の子が簡単な動きをすると相手の子が鏡に映ったようにその動きをします。2、3分したら、役柄を入れ替えます。顔の表情を真似するこ

ともできるでしょう。次に、各ペアの一人がもう一人の後ろに立ち、前の子が動くとき後ろの子がその影となって動きます。

F. むり絵 21

G. 終わりの祈り

レッスン22

A. お祈りの暗唱と暗記

冒頭のお祈りの後、子どもたちは前回のレッスンで紹介されたお祈りを暗記します。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「幸せになりたい」

(『ブック3 子どもクラスの歌』CD、13番)

知らなければならぬこと

この教えで示すこと言葉でなく行いで

友にも敵にも教えで示す

私はなりたい幸せに強く

私はなりたい神のしもべに

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

知らなければならぬこと

この世は華やかな見世物

人は口先だけに疲れ

あなたが実践すること望んでる

私はなりたい 幸せに 強く

私はなりたい神のしもべに

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

私は神の決まり守る

C. 引用文の暗記

子どもたちはこのレッスンで、忠実というテーマに焦点を当てた次の引用文を暗記します。これを説明する時、以下のアイディアは役に立つでしょう。

忠実な魂は、神が与えてくださったすべての恵みを決して忘れず、いつも神を愛します。どんなときでも、たとえそれが難しい時であっても、神の教えとその法に従うよう最善を尽くすのは、神への忠実からです。神に喜んでもらえることだけを考えて、他の人に奉仕し、価値のある行いをするよう、一所懸命頑張るのです。忠実な魂には、神に喜んでもらえるよう努力するのが一番の喜びです。次のバハオラの引用文を暗記しましょう。

おお どりよく せいそう たいぎょう ほうし
大いなる努力という衣服で盛装し、この大業へ奉仕するために立ち上
ちゅうじつ さいわ
った忠実なる者は幸いなり。 ¹²⁵

<努力>

1. 生徒たちは学校の周りに木を植えることにしました。共同体は、生徒たちの努力を助けるために、苗と土を用意しました。
2. ピエール君とアーリンちゃんは、一人で暮らしているおばあちゃんのお見舞いに行くことにしました。バスに乗るとお見舞いのお花を買うお金が足りなくなるので、歩いて行くことにしました。二人の努力は、おばあちゃんを喜ばせました。

<衣服>

1. ある国では、裁判官は法廷で、白髪のカツラと黒の長い礼服を着なければなりません。彼らは裁判官としての衣服を着なければならないのです。
2. 王子様は、宮殿を出る前に、飾り帯と冠^{かんむり}を身につけます。王子様は高貴な衣服を着ます。
3. ヤーコブ君は、毎日、家を出る前にお祈りをします。お祈りは彼の魂が着る衣服のようなものです。それらの衣服は一日中、ヤーコブ君を強くして、守ります。

<盛装する>

1. マエちゃんは特別な時にしか着ないドレスがあります。共同体の集まりで、そのドレスを着て盛装しました。
2. ナタリアちゃんは誰に対しても親切です。神様は彼女の魂を親切という衣服で盛装しました。

<忠実> (☆: 英語にはない)

1. クラスの掃除当番は、校庭もきちんと掃除をしてきれいにしました。当番の子どもたちは決められたことを忠実に実行しました。
2. ジョン君と友達ジョージ君はいつも助け合いました。他の友達がジョン君を無視した時も、ジョージ君は親切にしました。ジョージ君は忠実な友達でした。

<幸いなり>= 幸せである。恵まれている (☆)

D. お話

アブドル・バハが少年だったころ、ペルシャの貴族であった彼の家には、イスファンディアという名の召使いがいました。彼は師の家族にとっても忠実で、みんなは彼をとっても信頼していました。嫉妬や無知に駆られた政府当局が、師の愛するお父上バハオラを逮捕したとき、家族の所有していたものは全て没収されました。バハオラに近い人たちはみんな危険にさらされました。それでも、イスファンディアはバハオラの家族のお世話をし続けました。たくさんの役人がイスファ

ンディアを捜しているのを知って、アブドル・バハのお母さんは、彼に町を出るよう勧めましたが、イスファンディアは去ろうとはしませんでした。

彼は、いろいろな買い物をし、たくさんの店に借金があるので、「どこへも行けない」と説明しました。「借金があるのにどうして去ることができるでしょうか?」と言うのです。そして、「みんなが言うでしょう、バハオラの召使いがいろいろなものを買って、支払いを済ませていないと。ですから、私は全部の支払いを済ませるまではどこへも行けません。もし、彼らが私を捕まえても仕方ありません。罰を与えられても気にすることはありません。私が殺されても悲しまないでください。でも、逃げることはできません。借金の支払いが済むまでここに残ります」

一か月間、イスファンディアは通りや市場を廻りながら、自分の持っていたものを売りました。彼が借金をすべて払い終わったとき、アブドル・バハの家族のところに行って、お別れを言いました。彼はもうそれ以上そこにとどまることはできないと分かっていたからです。ある大臣が彼を引き取り、危険な期間、彼を保護することを同意してくれました。

何カ月かして、バハオラは牢から出され、政府当局によって、ご家族と共にペルシャから追放されました。彼らは隣国の都市、バクダッドへ行きました。バハオラに忠実なイスファンディアは、もう一度バハオラに仕えさせてもらうようお願いするためにバクダッドまでやって来ました。バハオラは彼におっしゃいました。「お前が私たちのところを去って、だれもお前を守ることができなかった時、ペルシャの大臣があなたを助けてくれたではないか。彼はお前に避難所を与え、守ってくれたのだから、彼に忠実でなければならない。もしその大臣がお前の出て行くことに賛成なら、そのときは私たちのところへ来なさい。でも、彼がお前を行かせたくないならそれに従いなさい」

もちろん、イスファンディアはとても正直で、信頼でき、忠実な人だったので、その大臣は彼を手放したくありませんでした。「ああ、イスファンディアよ!」と、声を上げて言いました。「まだ、あなたに行って欲しくないんだ。あなたが行きたいなら仕方がないが」。しかし、イスファンディアはバハオラの言葉を思い出しました。それで、イスファンディアは大臣のところに残ることにし、

それから、しばらくしてその大臣が亡くなるまでそこで仕えました。その後、再び愛するバハオラのご家族の元に戻り、亡くなるまでアブドル・バハに仕えました。

E. ゲーム: 誰がドアをノックしているのか?

一人の子どもが目隠しをして他の全員を背にしてベンチに座ります。その子どもたちの一人が目隠しをしているこの所に来て、ベンチをノックします。目隠しをしている子は、「誰が私のドアをノックしているの?」と尋ねると、ノックした子は「それは私!」と、声を変えて言います。目隠しをしている子はそれが誰かを当てます。3回まで試すことができます。その後、目隠しを別の子に変わってゲームを続けます。目隠しをしている子が一所懸命に聞いている時、他の子は静かにしていなければならないと子どもたちに注意しておくのが良いでしょう。

F. むり絵 22

G. 終わりの祈り

レッスン23

A. お祈りの暗唱と暗記

お祈りをしてクラスを始め、レッスン21で学習し始めたお祈りの暗記を続けるよう助けます。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

「忍耐」

(『一つの海の波』CD、8 番)

足がつかれてきた でも道は長い

もう歩くのはやめようか 太陽かんかん照り

あきらめるのは早い 泣いたって無駄

一歩ずつ進めば あっという間さ

＊(繰り返しの部分)

忍耐するのが一番 愚痴いっても だめ

忍耐は報われる

弟は わからない 何度 説明しても
もう一度やってみようか でもうまくいかな
あきらめるのは早い 怒っても無駄
丁寧に説明したら わかってくれるさ
(半音上げる)

もっとうまくなりたい でもうまくいかない 努力したって無駄
どこに行きつくの
あきらめるのは早い 手を抜くなんて だめ
努力を続けていけば きっと成功する

＊(繰り返しの部分) X 2 回
幸せがくる

C. 引用文の暗記

今日のレッスンで、子どもたちは忍耐についての引用文を暗記します。これは次のように説明することができます。

忍耐は、私たちのもつ最も重要な資質の一つです。忍耐がなければ、人生でほとんど何も達成できません。勉強で、仕事で、家族の中で、他の人との友情で、精神的成長のための努力で、忍耐が必要です。人生はすぐにできることばかりではありません。たくさんのは、毎日、少しずつしか進みません。忍耐するということは、時間のかかることを急いでしようとしなないということです。私たちはみんな学びながら成長しているのですから、他の人に対しても、自分自身に対しても忍耐が必要です。忍耐を身につけるための努力において、次の引用文の暗記が助けになるでしょう。

まこと にんたいづよ た ほうしゅう ま たも
誠に、神は忍耐強く耐えるものの報酬をいや増し給う。 126

<忍耐> (☆: 英語にはない)

1. まみちゃんは鉄棒の逆上がりができなかったが、何度も練習して逆上がりができるようになりました。まみちゃんは、忍耐強く練習したので、ついに逆上がりができるようになりました。
2. アンナちゃんはお腹がすいていましたが、おやつはもう食べたし、もうすぐ晩御飯だったので、宿題をしながら忍耐強く夕食を待ちました。

<耐える>

1. アリヤちゃんの家族は遠いところへ引っ越しました。最初の2、3ヶ月はいろいろ大変でしたが、近所の人たちが親切にも手伝ってくれたので、それらの困難に耐えることができました。今は、新しいお家でとても幸せです。
2. ヒュー君は病気でひどい痛みを苦しみましたが、少しも文句を言いませんでした。彼は忍耐強く痛みを耐えました。

<報酬>

1. アンダーソン先生は、クラスの生徒たちが準備した素晴らしい科学プロジェクトにとても満足したので、報酬として生徒たちを近くの水族館へ連れて行きました。
2. アレナちゃんはギターの弾き方を学ぶために、毎日練習しました。そして、弟に美しい歌を弾いてあげた時、弟が喜んでくれたことは彼女の努力に対する十分な報酬でした。

<いや増す> (=もっと多くなる) (☆)

1. お正月前に花屋さんは忙しくなったので、ナオちゃんはもっと長い時間お手伝いをするようになりましたが、お母さんたちが喜んでくれたので、彼女の幸せはいや増しました。
2. 農家は今年、いつもより稲を多く植えたので、秋にはお米の収穫がいや増しました。

D. お話

リ・シン君は桃が大好きでした。毎日、桃を一つ学校に持って行って、昼休みにそれを食べました。一口ごとにそれを楽しんだのですが、いつも種の入っている核^{かく}を捨てていました。

ある日、リ・シン君のクラスは種について学びました。そして、リ・シン君にある考えが浮かびました。桃の種を植えて、木を育てようと思ったのです。昼休みに桃の核を捨てないで紙に包み、学校が終わって走って家に帰りました。リ・シン君はお父さんに、桃の木を育てる場所を捜すのを手伝って欲しいと頼みました。お父さんは、種を取り出すにはまず核を乾さなければならないと言いました。でも、リ・シン君はすぐに核を植えたいと思いました。お父さんは、「リ・シン、核が乾くまでがまんできないなら、どうやって種が芽を出すまで忍耐できるのかね?」と言いました。これを聞いたリ・シン君は核を乾かすことにしました。

2、3日して、リ・シン君はついに核を割って種を取り出すことができました。お母さんが、庭に桃の木が大きく高く成長できるような場所を見つけてくれました。リ・シン君は小さな穴を掘って種を入れて、湿った土をかぶせました。彼は興奮して目を輝かせました。ついに彼の木が育ち始めたのです。

リ・シン君は、種から芽が出るしるしを見ようと、毎日、種を植えたところにやって来ました。でも、何週間も芽が出る様子がありませんでした。リ・シン君はがっかりしてきました。お母さんは彼ががっかりしていることに気づき、どうしたのかとたずねました。リ・シン君は「種が育っていないんだ。ほんとに木が育つか心配なんだ」と言いました。お母さんは、「あのね、この種は成長するためにすることがいっぱいあるのよ。ちょうどあなたのようにね。あなたが生まれたときは、とても小さくて、ただ食べて寝てばかりだったのよ。それが今はどうでしょう! 少年になって、歩いたり、しゃべったり、自分で考えたりするでしょう! この木だって育つのに何年もかかるかもしれないのよ。もしあなたがしっかり世話をすれば、いつかこの木の陰に座って、その実を食べることができるときが来るんじゃないかしら」。リ・シン君は、お母さんが言ったことを考えて、再び希望が湧いてきました。彼は、種は芽を出すまでにたくさん変化すると、学校で学んだことを思い出しました。

そして、ある春の日、リ・シン君はいつものように種を植えた場所にやって来て、地面から小さな緑の芽が出ているのを見ました。彼はとても興奮しました！ 僕の木が育っている！ 彼はお隣のお百姓さんのところに走って行って、そのすごいニュースを知らせました。彼女は、木が若くて傷つきやすいとき、どのように世話をしたら良いか、リ・シン君に教えてくれました。リ・シン君は、木を育てるために、彼女の助言の一言一言に耳を傾けました。「お婆さんの助言へのお礼の桃が、もうすぐたくさんできます」と、リ・シン君が言うと、お婆さんはただ微笑んで言いました。「リ・シン君、憶えている？ 核が乾くまであなたはじっと我慢しなきゃならなかったってことを」。リ・シン君はうなずきました。「それに、その種が芽を出すまではもっと我慢したでしょう？」 リ・シン君はそのことも思い出しました。「苗木が木になるまでもっと長くかかるだろうし、それが実を結ぶまでも同じね。そして、あなたが楽しみにしている桃が実るまでには何年もかかるでしょう」。

リ・シン君は芽から苗木、苗木から木に育つまで、桃を優しく世話しました。木はリ・シン君と同じように少しずつ、高く大きく成長していきました。そしてある日、リ・シン君が学校から帰ってくると、ちょっと前には花だった木に桃がなっていました。種から芽が出始めたときと同じように、もう一度喜びでいっぱいになりました。でも、桃の実が熟して食べられるようになるまでには、まだまだ忍耐しなければならないと知っていました。

E. ゲーム:「最初の子は誰？」

一人の子が目隠しをして、みんなに背を向けます。次に、先生は「最初になる子」を黙って指を差して指定します。目隠しの子がみんなの方を向く前に、「最初になる子」のすることを真似る練習をするよう子ども達を助けます。たとえば、「最初になる子」が手を叩けば、みんながそれを真似します。そうして、目隠しの子は目隠しを外し、注意深く見回して、誰が「最初になる子」なのか捜し出します。そのとき、真似している子たちは誰が「最初になる子」なのか気付かれないよう、その子をじっと見たり、何度も見たりしないよう努力します。

F. むり絵 23

G. 終わりの祈り

レッスン24

A. お祈りの暗唱と暗記

いつものように、お祈りでクラスを始め、3回前のクラスから暗記し始めたお祈りの復習をします。

B. 歌(前に習った歌の復習を含む)

Firm in the Love of God

G C
We walk, we walk

D G
We walk the path of God

G C
We're firm, we're firm

D G
Firm in our love of God

G C
We walk the path of God

D G
When troubles come our way

G C
We're firm in our love of God

D G
And on His path we stay

We serve, we serve

We serve the Cause of God

We're firm, we're firm

Firm in our love of God

We serve the Cause of God

Always doing our part

We're firm in our love of God

And serve with a joyful heart

We stand, we stand

We stand, hearts turned towards God

(continued on next page)

We're firm, we're firm
Firm in our love of God
We stand, hearts turned towards God
Never doubting His aid
We're firm in our love of God
And all our sorrows fade

C. 引用文の暗記

この最後のレッスンは確固不動というテーマに焦点を当てています。ここで、子どもたちが暗記しようとする引用文について、次のように説明すると良いでしょう。

神を心から愛する人の一番大切な資質の一つは確固不動です。人生でどんなことがあろうとも、私たちはいつも神さまのこと、そして神様を愛することを思い起こします。ですから、誰かが私たちに対して言うことや、されることで私たちの信仰が揺らぐことはありません。私たちは神を愛し、神様の法と教えに従います。確固不動であることの大切さを忘れないようにするため、次のバハオラの引用文を暗記しましょう。

^{なんじ} 汝の主の大業に^{かっこふどう} 確固不動であり続けるならば、^{すうこう} 汝の地位は最高に崇高な
ものとなろう。 ¹²⁷

< 確固不動 >

1. 友だちは、星は空にちりばめられた白く光る点だとローズマリーちゃんに言い続けています。でも、ローズマリーちゃんは、どの星も本当は遠くの天体だと学校で習いました。ローズマリーちゃんはこの考えを変えません。彼女は真実だと思うことに確固不動です。
2. 誰かが、毎日お祈りをすることは大事なことでないと、モナちゃんに言いました。でも、彼女は、お祈りするということは神様の教えだと知っていたのでお祈りをします。モナちゃんはお祈りするという教えに確固不動です。

< 地位 > (☆: 英語にはない)

1. 学校で一番地位が高いのは校長先生です。
2. 私たちの地位の高さは、どれだけ美德を実行しているかによって決まると、先生は言いました。
3. 鉱物、植物、動物、人間の中で最も高い地位にあるのは人間です。

<最高に>

1. その庭園はこれまでにザビエちゃんがみたことのある庭園よりも美しいです。ザビエちゃん
はこれ以上の最高に美しい庭園を想像することはできません。
2. ケレスト君のお母さんは家族のために特別なケーキを作りました。みんな大喜びでそれを
食べ、最高においしかったと言いました。

<崇高>

1. マーサちゃんは、毎晩寝る前にお祈りをします。眠りに着くとき、崇高な精神になっていま
す。
2. クマール君は世界平和と人間のすばらしさについて話しました。クマール君は崇高な考え
について話しました。

D. お話

みなさんはもう、バヒヤ・カヌーンがアブドル・バハの妹だと知っていると思
います。バヒヤ・カヌーンは愛するお父さま、バハオラが不当な政府に逮捕さ
れ、牢に送られたとき、たった6才でした。彼女の家族はとても裕福でしたが、お
父様の逮捕で全財産を没収されました。土地も、家も、家具やその他すべてが取
り上げられたのです。家族はほとんど無一文で、食べるものもない状態で追い出
されたのです。バヒヤ・カヌーンや彼女の愛するお兄さま、アブドル・バハはお
腹が空いていても、パンはなく、彼らのお母さんは食事の代わりに、ほんの一握
りの小麦粉を彼らの手のひらに注いでくれるだけでした。

お父さまがやっと牢から解放されると、政府は強制的に彼を故郷から追放しま
した。バヒヤ・カヌーンと家族は、冬の厳しい寒さの中、隣国のバクダッドとい
う町へ旅立ちました。その都市へ行くためには雪に覆われた巨大な山々を通らな
ければなりませんでした。旅はとても危険で、彼らの持っていた物資は十分では
ありませんでした。彼らの衣服は、寒さや雪を凌ぐには全く足りませんでした。
彼らは、ほんの数頭のラバの助けを借りて、山の高い峰に沿ってゆっくりと進み
ました。時々、まったくの荒野で夜、野営しなければなりませんでした。でも、
神様は彼らを守ってくださいました。そして、神の尽きることのない助けて、彼

らは三ヶ月後に、無事、バグダッドに到着しました。バヒヤ・カヌーンはその後、二度と生まれ故郷に帰ることはありませんでした。

バヒヤ・カヌーンは、残りの人生を、お父さまの苦難と流刑を共に経験されました。やがて、政府はバハオラをアッカの牢獄へと追放したため、彼女とその家族はその最も望ましくない犯罪者たちの間で暮らすことになりました。彼女が心より愛したお父さまがお亡くなりになった時、バヒヤ・カヌーンは愛するお兄さま、アブドル・バハ、お父上の信教の長として任命されたアブドル・バハを真心込めて支えました。そして何年も後に、アブドル・バハもまた次の世へ旅立たれた時、バヒヤ・カヌーンは、アブドル・バハの孫であり、アブドル・バハによってこの信教の守護者に指名された、若きショージ・エフェンディの最大の支持者、最も強固な擁護者となりました。

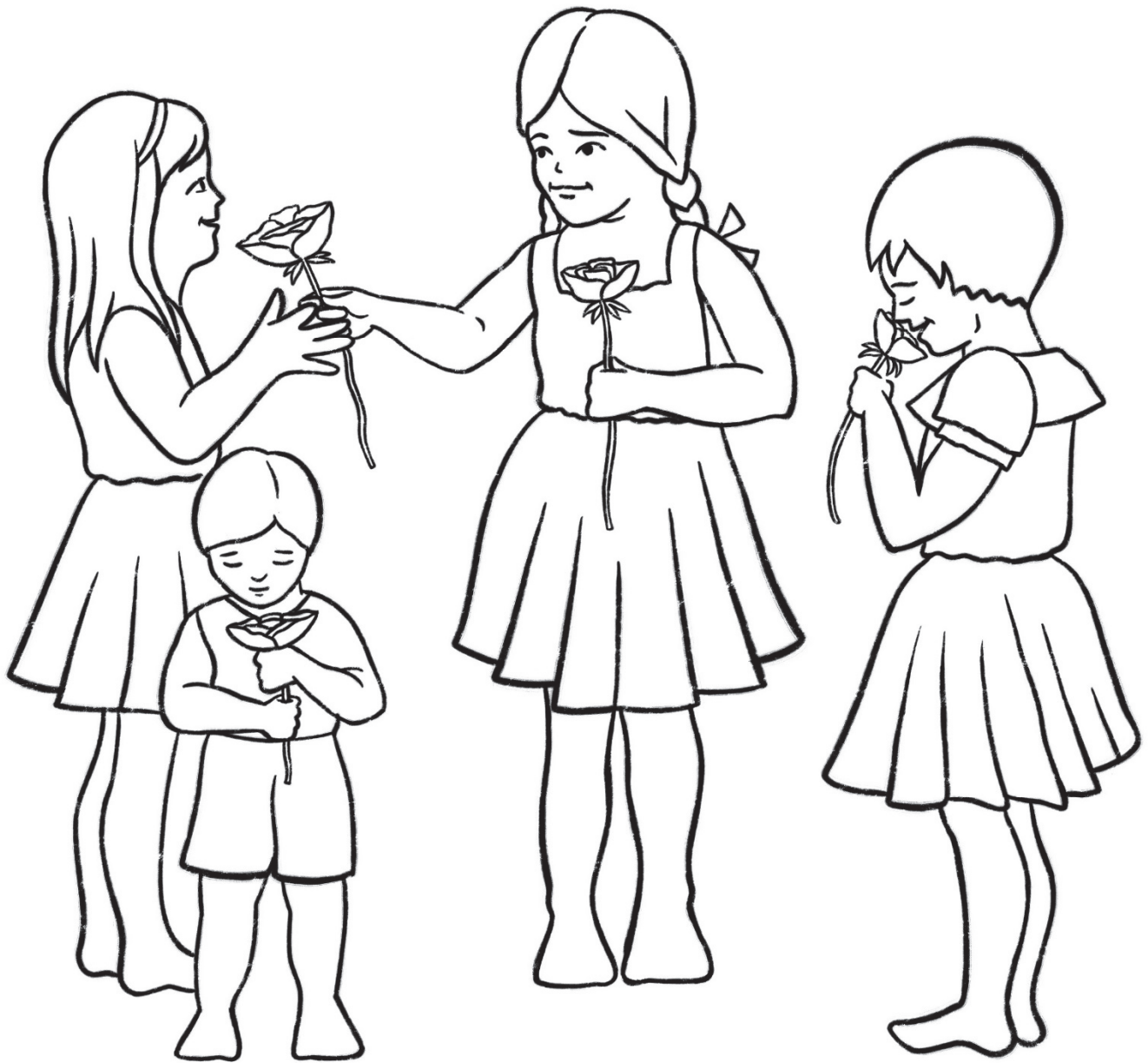
バヒヤ・カヌーンは今やお年です。彼女の人生は苦悩と激動に満ちていました。それは苦労や災難の連続でした。でも、彼女の精神に変わりはなく、彼女の心はいつも神への愛に満ちていました。彼女は人生の最後の日まで不動で、しっかりしていました。

E. ゲーム: 手助け

子どもたちは二人一組になり、互いに相手と手をつなぎます。最初はペアで周囲を歩き回ります。小さな一歩から始めて、だんだんと大きな一歩にします。各ペアは誰にもぶつからないよう気をつけます。次に、ペアの片方は目を閉じて歩く練習をします。この状態で誰にもぶつからないようにするため、目を開けている一方は友だちを案内する必要があります。言葉は使わないで触るだけで合図しなければなりません。始める前に先生は、子どもたちが、たとえば、手を一度だけ握りしめたら、「止まる」、二度握りしめたら、「後ろに下がる」、三度は、「右に向く」、四度は、「左に向く」といったような合図を工夫するのを助けましょう。

F. むり絵 24

G. 終わりの祈り



お^{しんれい}心^{しんれい}霊^{れい}の子^こよ！わが^{ちゅうげん}第^{だい}一^{いつ}の忠^{ちゅう}言^{げん}は^はこ^これ^れで^であ^ある^る。
す^{じゅんすい}な^やわ^かち^が、純^{じゅん}粋^{すい}に^にし^して^て優^{やさ}しく^く、ま^{かがや}た^が輝^きかし^しき^き心^こを^を持^もて^て。



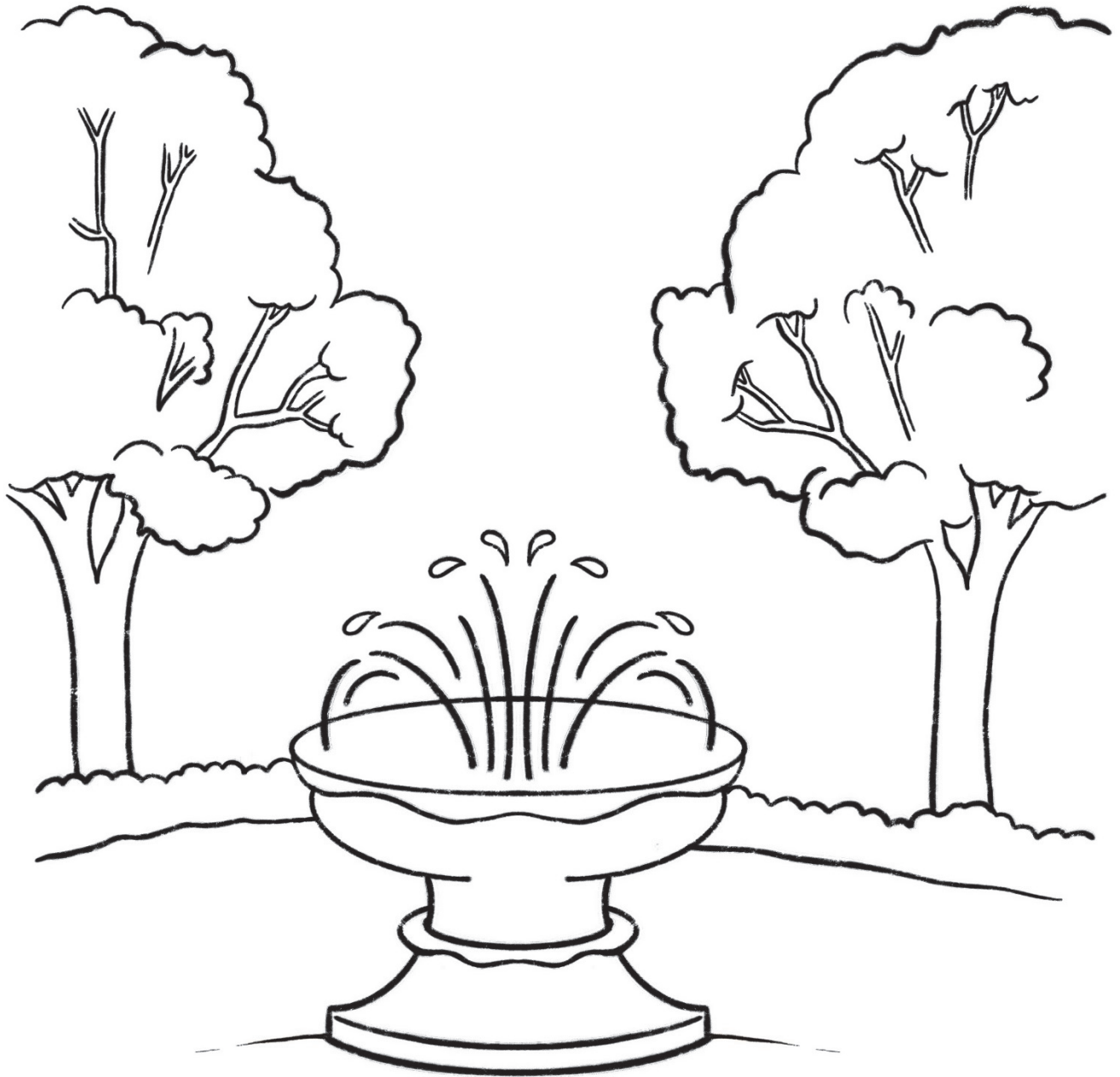
せいぎ みち まこと
正義の道を歩みなさい。誠にそれはまっすぐな道である。



おお、友よ！ 汝の心の花園に愛のバラのみを植えよ。



せいじつ びとく きそ
誠実であることは、すべての美德の基礎である。



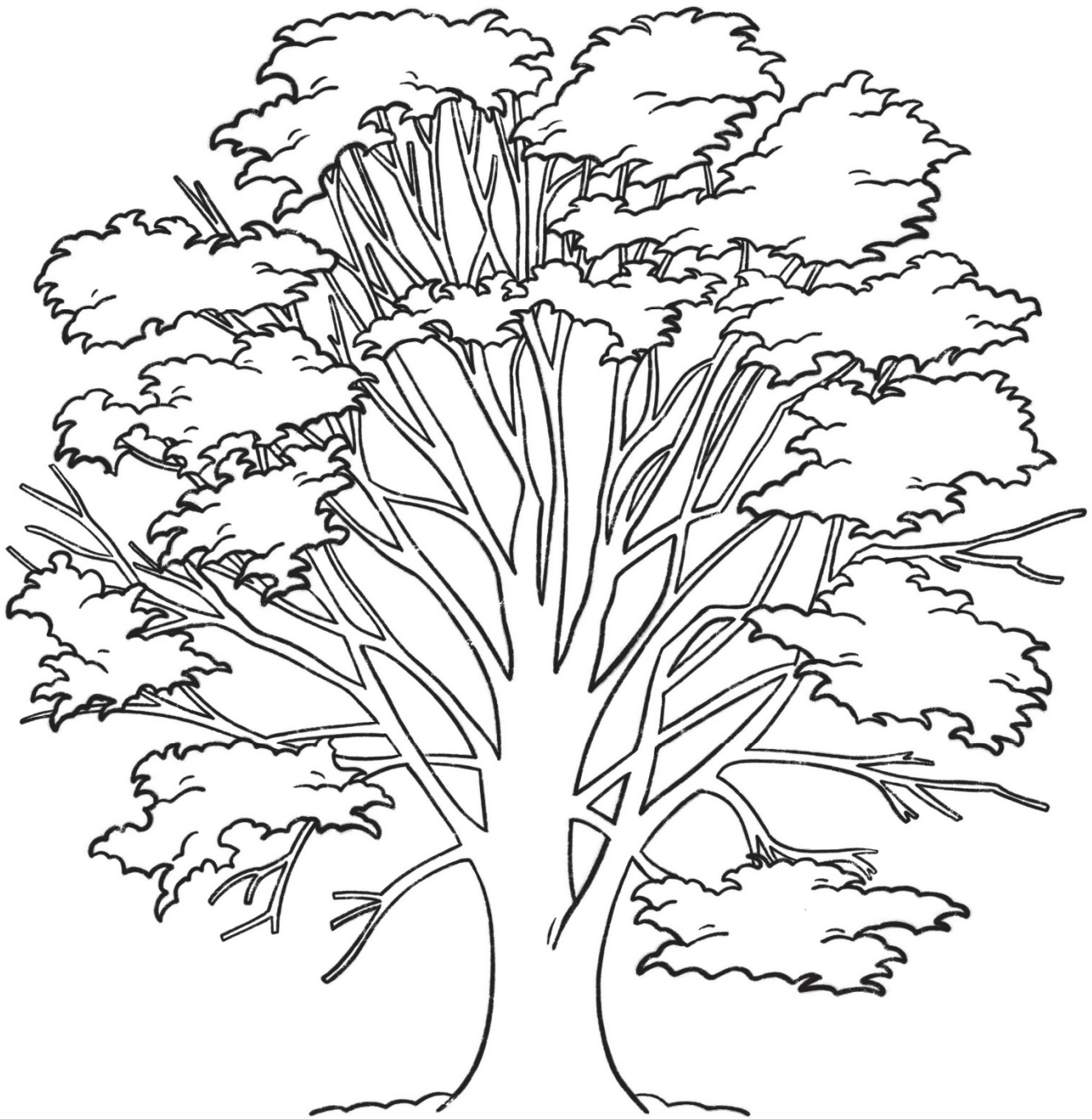
せよ かんだい ぞくせい
施与と寛大とはわが属性である。
びとく じこ かざ さいわ
わが美德をもって自己を飾る者は幸いである。



おのれ どうほう この さいわ
己よりも同胞の方を好む者は幸いである。



おお人の子よ！^{なんじ} 汝われに会い、
^び わが美を反映するに^{はんえい} 相応しくなれるよう^{ふさわ} 汝の心に^{よろこ} 喜びを持て。



私たちは、どんな時でも誠実と誠意を表さなければなりません…。



おお人の子よ！わが前にへりくだれ。さればわれ^{なんじ}汝^{めぐ}を恵み深く^{ぶか}訪^とわん。



しあわ 幸せでありなさい。かんしゃ 感謝しなさい。かみ 神に感謝するために立ち上がれば、
その感謝の気持ちはさらなるめぐみをもたらすでしょう。



ゆる　じ　ひ　ちようあい
許しと慈悲、そして、神の寵愛を受ける者の
心に喜びをもたらすものをもって自身じしんの飾りかざとせよ。



おお人々よ。正直しょうじきをもって自らの口を美しくせよ。真実しんじつをもって魂たましいを飾る装飾そうしょくとせよ。



神の王国は、^{びょうどう}平等と^{せいぎ}正義、すべての人に対する^{じひ}慈悲、思いやり、親切の^{つく}うえに創られる。



なんじ しん かざ
汝の真の飾りは、
とら
神への愛と、神以外のすべてのものに囚われないことにあることを知りなさい…。



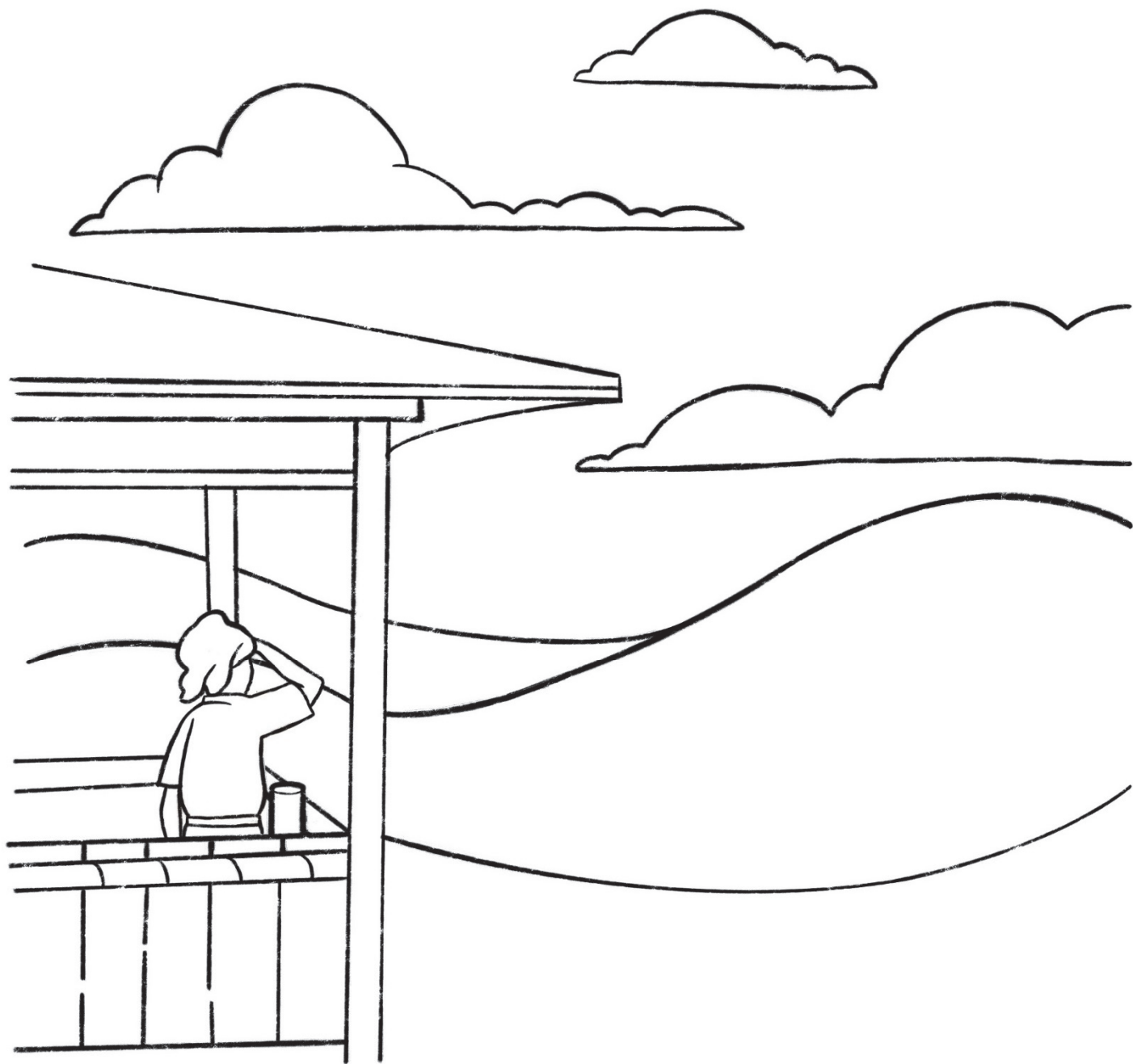
えいこう みなもと
栄光の源とは、
かみ さず たも 神が授け給うものをすべて受け入れ、
さだ 神が定め給うことにまんぞく満足することである。



しじょう しんせつ あい せいしん ばんにん まじ しゆくふく
至上の親切と愛の精神をもって万人と交わる者に祝福あれ。



ゆうき　ちから　みなもと　かみ　ことば　あい　かつこ
勇気と力の源は、神の言葉を広め、神の愛に確固としていることである。



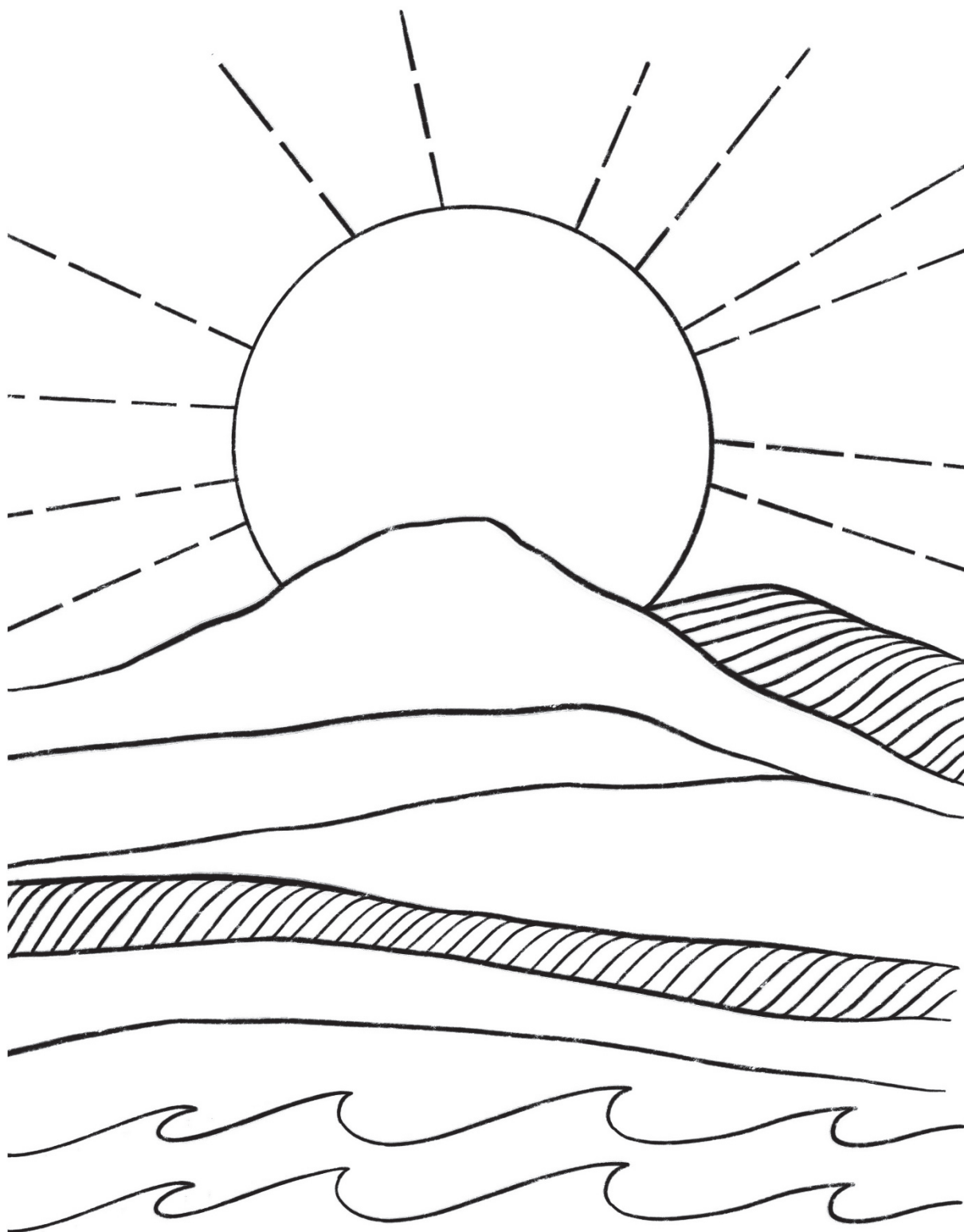
なんじ かみ しんらい けつ うしな つね きぼう
汝、神への信頼を決して失うことなきように。常に希望を持て。
なん おんちよう と だ そそ
何となれば、神の恩寵は決して途絶えることなく人間の上に注がれているからである。



しんらいせい へいおん あんぜん さいだい もんこ
信頼性は人々の平穏と安全につながる最大の門戸である。



ひとびと
おお、人々よ、
他の人々の心こころを燃え立たせることができるように、神の愛あいの熱ねつで燃え立ちなさい。



じつざい
おお実在の子よ！

なんじ 汝はわがランプであり、わが^{ひかり}光は汝のうちにある。汝それより汝の^{かがや}輝きを得よ。^え

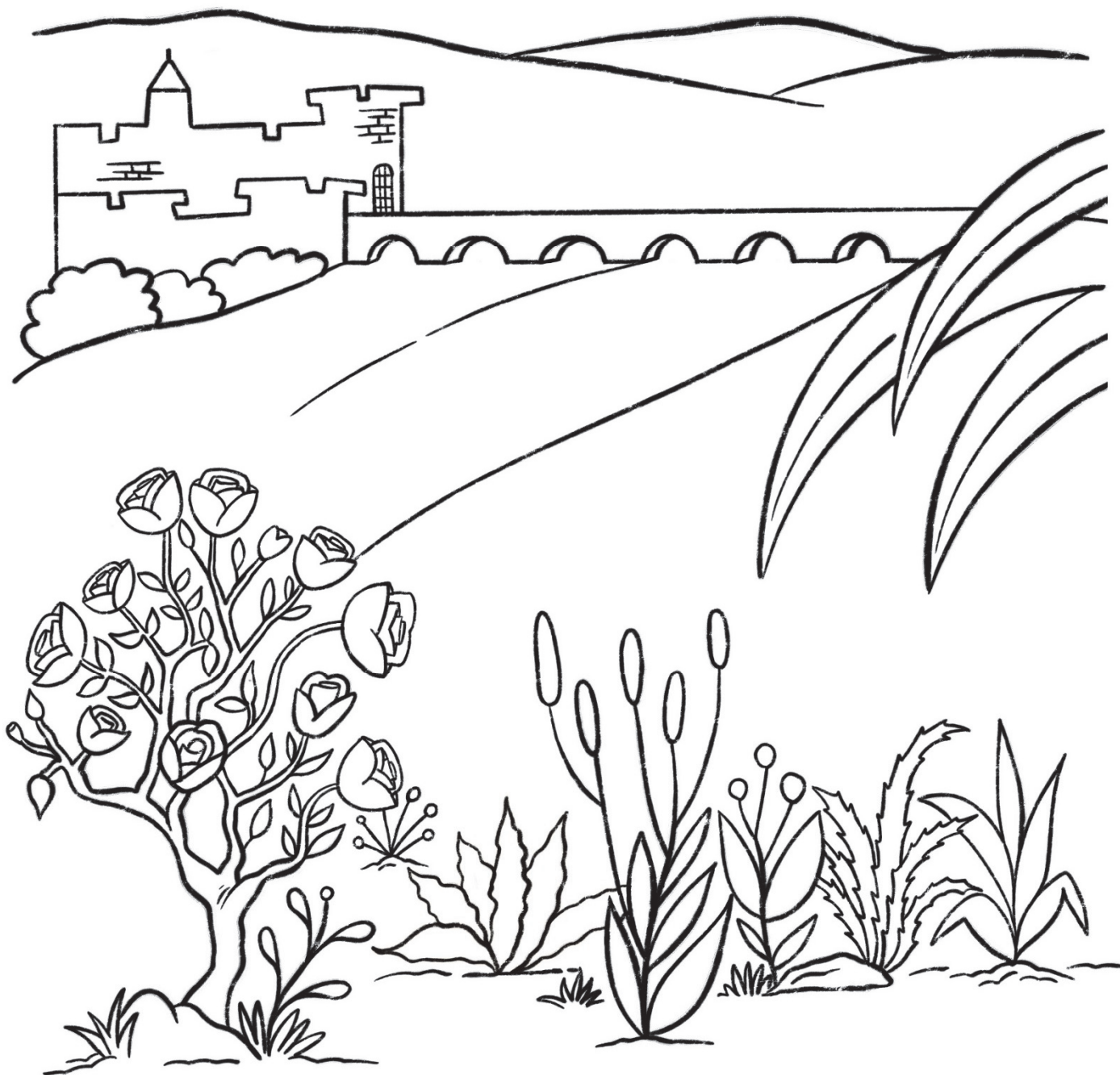
そしてわれ以外に何ものをも^{もと}求むるな。



おお どりよく いふく せいそう
大いなる努力という衣服で盛装し、
たいぎょう ほうし ちゅうじつ さいわ
この大業へ奉仕するために立ち上がった忠実なる者は幸いなり。



まこと
誠に、神は忍耐強く耐えるものの報酬をいや増し給う。



なんじ しゅ たいぎょう かっこふどう つづ ち い さいこう すうこう
汝の主の大業に確固不動であり続けるならば、 汝の地位は最高に崇高なものとなろう。

参考文献

1. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p. 206
2. 同上、p. 209
1. バハオラ、ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、樂園の言葉
2. バハオラ、ショーギ・エフェンディ著「神の正義の到来」にて引用
3. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、ベシャラトの書簡
4. バハオラ、「かくされたる言葉」、アラビア編、2
5. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、アシュレ・コレ・ヘール(知恵の書)
6. From a Tablet of ‘Abdu’l - Bahá. (authorized translation)
7. Ibid.
8. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá* (Wilmette: Bahá’í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 12.1, p. 42.
9. バハオラ、「落穂集」、139
10. アブドル・バハ、ショーギ・エフェンディ著「神の正義の到来」によって引用
11. アブドル・バハ、編纂書「信頼」
12. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.207
13. 同上、p.209
14. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、知恵の書簡
15. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、アシュレ・コレ・ヘール(知恵の書)

16. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 206.13, p. 357.
17. *Ibid.*, no. 199.6, pp. 334–35.
18. From a talk given on 1 July 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), par. 1, p. 304.
19. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 237.5, p. 442; また、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.339
20. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 3 September 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 29, p. 441.
21. *The Tabernacle of Unity: Bahá'u'lláh's Responses to Mánikchí Şáhib and Other Writings* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2006), no. 5.7, p. 74.
22. *Days of Remembrance: Selections from the Writings of Bahá'u'lláh for Bahá'í Holy Days* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2016), no. 42.8, pp. 209–10.
23. アブドル・バハ、「パリ講話集」、1911年11月22日の講話, no. 35.2
24. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 16.5, pp. 51–52.
25. *The Summons of the Lord of Hosts: Tablets of Bahá'u'lláh* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2006), no. 5.51, p. 301.
26. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、タラザトの書簡(飾り)
27. *The Summons of the Lord of Hosts*, no. 3.17, p. 249.
28. アブドル・バハ、「万国平和の普及」、1912年5月5日の講話
29. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.19
30. バハオラ、「バハイ聖句集」(2021年発行)、p.1

31. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、カラマテ・フェルドフィエ(楽園の言葉)
32. 「落穂集」、82 第三段落
33. 同上、5 第二段落
34. アブドル・バハ、「聖なる文明の秘訣」
35. 「かくされたる言葉」、アラビア編、70
36. 「落穂集」、129 第二段落
37. 同上、139 第四段落
38. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 23 April 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 5, p. 69.
39. 「落穂集」、125 第三段落
40. 同上、15 第一段落
41. アブドル・バハ、「万国平和の普及」、1912年5月5日の講話
42. アブドル・バハ、「万国平和の普及」、1912年12月2日の講話
43. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、カラマテ・フェルドフィエ(楽園の言葉)
44. Bahá’u’lláh, *Epistle to the Son of the Wolf* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1988, 2016 printing), p. 23.
45. バハオラ、編纂書「信頼」
46. ‘Abdu’l-Bahá, in “Bahá’í Prayers and Tablets for Children: A Compilation Prepared by the Research Department of the Universal House of Justice”, no. 11.
47. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.216

48. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 14 April 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 9, p. 17.
49. *Abdul Baha on Divine Philosophy* (Boston: The Tudor Press, 1918), pp. 41–42.
50. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 35.8, p. 104.
51. Ibid., no. 7.4, p. 33.
52. 「落穂集」、121 第六段落
53. 同上、66 第六段落
54. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、アシュレ・コレ・ヘール(知恵の書)
55. Bahá’u’lláh, in *The Bahá’í World: Volume One, 1925–1926* (Wilmette: Bahá’í Publishing Trust, 1926, 1980 printing), p. 42.
56. 「かくされたる言葉」、アラビア編、40
57. 同上、ペルシャ編、50
58. From a Tablet of ‘Abdu’l-Bahá. (authorized translation)
59. 「落穂集」、146 第一段落
60. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 1.7, p. 8.
61. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 12 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 8, p. 166.
62. アブドル・バハ、「パリ講話集」、1911年10月16, 17日の講話, no. 1.7
63. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p. 31
64. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.97

65. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 179.1, p. 285.
66. From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 10 November 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 8, p. 599.
67. 「落穂集」、153 第一段落
68. 「かくされたる言葉」、ペルシャ編、21
69. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 178.1, p. 284.
70. アブドル・バハ、「パリ講話集」、1911年11月21日の講話, no. 34.8
71. バハオラ、編纂書「信頼」
72. 同上
73. 同上
74. Bahá'u'lláh, in “Guidelines for Teaching”, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice, published in *The Compilation of Compilations*, vol. 2, no. 1898, p. 293.
75. 「落穂集」、15 第六段落
76. *The Summons of the Lord of Hosts*, no. 1.145, pp. 114–15.
77. *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.22, p. 21.
78. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.16
79. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.208
80. From a Tablet of 'Abdu'l-Bahá. (authorized translation)
81. バハオラ、「アグダスの書」 70段落

82. アブドル・バハ、「パリ講話集」、1911年11月23日の講話、no.36.9
83. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 12 April 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 2, p. 10.
84. *The Tabernacle of Unity*, no. 3.16, p. 64.
85. *Selections from the Writings of ‘Abdu’l-Bahá*, no. 141.4, p. 228.
86. Ibid., no. 1.4, p. 6.
87. 「かくされたる言葉」、アラビア編、48
88. 「落穂集」、66 第十一段落
89. *The Summons of the Lord of Hosts*, no. 2.30, p. 229.
90. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、証明の書簡
91. 「落穂集」、134 第一段落
92. 同上、161 第一段落
93. 同上、143 第一段落
94. バハオラ、「確信の書」 146段落
95. From a talk given by ‘Abdu’l-Bahá on 23 November 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, par. 4, p. 632.
96. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.209
97. 「かくされたる言葉」、アラビア編、1
98. 「落穂集」、118 第一段落
99. 「かくされたる言葉」、ペルシャ編、3

100. アブドル・バハ、ショーギ・エフェンディ著「神の正義の到来」によって引用
101. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p. 209
102. 「かくされたる言葉」、ペルシャ編、49
103. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、カラマテ・フェルドフィエ(楽園の言葉)
104. 「かくされたる言葉」、アラビア編、36
105. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 225.30, p. 407.
106. バハオラ、「バハイ聖句集」(2021年発行)、p.1
107. 「かくされたる言葉」、アラビア編、42
108. *Tablets of Abdul-Baha Abbas* (New York: Bahá'í Publishing Committee, 1915, 1940 printing), vol. 2, p. 483. (authorized translation)
109. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、ローヘ・ヒクマット(英知の書簡)
110. 「落穂集」、136 第六段落
111. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p. 216
112. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 138.1, p. 220.
113. *The Summons of the Lord of Hosts*, no. 1.119, p. 93.
114. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、アシュレ・コレ・ヘール(知恵の書)
115. 「落穂集」、156 第一段落
116. バハオラ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.97
117. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、アシュレ・コレ・ヘール(知恵の書)

- 118. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá*, no. 178.1, p. 284.
- 119. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、タラザトの書簡(飾り)
- 120. From a Tablet of Bahá'u'lláh. (authorized translation)
- 121. アブドル・バハ、「バハイ 祈りの書」(2015年版)、p.208
- 122. 「かくされたる言葉」、アラビア編、11
- 123. ケタベ・アグダス後に啓示された書簡、*Tablets of Bahá'u'lláh Revealed after the Kitáb-i-Aqdas*, no. 17, p. 257.
- 124. 「落穂集」、66 第十段落
- 125. 同上、115 第十三段落